

芸術新潮

GEIJUTSU SHINCHO

4

1995

特集

幻の責め絵師

伊藤晴雨

責め苛まれる女性を、終生描きつづけた

伝説の「責め絵師」の全画業!!





Greek Bronze Statuette of Cerberus 5th Century B.C. Height:7.5cm Length:8.5cm



Hiro Horiuchi Inc.

1F Chiyoda Bldg. 3Chome 7-14 Kyobashi Chuo-Ku Tokyo 104 Tel.03-3535-5640 Fax.03-3535-5654



縛られたモデル——晴雨の画室にて
昭和25年頃 撮影：渡辺武一

特集

幻の責め絵師

伊藤晴雨

希代の責め絵師といわれた晴雨だが、実は江戸風俗考証の描るぎない専門家でもあった新聞記者として小説挿絵や演劇評に筆を揮い、そのいっぽうで新国劇の舞台装置にも手を染めた幅広い活動の全貌を、数多の未公開資料がいま明かす！

江戸の行儀風俗——晴雨入魂の著作「いろは引」
江戸と東京風俗野史 巻の四より

グラフィック 晴雨傑作選

「禁断の写真アルバム」

リアルな「責め絵」を描くため、晴雨は数多くの写真を撮影したモデルの女性を縛りあげ、はては身重の妻を逆さ吊りにして……

「責め絵師・晴雨の真面目」

晴雨といえは責め絵——とはいえ、その名品を見る機会はめったにない写生、素描、画帖から絹本まで、さまざまなスタイルの責め絵を紹介

「三市井の大雑学家」

行商人から見世物まで、晴雨は詳細な江戸の画像データベースを作りあげていた！

「晴雨の『百物語』」

一世を風靡した落語家たちのコレクションとして谷中の古刹に伝えられてきた晴雨幽霊絵の数々

初公開！ 晴雨「自画自伝」

初めて見た芝居の「責め場」に心ひかれた少年が、いかに希代の「責め絵師」になったか——絵も文も晴雨自身による「晴雨物語」

父・晴雨のこと「文伊藤 菊」

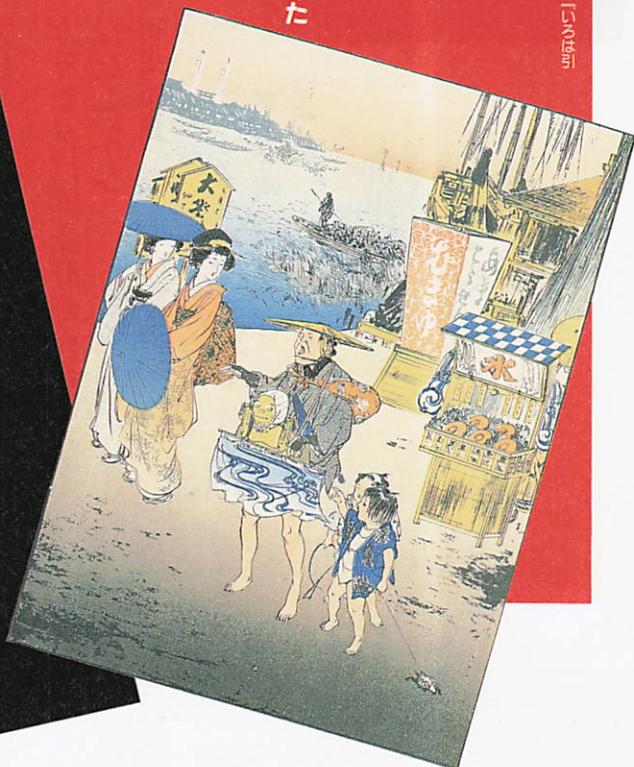
黒縄で結ばれた晴雨と私「文望月あえか」

アート・キャバレー番外編「短期連載」第二回

私の伊藤晴雨探究「文福富太郎」

奇妙な縁で晴雨絵を蒐めて35年——惹かれるいっぽうで、取り憑かれそうに怖くもあるこの画家を、初めて本気で考える！

「諸願成就」と題された晴雨デザイン帖から
福澤大館コレクション（3点とモ）



表紙.....画室の伊藤晴雨 昭和25年頃 福富太郎コレクション 撮影:渡辺武一

編集+発行人.....山川みどり

発行所.....株式会社新潮社 東京都新宿区矢来町71 郵便番号 162 振替 00140-5-808 電話.....編集部03-3266-5381 営業部03-3266-5111

デザイン.....日下潤一+大野リサ+吉田裕美+伊崎 忍+松下 睦+保田多三雄+前田成明 ロゴタイプ・デザイン.....小宮山博史

タイトル写真印字.....前田成明(表紙・目次・本文) 印刷所.....大日本印刷株式会社

ART NEWS

スーパー・アーティスト

柳瀬正夢の多忙な多忙な45年間

終戦を目前に、空襲で痛恨の死を遂げた柳瀬正夢——早熟のデビュー以来、前衛画家、グラフィックデザイナー、漫画家などなど、万能の天才として時代を忙しく駆け抜けたこの男を知りたい!

71..... 甦れ! 沖繩のきんきらキングたち

80..... ブックデザインで見渡す戦後50年

82..... あな珍しや! 酒井抱一のフローリング襖絵

84..... 言いつけ虫を封じ込めろ!!

88..... 「庚申信仰」を知っていますか?

STARBUST

94..... 日の目を見始めた皇室明治美術コレクション「明治美術再見」展・魂をハウス栽培した作間敏宏
北欧の椅子親父ハンス・J・ウェグナーのワンマンショー・大岩オスカル幸男の壁芝居・緑川俊一のいい面の皮
コマメな前衛伊藤久三郎・新種登場! アジア現代アートの今・小林正人の生れ出づる「がたち」
浮世を彫り出す森英一郎・フランク・ロイド・ライトのライト感覚

WORLD

92..... 博物館入りした!? 街角のファッション

珊瑚の生えた中国陶磁も 沈没船オークション ほか

INVITATION

92..... これから見られる展覧会案内

お薦めのCD、書籍、映画 などなど

98..... 次号予告 67

連載

白山も恥じらう加賀温泉郷

121..... 粟津温泉・山中温泉・山代温泉

粟津は泰澄大師、山中・山代は行基と、いずれもお坊さんが発見した三名湯 近頃は日本一の観音様がおわしますし、柔肌の観音様も.....



名勝・鶴仙溪に架かる総檜造りの「おのの橋」(山中温泉)

連載

104..... アーティストの「愉しい我が家」【第47回】
ガラクタに囲まれた発想工房
ジム・ダイン

南川三治郎

108..... ひらがな日本美術史【その二十一】
コミュニケーションを感じさせるもの

橋本治

「東大寺南大門」

114..... 秋の野をゆく——會津八一の生涯【第三回】
「會津屋」の系譜

工藤美代子



庚申の夜に眠ってしまうと赤鬼が来て舌を抜く!!
「庚申記」(山形県遊佐町十日町庚申講蔵)より

特集

幻の責め絵師 伊藤晴雨

希代の責め絵師といわれた晴雨だが、実は江戸風俗考証の揺るぎない専門家でもあった。新聞記者として小説挿絵や演劇評に筆を揮い、そのいっぽうで新国劇の舞台装置にも手を染めた。幅広い活動の全貌を、数多の未公開資料がいま明かす！

晴雨傑作選二

禁断の写真アルバム

曖昧な描写は許せない！リアルな「責め絵」を描くため、晴雨は数多くの写真を撮影した。モデルの女性を縛りあげ、はては身重の妻を逆さ吊りにして……。そんな「晴雨写真」が本人の知らぬ間に雑誌掲載され、物議をかもしたこともあった。以下にご紹介するのは、晩年の晴雨が打ち込んだ「責め写真」——これを晴雨が辿りついた理想の「女性美」！





画室の伊藤晴雨——モデルを縛り写生にいそむ
背後に“安達原一ツ家”図の屏風が見える。雑誌「妖奇」
昭和25年2月号の巻頭グラビア“アトリエ拝見”に掲載
された写真。福富太郎コレクション 撮影：渡辺武一

女性美は乱れ髪にあり！





老翁晴雨が演出・監督した“責め写真”連作より
昭和30年前後の撮影。縛りと髪の中の演出は晴雨が、カメラ・
アングルおよび照明は川口氏が担当したという。晴雨のたつて
の頼みでモデルとなったのは、ご覧のとおり日本髪に似合う豊
かな黒髪の女性。出来上がった写真を見た晴雨は、ことのほか
喜んだとか。3点とも伊藤菊氏提供 撮影：川口博

晴雨で写真



大 正15年、雑誌「変態資料」を手にとった読者は驚愕した。口絵に、半裸の妊婦の逆さ吊り写真が掲載されていたのである。黒髪は長く床まで垂れ、腕は後ろ手に縛られて胸には荒縄が幾重にも巻きついている。説明文には「晴雨画伯が臨月の夫人を寒中逆様に吊るして虐待している光景。恐らく本人の伊藤画伯もこれを見たら、写真の出処に驚くだろう」とある。晴雨自身がのちに語ったところによればこの写真は正10年6月の撮影。これがたまたま「変態資料」を主宰していた梅原北明の手に入り、晴雨も知らぬ間の「公刊」となったもの。雑誌が発禁となったのは、当然というべきだろう。

ともあれこの「逆さ吊り写真」、晴雨の「異端ぶり」を示すエピソードとして語られることが多いが、本人はいたって真面目。これとても「責めの実験」の一環で、月岡芳年描くところの妊婦逆さ吊りの錦絵《奥州安達がはらひとつ家の図》の女性のお腹が、大きく誇張されすぎているのではないかとの疑念をはらすための試みだった（その結果、芳年の図が写生にもとづくものではないと判ったと、晴雨はいささか得意げに語っている）。

リアルな責め場を描くため、晴雨はたびたびこうした「実験」を繰り返し、その観察記録を写真に残した。晴雨自身がカメラを扱うのではなく、知り合いの写真師に撮ってもらったのだが、なかでも晴雨がこだわったのは、髪の毛。美しく結いあげられた島田髷が、責めを受けて壊れていくさまに心そそられていたらしい。浮世絵春画の場合でも

「美女の急所とする所は、身体の局所にあらずして反って其顔を引き立たせる処の女の髪、それは多くの場合結髪の形にあるという事に、異論はないであろう」と晴雨は説く「新版 美人乱舞」。乱れ髪の毛を描き足すほどの入れ込みようである。「私の趣味として、女の責め場は必ず日本髪であるということであ

「石真」晩年の晴雨が熱中した「写真アルバム」写真を貼り込んだ台紙の余白に、丹念に絵や句を添える。伊藤菊氏提供



「晴雨写真」の数々
晴雨自身が写っているものや、晴雨の著作に掲載された写真もあるが、右のすべてに晴雨が関与しているかどうかは不明。福富太郎コレクション

る。日本髪のうちに、とくに島田髷のかたちを喜ぶものである。断髪時代の女性に日本髪はできない相談であるから地髪をもちうることにしている。したがって一人の女性をえれば、一個の地髪を新たに注文して製作させることにしている。髪製作には、斯界の第一人者として有名な、人形町の田島宇太郎氏をわずらわしている。髪製作費は一万数千円を要し結髪料金七八百円以内、これを一回の写真撮影についでやすのであるから一葉の写真といえどもいたずらに写せない。そのうえに女の衣裳やら、責道具の製作費等、仔細に計算すれば相当の額に達するのであるが、そうした道程をへて撮影した写真といえども必ずしも全部成功とはいえない。ある時はレンズの外に急所が飛び出したり、雪責めの場合などハレーションを起したりして、多年の熟練をもつてしてなおかつ十に一の物を得るに難いのである。／＼さしてしまえば何がためにかかる無用な仕事に没頭しているかと反問されると、私は沈黙をまゐるよりほかはないのである」(『今昔愚談』)。

戦前、かほどに苦労して撮影した写真原版の一切を、晴雨は戦災で失ってしまったのだが、プリントの一部はマニアの間に流れていて、これが複製され、今も時おり古書展などに登場する。「伊藤晴雨写真一括〇枚」などと題されているが、そのすべてが晴雨オリジナルかどうかは保証の限りではない。晴雨とは無縁の責め写真で水増しされていたり、なかには尻ばしよりをしたニセ晴雨が登場する写真もあるのだとか。

今回ご紹介したのは昭和30年前後、晴雨自身の演出のもと、川口博氏が数回にわたり撮影したもの。よほど出来ばえが気に入ったのか、晴雨は私家版の写真アルバムを編集しようと試みてもいる「石真」。試し焼きの写真にトリミングを指定したり、自家用箋に気に入りの写真を貼って絵を描き加えてみたり、晩年の晴雨の、いかにも楽しそうな様子が見えるようだ。【編集部】(以下「編」)



〔上〕撮影：川口博
〔左頁〕『美人乱舞』（昭和7年 粹古堂
書店刊）より。望月コレクション



絵で責める





乱れ髪のリアリズム、ここに極まる

責めの写真を撮ることは、晴雨にとって“実験”の意味も持っていた。浮世絵春画の乱れ髪を有り得ない“絵空事”と批判したのも、そうした実験を重ね、リアルな乱れ髪を描こうと腐心する晴雨ならではのことだったろう。右頁のモノクロ写真と点とも伊藤菊氏提供 撮影：川口博

[右頁] 右下は大正5年3月、神田三崎町で目撃した夫婦喧嘩直後の人妻の、ばらけた丸髻の図。左上は島田髻が壊れるさまのスケッチ。ともに『美人乱舞』より。望月コレクション

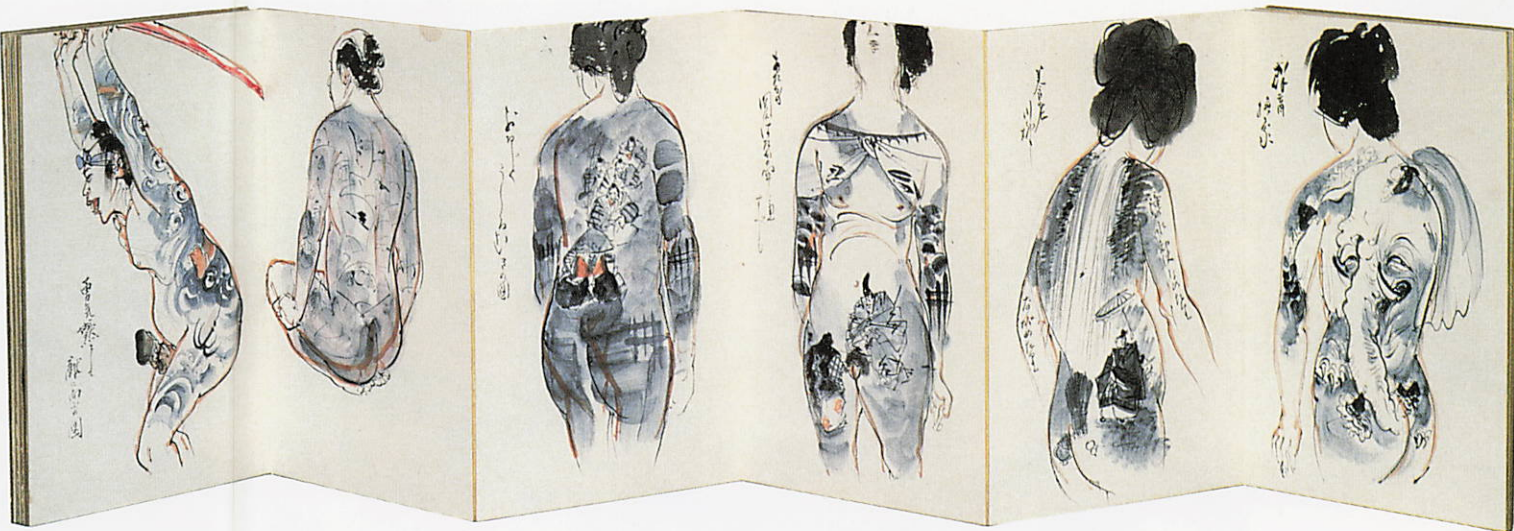
晴雨傑作選二

責め絵師・晴雨の真面目





《落城》 絹本着色 本紙129.5×42.4cm
晴雨の貴め絵には絹本に描かれた軸物も少なくない。これは
なかでも細密に描かれた一図。それにしても、こんな絵柄の
掛け軸をいったい誰が床の間に飾るというのだろうか……



責めの二面帖

この画帖のタイトルは『馬留血残』——バルチザンと読むのだろうが、字面からしてなにやら凶々しい。手早い筆で流血の責め場などをカラフルに描き、裏面にはうって変わって淡い色調の文身図が並ぶ。勸進帳の弁慶の刺青をした女の図に「あたかの関は、はだかの開（へき）女陰のことに通ずべし」と書き入れがあるのも、洒落好きの晴雨らしい。左頁は「くすり責め」「水車責め」など「責めのいろいろ」を描いたヴァリエーション集で、序文には〈余と其趣味を同じふする〉M氏のために制作したと書かれている。晴雨には『美人乱舞』や『女三十六気意』（ともに昭和7年）といった石版の責め画集があるが、そうした「量産品」では物足りない、なんとしても肉筆画を秘蔵したいという熱烈なファンの需めに応じて執筆したものだろう。浮世絵春画と同様、「密室性」の高い責め絵には、こうした画帖や絵巻こそ似つかわしい形式と考えるのだが、何を憚る必要があるとばかりに、掛軸や屏風にまで、堂々と責め絵や春画を描いてしまうあたりが、晴雨の真面目といえようか。〔編〕

「上・下」『馬留血残』——折り帖の表面は凄惨な責め場を、裏面は黒と藍色で文身ふんしんの裸形を描く。画面天地27・1cm
「左頁」『たひら祭』——全編これ責め絵ばかりの24図。序文には昭和22年の年記がある。画面天地24・1cm







《柱縛り責め》 紙本著色 画面34.0×10.3cm



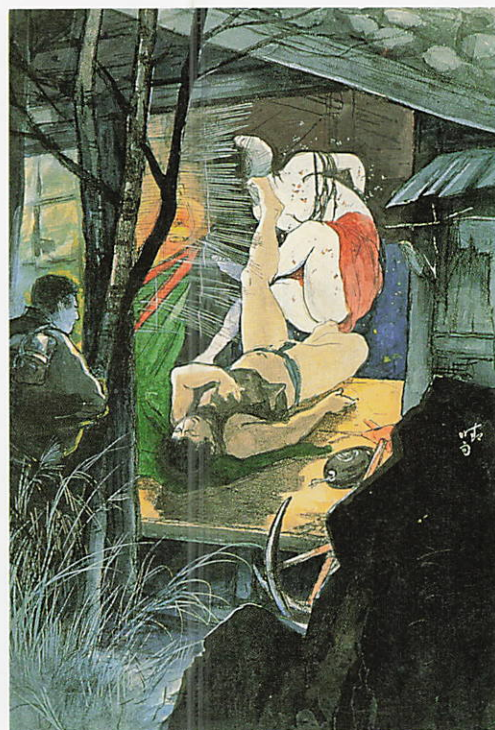
《賣め三態》 紙本著色 画面25.1×38.6cm

記者の眼で集めた責め事件

晴

雨は責め絵を描くだけでなく、「責め」に関するあらゆる情報を蒐めるコレクターでもあった。そうした専門知識は著作として披露され、たとえば『責の話』（昭和27年版）には「責め場」のある芝居の一覧表を掲げている。新派劇については「作者・題名・主演役者・上演劇場名」を、旧派芝居については「題名・責められ役の役名・責めの種類」を記載した丁寧なもの。加えて巻末には、責め絵を描いた絵師一覧を、略歴つきで収録。「責めの百科事典」でも目論んでいたのではないかと思えるほどだ。『性犯罪と私刑』（昭和27年）では、蒐集した「責めの実話」を多数紹介しているが、この頁の3図はいずれもそうした、いわば「実録もの」の責め絵である。

上図は新派の伊井蓉峰門下だった樋口角兵衛という役者の目撃譚。明治40年ごろ、巡業先の足尾銅山で夜の散歩に出たところ、夫婦喧嘩に出くわした。



家の中を覗くと（こはそも如何に一人の女が髪を振り乱して柱に縛られ、亭主は携えて居た酒の徳利から焼酎を口に含み女の身体に吹きかけて居るのだ。……猿轡をはめられ、夏の事で裸体になされて酒の香りのする女の皮膚には無数の蚊が一杯にたかって居るのであるから、女はウーンウーンと微かな呻り声をあげて、無残な表情をしてもだえ苦んで居る有様は身の毛もよだつ許り）。踏み込んで助けようにも相手が巨漢の鉦夫、しかも酔っているのでは分が悪いと、そのまま帰って寝てしまった。（翌朝目が覚めて見ると大騒ぎが初まって居る。それは昨夜見た女が蚊に喰われて悶死してしまったのである。猿轡の為に呼吸がとまったのかどうかは別として恐ろしい形相をして悶死して居る。四辺は血を吸った蚊が一杯に散乱して動けなくなっているのだ）。行方をくらました亭主は、翌日酔って帰ったところを逮捕されたとか。



中段は江戸時代の姦通者への「私刑」。（姦通事件の制裁も町内の輿論で決定した事がある。姦夫が猾く本夫が善人であっても、人が好過ぎて間拔けたという評判であった場合には、次の様な裁決方法をとるので、之れは喧嘩両成敗の亜流である）。三人とも半裸、姦夫が撒いた豆を後ろを追って進む姦婦が拾い、しんがりに寝とられた本夫が「のろま」と書いた幟を持って従う。（三人連れて町内を一巡する形ちは、本人は苦痛だが観る方は面白いに違いない）。

下図は明治35年の時事ネタ（埼玉県下北足立郡春岡村大字丸ヶ崎五百三十六番地、コールテン織物工場に於て、機業家金子初五郎は、其の母まん、雇人竹沢宇吉、黒須元次郎、本宮清次郎と共に、工女を虐待した」という事件の報告で、工女たちが受けた「責め」の方法が細かに調査してある。規定の分量を織れなかった二人の工女に対し（再三二人を真裸体として、糸框を背後に縛り付け、又糸框を両女の股倉に挟んで寒中真つ裸として佇立せしめ、苦しさには堪えずして糸框を落とすと、又之れを挟ませて苦痛を与え、其の上散々に殴打を加えた」という。〔編〕

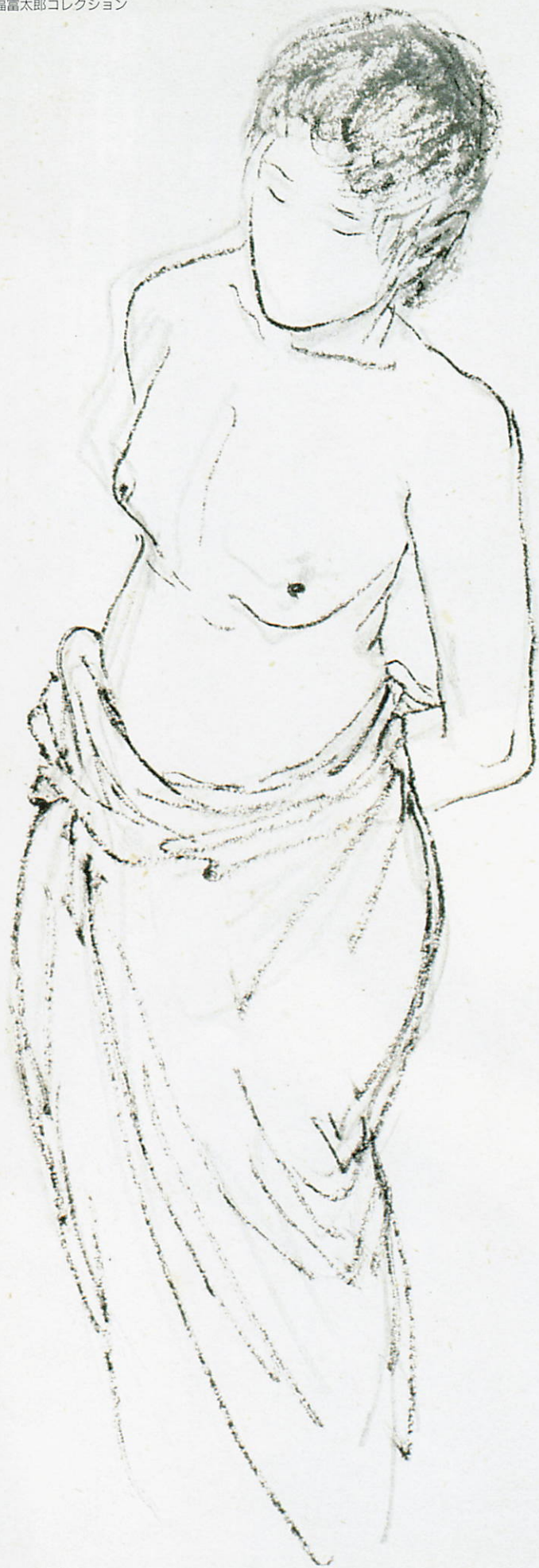
〔上〕酔って妻を責め殺した鉦夫 雑誌挿絵の原画

紙、水彩 37.5×25.5cm 福富太郎コレクション(中も)

〔中〕姦夫姦婦の引き廻し 雑誌挿絵の原画 紙、水彩 36.9×25.5cm

〔下〕糸框の責め 織物工女の虐待 石版 25.0×17.0cm 伊藤菊氏提供

《後ろ手に縛られた裸婦 二態》
『諸願成就』と題されたスケッチ帖より
福富太郎コレクション



初公開!

晴雨“自画自伝”

初めて見た芝居の“責め場”に心ひかれた少年が、いかに希代の
“責め絵師”となったか——絵も文も晴雨自身による“晴雨物語”

兄弟なかよく“二人羽織”
晴雨と4歳違いの弟・彫刻家の権堂(けいどう)はとても仲がよかった。そんな
2人の楽しいスナップ。とくに晴雨の
“兄貴顔”がいい。伊藤菊氏提供

無垢の少年時代

伊

藤晴雨は明治十五年浅草で生れた。本名は一。昭和三十六年に亡くなるまで、こんな人生ってあるだろうかため息がでるくらい豊富なエピソードを生きた人である。晴雨の伝記は、だからとにかく面白い。ここに抜粋して紹介するのは、そんな晴雨が昭和二十年代の初めにみずから語り、描いた「自画自伝」。おそらく当時のパトロンに求められ、筆をとったものだろうという。

さて、それではへ晴雨自叙伝の序ま〜から

へ一才、二才、三才と何も覚えずに五才の春を迎えました。新井白石は三才にして乳母の衣類の柄を覚えたといい。それは天才僕はボン才。盆栽は温室に育ち、吾輩は寒室に育つ。親の貧乏子にたり、物心のついた時は已に貧乏神が私の家のまわりを取りまいて居たのかも知れません。父は朝

暗い内からオシギ(押木)の前へ胡座をかいてコツコツと鑿の音をさせて居ました。まだ電燈のない明治廿年頃の事です。父は江戸時代と云った様な一切の生活でた。母や祖母は旧態依然として江戸時代の油煙にくすぶった、一年に盆と暮と只ツタ二度しか張りかえない行燈の下で種彦作の田舎源氏の絵解きをして呉れたりなどして居ました。私は子供の事です。早く寝かされるので、父の起きると同時に眼をさまして父の仕事の側に居て父の仕事のたがねの動くのを不思議相に眺めて居ました。父は私が長男である所為でもありません。孤燈の下に悄然として座って居る私を慰めるというよりも

「神童と悪童、文武兼備の少年」だった

少年・晴雨は神童の誉れ高く、芝・増上寺大僧正の前で見事な龍の絵を描き、「ぜび僧侶に」と請われたほど。彫刻師だった父の(置ボロボロ)の仕事場で、夜明け前に仕事をすする父親に絵を描いてもらうのが一番の楽しみだったという。(母は兄を連れて質屋に行く)と寂しい影を描いたように家は貧しかったが、いずれも伊藤晴雨「自画自伝」より(以下*印) 福富太郎コレクション



〔下〕“わんぱく時代”の終り

13歳で彫刻師・内藤静宗のもとへ丁稚奉公に出された晴雨。
母親は〈細々と注意を与えて呉れたが、こっちは……案外呑
気に構えてイソイソとして内藤方へ赴いたのであった〉*

遊ばせるという気持ちなんですよ、仕事の手をやめて座右にある半紙……にいろいろの絵……桜の花やたしか狸の舞の図をかって「ヨーシン」という画の具で彩色をして呉れたのをいまだに忘れる事が出来ません……私は何が一番其当時楽しみだといって此時間程楽しみな事はなかったのです……夜の明けるのが嫌いだといったら皆さんはお笑いになるでしょう。イヤ誰だって笑わぬものは無いでしょうと思ひます。夜の明けるのがイヤなのです。夜が明けると父はランプをフツと消して私に絵をかくてくれるのをやめて了うのです。

夜が明けたからイヤだア

ト泣いたんです。皆んな驚きましたね。イヤ驚くのが当り前です。地球が自転して夜が明けるのをイヤだと云った処で仕方がありませんが、言語を適切に使う事を知らない五才の私は満身の智慧を搾って父に云った言葉が即ち「夜が明けたからイヤだア」。此時の「夜が明けたからイヤだア」は私の一家に疑問となつて今日迄話題になつて居ますが、誰も私のホントウの心持ちを知つて呉れるものはありませんでした。

そのころ近所の稲荷の社に奉納の額をかけたのが評判になり、晴雨は芝・増上寺の大僧正と呼ばれて羽織袴姿、人力車に乗つて寺へいく。当時の大僧正はのちに智恩院の大僧正となつた高僧で、その前度度胸よく龍の絵を描いた晴雨を気に入り、後日わざわざ使者を立てて「僧侶にせよ、必ず后来名を為すであらう。悪い様にはせぬから」と晴雨の父に申し入れた。へ嗚呼実にアア実に遺憾千万にも父はそんなに将来のある子供を坊主にするのは勿体ない(?)と思つてキツパリお断りして「了つた」という咄しで……ああ何という馬鹿な

事をして「了つた」んですよ。私がホントウに勉強して智恩院辺りの大僧正になつて居たとしたら、徒に丹をすすり青をなめて芝居の看板や舞台装置や新聞雑誌の挿画なんか浮身をやつする事無く天晴れ千古の名宗教家となつて余技に絵をかくて居られた事でしようにと、今更愚痴を云つた処で父を恨んだ処で始まりません。

また隣が踊りの師匠（モグリ）の家で、時々遊びに



いくうちに、晴雨は「踊り」を覚えてしまふ。へ其踊りッてえのが尻振り踊り。「あれかいナあれかいナ、九郎一ほうがんよしつねエーサマアが、静御前をだいて寝てエー、夜ん堀り夜ん堀り夜夜ンボリ」という奴です。其あれかいナあれかいナの前が「キュッキュツと立ったが、ありやなんじゃ」という処の所作が、こんな形ちをするんですから、誠にハヤ物騒千萬なヒワイ極まる踊りで……或時、祖母が特別の重態で父は

⑩の都合が悪くムシヤクシヤして居る時……お父ちゃん、坊踊つて見せるよと云い乍ら、例の「ツ覚えの」キユッキュツとたたが「アリヤ何じゃ」をおなまに踊つたんだから堪りません。六才の天才がキユッキュツと立たれては困ります。父はキモをつぶしてワアと云つて呆れちまつた。而してもうお隣へ遊びに行く事は相成らん、踊り見る事相成らん……と言ひ渡されちまつた。其当座は訳判らずに居ましたが、大きくなつてからやつと其訳が判つたんですが、時已に遅く、天才は凡童と化し、蛟龍畢竟主龍と化して了つて遂に昇天の機を逸してしまいました。嗚呼後世恐る可く豪勢踊る可しであります。

明治二十四年、十歳の晴雨は母につられ初めて芝居を見るのだが、これが「色気」のつき始め……其吉田御殿奥庭の責場で鬼丸の竹尾という侍女が責められる場面は凄婉其物であつた。當時は前述の如く電燈の照明が無いので真ッ白に塗つた美しい化粧、それはたしかに徳川時代の鉛を中心にした旧式の白粉で人形の様に白一色に塗りツブした化粧、それに漆の様に一糸乱れずに結い上げた高島田の髷が、意地の悪い御殿女中の二人に左右から責められる度に島田の根が段々にゆるんで後れ毛が頬にかかり髷がバラバラになる。其時間が大変だ。今の様に二ツ三ツ打つと直グ引っくり返つて了うのでは無くて真に自然に髷が壊れる。

グズグズに壊れるのを打つて打つて打ちのめす。氣絶をすると氣附けを与えて又気がつくつと打つ。竹尾は口惜しさの余り悪女中の袖を歯で噛むと之れを振り切つて又打つ。其時間が凡三十分余もあつたらうか。其時私は子供心にも高島田の美しさと女の責場の美しさがツクツク頭脳に浸み込んで了つて今日に及び、後日責場の研究と迄発展して了つたのであります。本所の象牙彫刻師・内藤静宗のもとへ十年年期の奉



お父ちゃん、坊踊って見せるよ 〈九郎ホーガンよしつねが 静ア御前をだいてねて キュツ
キユト立ったが ありやなんじゃ〉と隣家で覚えた卑猥な踊りで両親の肝をつぶす晴雨。*

奉公先の晴雨

[右]内藤静宗の工房で。(小生は仕事ヲサセレバ一番速ク……)*
[下]〈台所の釜の下をたきつけ乍ら画を習う処〉*



象形彫師
内藤静宗氏
奉公の徒
當時一月、終月
金銭の薄給
七月十五日、十一月
二十四日、終月
右金三十兩、終月
粗食に當り、不事
を爲す

公に出たのは晴雨十三歳の秋である。名前も本名の一では小僧らしくないと、進んでよしという意味の進吉に。街は日清戦争の大勝利に沸き返り、毎日のように号外の声。絵草紙屋には戦争画ばかりで、晴雨も乏しい小遣銭で筆や絵具を買い、店先で見たそれらの絵を模写して喜んで居た。他の徒弟は私の先輩の兄弟子共は一日の課程を畢ると腕押しや相撲などを取るやら、仲には夜店をホツつき歩いて居るのに、私一人五分芯のランプに独りポツンと絵斗りかいて居るんだから外の人々と調和しそうな筈はないのである。当初は仕事場へ座るより台所仕事、へ朝の七時から晩十時迄使われて居た……飯炊きと雑巾がけ、ランプ掃除に焼芋の買出し……夜は日中の疲れが出て妻君……の肩を揉み乍ら小便をする小僧など珍らしくない。使う方も使われる方も、双方手のかかる事夥たしい。其の中で私だけは比較的優遇された。おかみさんに新聞を読んで聞かせるのが私の役、主人の手紙の代筆をするのが私の役、近所の葬式へは私が主人の代りに行く……これ

あつても子には子の性能がある。親が彫刻師であつても子には子の性能がある。之を考えずに犬の兎を捨てる様に放り出された私はイヤでイヤで堪らない程イヤな彫刻刀を握って丁稚奉公をして居るんだ。甘く行く筈は無い。私は毎日の仕事に不平をいだいて自分の好きな道を自習して行こうと企てたのである。絵を描くのに必要なのは何より読書である、そう考えた晴雨は朝(家)中中の飯……を焚き終つてから隣り近所の家の台所へ廻つて黙つて手桶を持ち出して井戸水を汲んでやる。その代りに各家の蔵書を借りて読む

が兄弟弟子の反感嫉妬の最大原因である。他人に起されるのが大嫌いな晴雨は誰よりも早く起きて釜を焚いた。へそれから其火の明りを借りて其前て絵を習う。習うといつても無論、誰を師匠にするのでも無い。当時、師匠の家では東京朝日新聞を購読して居たから、年英の挿画を唯一の標準として模写して私は楽しんで居た。勿論将来専門家として立とうなんて考えは毛頭無く、唯絵を描く楽しみ以外に何の目的がある訳でも無く、手に随つて物の形が紙の上に現れるという楽しみだけである。私は天性非常に不器用である。然るに私の父は私を最も手先の器用を必要とする彫刻師にしようとした。これが大間違いの根本である。吾れ面白の人困らせてである。親が彫刻師であつても子には子の性能がある。之を考えずに犬の兎



小生の如きは
無の筆を
筆を習ふ
此は乃ち西條辰河氏
一階 翁の二

のである。へ今から考えると馬鹿々々しい事であるが、貧しい当時の私としてはそれ以外の方法は無かった。明治三十年六月、母親が四十二歳で亡くなる。(私は母が死んだ翌月、弟と共に江の島鎌倉に遊んだ。それは七月の敷入りの当日である。私は始めて宇宙の大を知った。旅行の楽しさを知ったと同時にムクムクと心に芽を吹いたそれは嘗つて或る書物で読んだ冒険小説や探見記である。ロビンソンやクルソー迄では無いとしても日本全国無銭旅行といった風の譚を愛読した事がある。之を实地に試みたらどんなに面白からうと思つた。母を失つた悲しみと朋友の無い淋しさと奉公の不愉快とが一塊りとなつて半ばヤケが手伝つて私は主人の家を飛び出して京都へ行く決心をしたのである。そして八月十日の夜、私は四五枚の衣類と五十何銭の小遣いをもつて夜の九時少し過ぎに相生町の主人の家を飛び出してつた。とはいへ五十三次を乞食をし乍ら京都へ行く程の勇氣は無い。無い少年の智慧を搾つたのが汽車の只乗りの一策あるのみである。

[右] 母の死と奉公の不愉快から〈半ばヤケが手伝って〉内藤家を飛び出し京都へいく。〈炎天下空腹をこらえて京都市中ヲウロツク〉の図。*
 [左下] 〈一月二日 一文無しにつき宝船売りとなる 貧乏ノ極 シャツ一枚 拾一枚にて冬ヲ越ス〉——晴雨、18歳の冬。*



新橋から品川迄四銭で切符を買って午後十時三十分の京都行の列車に乗り込^こんだ。箱根を越すころには白河夜船の乗客を横目にへ刃物を用意して居たら隣席の人のカバンを切り破って中の品物を盗んだら旅費が出来るんだなどと空想に耽^かつて居た。大津で車掌に現^あつかり下車。古道具屋で衣類を売り、ようやくへ其夜八時頃京都の三条橋の橋板を踏む事が出来た時は空腹も何も忘れて四条河原の夕涼みの光景をウツトリと見とれて居た……兩岸の床几にボンボリの点火して舞妓や芸妓のさんざめく光景は少年の心をワクワクさせた。絵に見る東山や新橋極も夢中で歩いて居た。しかしへ夜が更けるにつけて空腹は益あたまを持ち上げて来る……京都の町を当なしに歩いては人家の軒に眠らんとすれば往来の人々に怪まれ、円山公園のロハ台(注ベンチ)に休めば京都名物のブドと蟻に刺されて泣き相になる。アア来なければよかったとモウ弱い音を吹きたくなくなってしまった。空き腹を抱えて訪ねた口入屋でやっと雇い主を見つけた晴雨はへ雇われれば二日間米粒一ト粒も腹中に無い私がめしが必ず喰えるという嬉しさで……今にも倒れ相になる草臥足を曳^ひずって四条通烏丸西入ル万栄亭という割烹店へ赴^{おもむ}くが、その喜びもへ束の間で一步家の



中に這入^{はい}って驚いた。ウンと斗^{ばか}りに目を見張^びって悔^くりした。それは実に其日が大掃除の日で、家中引^ひツくり返る様に人々が立働いて居るのである。私は困^こった。実に困^こった。いくら気張^きつても空き腹はグーグーと音を立てて鳴るのである。茲^{こゝ}で「今度来た奴は働きが悪い」と思われたら大変である。どうしたら身体を余り動かさずに大に働くように見える方法は無いものかと考えた……ある！ ある！ これだこれだと斗^{ばか}りに私は車井戸の綱に縋^{すが}りついた。大掃除の井戸端は実に忙しい。ノベツ幕なしに水が必要であるから私はあぶら汗を流して井戸のつるべを上^あげ下^{くだ}げて居る……何度目か眩^まり相にな^なつたか判らない。今日になって思い出してもよく我慢が出来たものだと思^{おも}ひ居る——京都では料理屋の出前持ちから印刷職工の見習い、そのうち病気になるって東京へ逆戻り。へ画家になる目的は見事に外れちま^まつたが、此時分の京都で見聞した事が後年私が新聞の挿画画家として立つ上^うにどんなに役立^{やく}つたか判らなかつた。

帰京後の晴雨は浅草の二階家でへブラブラ写生など



してくすぶっていたが、知合^{ちが}つた巡査につれられ向柳原の柳盛座を訪ねてみるとへ大好きな芝居の内幕の面白さに毎日の様に楽屋へ入^いり浸^ひりにな^なつて、終には皆ンナと一シヨにな^なつて吉原へ行^いつたり酒を呑^のみに行^いつたり天晴れ一人前の道楽者にな^なつちま^まつた。そのうち芝居の絵看板を頼まれる。へト口に芝居の看板なんかと云^いつちやえ何でも無いようだが、看板は芝居の生命であり芝居が入^いるか入^いらないかは看板が与^よつて力があるのである。それもへ下^{くだ}タがき無しに描^えくのであるからチト失礼乍らそんじよそこらの掛物講の画会専門の文展万能の大家先生なんかは手もつけられない程至難なもので昭和の現代でも満足に芝居の看板のかける人は二三人しか無い位である。之れを鵜呑^うみにして引受けた私は実に跡で血の浸^ひむ程の苦心をした。そんなこんなで画^えく度に失敗を重ねて小言斗^とり喰^くつて居たが、この失敗が物を言^いつて後に新聞の挿画をかく為^{ため}に役に立^たつたけれども其時の苦しさを今でもゾツとする程である。

[下]明治40年、26歳の晴雨は毎夕新聞社に挿絵画家として入社する。下は連載読物「花柳驕女伝」(?)の挿絵原画。晴雨は雇人を殺したものと新橋の芸妓・花井お梅(中央)と、彼女の出獄後明治39年に会い、身の上話を聞いたという。望月コレクション

新聞記者となる

晴

雨は二十六歳で新聞記者になる。いよいよ社会人生活のはじまり——小林清親が入獄した事件は、今はあまり知って居る人はあるまいが明治四十年の頃は有名な事件で、清親それ自身は全く青天白日であるのだが、清親の妻君が下谷署の星野という刑事と共謀して某名士を強迫したという事件であった。其

星野君の紹介で明治四十年九月廿四日、東京日本橋区蛸殻町の毎夕新聞社へ入社した。これが私の新聞記者生活の第一歩である。

当時の新聞の挿絵はタテ三寸六分ヨコ四寸二分が定寸である。一枚の画料二十銭であった。其他に小さな挿絵を一枚、外にカットや三面記事のコマ絵はおまけにして置いて一ヶ月の給料金九円也。これが最初の挿絵画家生活の出発点であるが、ここで私は一生忘れられない試練を受けた……始めて描いた画は有川秋萍作「妖魔島」で南洋を舞台にして居る。第一回は「意地の悪る相な未亡人が俤に乗って鎌倉の田圃道を往く」という作者の指定であるが、私はまだ人力車をかいた事がない。勿論他人のかいた物なんか見て書く事は出来ない。止むを得ず附近の人力車停留場に行つて客待ちの車夫に十銭やつてモデルになつて貰ひやつとの思いで描き上げた……でもどうやらかき上げて作者に見せると此車は馳けて居る様に見えないと云われた。それも其咎だ。廻つて居る車の歯の一本々がハッキリして居ては停つて居る車に見える。やシマツタとまたかき直す。其内にべ切の時間が来る。木版彫刻師の野本という男が私のかいて居る傍で催促し乍らツツ立つて居る……思い切つて一気に書き飛ばして了つたが十何枚かの書き損じて周囲の人々は私の未熟の技術を笑つて居るらしい。イヤらしい丈けでは無い。たしかに笑



本版彫刻師にせかれながら、入社したての新米・晴雨は挿絵がうまく描けない。『筆がふるえる。眼がくらんで来た。モウヤケのやん八だ』と一氣に描き飛ばす。(一日一日骨を削り肉を割くの思いであつたが、此時代が私の一生を通じて一番懐かしい時代であつた)*



って居るんだ。私はモウ駄目だと思つた。万事休す。此画カキはダメだと折紙をついたら(首)は定のものである。折角入った新聞社を断られなければならぬ……私は又往年の内藤時代より

輪をかけて一生懸命になつたが腕は中々思うに委せず、素人離れのしない私の挿絵は何度か編輯局の話題に上つて何回か私の首切り問題が起つたが、幸いにして同情ある人々によつて辛うじて社員末席をけがし乍ら約三年を会社社員として送つた。

此三年間に私は別な立場を作つた。それは劇評家という職業である。当時の毎夕新聞社は編輯局の記者は僅十人に足りないもので、私が劇評を担当する事になつて最初歌舞伎座の劇評で社員からこれは黒人の劇評といつていい、本職の絵より此方が巧いなどと褒められるのか判らない讃辞を頂いて了つた。当時の劇評家には伊原青々園、水谷幻花、幸堂得知、饗庭寛村、中内蝶二、永井鳳仙、岡本綺堂、市村俗仙、石橋思案、小山内薫、鈴木春浦、三木竹二、杉廣阿弥等と幾多の名士、芸界の通人が残らずズバリと数に陣取つて居る。諸氏は皆当代の文壇の大家である。此等の人々の劇評は俳優側には多大の感激と関心を持つた事は今日の劇評家などの遠く及ばざる所である。此中に無字無経験の白面の青年伊藤静雨(当時静雨と称せり)が飛び込んで聞いた風な劇評を試みたんだから、図

う図う敷事此上無しで、当時坪内博士が或る人に向つて「静雨という劇評家は何学校の出身ですか」と聞いた相だが、跡で私は飛んだものが博士の眼に入つたと恐慌した事であつた……

毎夕在社三年、私は読売新聞に転じた。此時始めて本給十五円、俸代十円、後になつて卅円になつたが當時は清方氏が矢張在社して居た頃で、清方氏の給料が一ヶ月廿五円であつたと記憶して居る

晴雨は二十八歳で、先輩のすすめに従い見合結婚をする。しかし——妻は富籤の如しとは西洋の格言誠に能く云つたものである。私は富籤に外れた為人生之最大幸福である可き第一の結婚に失敗した。続いて第二第三と失敗を繰り返した。君笑うを止めよ。酔うて砂上に伏すの垂流に非ず。正直銘吾れ乍ら苦笑を繰り返さざるを得ない。私は余りにも先輩に撥ね過ぎたと云おうか将又人を信頼し過ぎたと云わんか、其何れにしても自我が無過ぎた女を知らな過ぎた。女房といふものを好い加減に考へて居た。否一時の好奇心で女房を貰つちまいシマッタと思つた時は既に時を失つて了つて嗚呼悲妻十年吾生涯を誤り樂しかる可き青春の夢は家庭といふ心の刑務所を作つて了つた……相手の女は當時新派の背景画家で下谷区谷中三崎町に堂々たる門戸を張つて居た玉置照信氏の妻若茂登子の妹で竹尾という、美人ではないが可愛らしい素直な女だ、君には丁度いいと思うが如何だね。先生がお眼鏡に叶つた女なら結構早速頂戴いたしましう。それでは見合いをし玉え……という風で私は一人者の気軽さ、幸堂翁と共に冬の初め谷中天王寺の銀杏が葉をスツカリ振り落した頃であつた、玉置家を訪れた。女は頭髪をいちよう返しに結つて居た。私は妙なくせて日本髪の中で島田が大好きだ。其代りという訳でもあるまいが丸髷と銀杏返しは大嫌いだ……ヘドが出る程嫌いだ。アノ髷形という紙でこしらえた丸髷の型が少し髷からハミ出して鬢附油がコテコテ光つてそれに埃が附いて居るのを見ると胸がムカムカして来る。銀杏返しも同断で髷の根に二本、八の字形に掛つた元結から毛が二

ツに別れて輪になって居る。其輪が透いて見える様な形ちの髷の女ならどんな美人でも嫌だ。此僕の大嫌いな髷の形ちをした女が私に膳を運んで来た。顔を見てやろうと思うと女は巧みに(う)下をむいて了う。又来たナと思つて見様とすると又下を向いちまう。玉置家の帰途、翁は私に氣に入つたかと聞いた。マサカ顔は見せんと云えないので、エエとナマ返事をして置いたら何の事だ、これで私の承知したという返事になつちまつて、次は黄道吉日に結婚という事に決つちまつた。私は併し決して悪い氣持ちはしなかつた……：独学の貧画生が時に遇いたりとは云え、当時一流の文壇の大家の仲人で今を時めく劇壇の背景画家の妹を妻にするのである。これが光榮でなくて何であらう。私は実に人生の春正に^{たけなわ}に^{なり}と、此時斗りは雀躍したのであつた。

自叙伝は他叙伝に非ざるを以て私は茲に耻を忍んで正直に記さねばならぬ事がある。それは私にとつて実に重大な問題であつて或は世間にもこうした例が絶無では無からうと信じるからである。私はこれより先、屢吉原へ遊びに行った。床の中でイザ戦場という場合になると肝心の武器は全く用を為さなくなつて了う。どうも不思議だと思ふものから友人に聞くのも耻かしいのでいつも帰りにはいい加減な事を云つて女にもてた様な顔をして帰つて来るのだ。結納を取り替してからは私はハツと思つた。女房が来る床へ入る、何回試みても例の通りとあつては女は驚き呆れて里へ帰るに違いない。左あつては男子一代の大耻辱此上なし。一家一門の耻さらし、友人へ顔向け出来ず、コハ如何せんと兎つおいつ思案にあまつて之を友人に語つた。イヤ



語つたというよりも相談した。友人は笑つた。ソレはいと易き事なり……私は真に耻を忍んで神田神保町の某病院の門を潜つた。院長の診察は要を得たり、曰ク、



青年・晴雨の記者時代

〈今迄の放浪生活から、新聞社へ入った。ツマリ社会的に一つの地位を得た……石にかじりついて新聞記者の地位を放れたくないというのが今の唯一の希望である。努力の外に手は無い〉と青年・晴雨は必死ではたらいた。毎夕から読売新聞に移り、挿絵と三面記事を担当、トレードマークの髷もたくわえ〈火事と聞けば一番に飛び出〉し、殺人現場の写生もする[上]。明治43年に東京を襲つた水害時は胸まで水に浸かつての取材[右上]。とにかく懸命。後年の画業もこうした見聞、修練あつてこそ？ * (2点とも)

切れば使えますという。君のは包茎というものなり切開せば完全に使用出来る可し云々と。私は即時ベットの人のとなり看護婦一人院長と共に我陰茎を真瓜の皮をむく様に切りて縫い合せガーゼで巻いて仮綱帯を施して呉れた。病院の門を出ると一物は急に其勢を増して来た。恰も母性の腹から出た胎児が風に当つて急に膨張する如く、我一物も亦急劇に其大を加えガーゼには血が少し浸み出して来た。恐らく仮縫がほころびたものであらう。自働車の民間にない頃として電車の中でズキンズキンと痛む。かと思ふと隣席に妙齡の婦人が居ると「コレカラ使える」と思うトタンにボキンと大きな音がした。それは蓋し股間の一物の糸が切れたのである。電車内の乗客は一斉に私の方を見た。音響は正に私の袴の中から出たのである。私の顔は火の様に赤くなつた……

其内に結婚の日は迫り私は遂に意を決して浅草の某割烹店で結婚式を挙げた。其夜私は新婦と共に生れて始めての新居下谷二長町の四畳半と二畳家賃一ヶ月四円五十銭の一軒立ての家へ入つた。新婦は丸髷に結つ

挿絵を描く傍らにはじめた晴雨の劇評は、幼い頃からの芝居好きと、舞台美術に着目する他にない視点で、周囲から「本職の絵より巧い」といわれたほど。
 [左]明治41年2月15日付「毎夕新聞」より。大正7年までは「静雨」と署名。
 [下]演芸記者として文壇諸名士と一座ス……夫子密に得意満面の図*

て居た。私の大嫌いな丸髷に結って居た。何故島田に結わなかったと聞くと（年して居るから髷にしると姉さんに云われた）と答えた。私はウンザリして、了った。床へ入って私は患部を見せて今夜は宣戦布告を行わざる旨を云い渡した。女は唯々諾々として二人は他人の様に寝て了った。夫婦らしくなつたのは後数日、疵の全くなおった日であつた。人生廿八才にして始めて女を知る。何という私は間抜けだろう。何という私は不幸だろう。私は今、筆を執つて茲に到る衷心より微苦笑を禁ずる能わざるものがある。女房半歳馬三月と古人は云う。真に穿ち得て妙。私は半歳後此女に不満を感じた。第一に少しも女らしい柔らかな味が無い。やさしみが無い、色が黒い、料理がマズイ、頑固な性質……

○藝苑生帖(八) (東京座)



「女教師」とつて替へ十七日より三の
 替りとして「ボト、ギス」を演ずると
 入を占
 日より
 飛入と
 新派大合同の二回目として紅緑氏作
 の歌と云ふ狂言一通り見た後を記さん
 にと云ふ武彦と云ふ若殿の若殿
 に其路順は岩瀬武彦と云ふ重蔵
 が懸船して隠岐の島の意氣守野上重蔵
 士など目立ちて見られた。(静雨)

私は自己の前途に光明を見出す事能わず悶々の極。私は全く自暴自棄の生活に陥つて了った。

家庭に恵まれざる私は勢い画道に精進せざるを得ない。糞ッ、愚妻愚婦こんな奴に我尊い肉体和精神とを蝕まれて堪るものかッ、と斗り自ら云うもチト烏合がましけれど私は道に精進したと信じる。私が今日何とか蚊とか云われ先輩後輩の人々が落伍者となり、或は転業した中に、兎にも角にも一縷の命脈を繋ぎ筆を以て生活し得るのは、此愚妻に対する奮発心に他ならずとせば愚妻或は吾業を成就したりとも云うべけんか。そはともかく事實は私に家を為もの徒事なるを覚り、私は画室を銀座弓町の某家の二階に求めた。六畳一室で私の家族は読売新聞の木版師で村瀬錦司と云う美少年であつた。私の一代記の中で最も派手な時代が此銀座時代である……

銀座時代、私の収入はやまと新聞の挿画主任、読売新聞の演芸部長兼挿画主任、東京毎夕新聞の挿画主任、博文館の演芸倶楽部と演芸画報の嘱託、劇場真砂座の絵画部主任、其他に他の依頼画があつたから、今日か



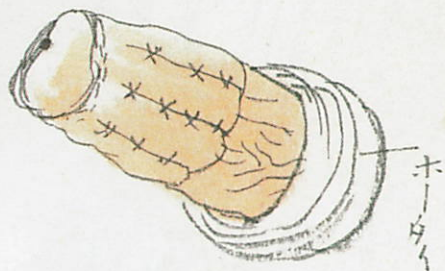
ら見れば数字の上こそ少なければ、月収約五六百円を下らず、之を全部、酒と女に使つちまつたと云えよう。若し家に良妻あり、友に賢人あらば或は私の地位は今日の如きもので無かつたかも知れないと自ばれて居るのである……其当時私は、夜より昼飲んで歩くのが好きだつた。世間の奴ア昼間働いて居やがる。智恵のねえ奴等だ。己いらア夜働いて昼遊ぶんだと斗りに斗酒敢て辞せざるの徒と悟して望んで銀座界隈を飲み廻つた。或時酒后咽喉が干いたので水が飲みたくなつたんで、弓町の往來にまだ江戸時代名残りの井戸があつて、ソコで近所のカミさん手合が夕方米をといで居る処へ「水を一杯吞まして呉れ」とイトモ横柄にやつたものらしい。先方もさる物「水は他所の方に上げられませんか。此井戸は町内専用のものですから」と来た。よし今に見ろと私は其夜近所の生薬屋から染料の青竹という絵の具とユカレットというこれも染料の絵の具をシコタマ買い、井戸の蓋の間から水底目にかけて放り込んで置いた……其翌日の朝私は結果如何と其場へ衣類を着換えて行つて見るとイヤ面白い面白い。井戸換えをやつて居るんだ。而して其井戸の廻りには近所の細君連が大勢いろんな事を云つて居る。「私の家ではお米が真っ青に染つたので氣味が悪いから二升余り捨てちまつた」「私の家でも一升七合はきだめて捨てました」なんて云つて居る。私はザマア見やがれ、水を昨日呉れりやあこんな事アしなかつたものを……と舌を出して引揚げた事があつた……

月給九円也時代から僅三年余にして月収数百円の立場を作つたがこれで謙譲を旨とし先輩後輩にニコボン主義を以て臨んだらよかつたらうと後になって思ふもののそこが凡夫也けりて、



明治四十二年
神田 十二月
神保町龍岡病院にて
院長執刀の下に忤人前ニテ

切ラレタル
形トク
如シ
亀頭
小サ
大モル



岡村
博士
龍岡

小生

晴雨ひと皮むける
結婚を控えて、積年の悩みを解決しようと
包茎手術を受ける晴雨。28歳の自画像*

[右]結婚は10年で破綻。(妻は一男一女を残して去れり 庭前雑草離々たり)*
 [下](松竹合名社に入り新派の看板ヲ画く)〈家庭に恵まれざる私は勢い画道に
 精進せざるを得ない〉—大正15年頃、晴雨45歳。*



読売新聞の三面記者中、小生が一番ウマイ弁当を喰って居た。仕出しやから一本五十銭の弁当をとって喰って居た。他の連中は干物に沢庵位のアルミニュームの手製(？)の弁当である。私のは仕出しやのである。天地月鑑の差は社内羨望の的となり……以て私に編輯局の親和を害すものという名目で私に自発的に退社を要求して来たので私は予てから衷心面白く無くなった読売新聞を退いて了った……

大正期に入って松竹合名会社となった歌舞伎、新富、明治、の三座を私に引受けてくれと大谷竹次郎氏から頼んで来た当時、私はいささか金廻りがいい処から、神田に踊りの師匠をしていた花村美代子という女を住わせて、まア妾といった風にして鼻の下を長くして通って、アップレ旦那気取りになって脂下って居た。大正十五年頃の事である。松竹の新派は伊井、河合、喜多村、村田政雄、井上、後藤良助、木村操、福岡清、藤井六輔等多士済々、高田没後、再び盛り返した三頭目の芝



居を私は引受けて、看板から番附迄、時には舞台装置を引受けてやったが、短気というか一本気というか、私は茲でも亦松竹の社員と衝突して了ったのだ。名前はTとっておく。此奴悪辣極まる奴で画料を仲々支払わない。殊に歌舞伎座は最も甚だしく、一月興行の支払いが三月に到って未だしという風で一ヶ月当時私の収入は約七百円位であったから、別に松竹の勘定が遅れたからといって生活に困る様な事はなかったが松竹社員の態度が痛にさわる私は茲でも亦喧嘩別れをして……

話はまた逆行して我悪妻の横暴は益ヒステリ—と合名会社を構成して勢当可らず、私は涙を吞んで之を離別した。時に二児あり。長男正明七才、次女菊一才。私は乳母を雇って男の手一つて之を育てようと決心した。

「云う勿れ汝の面と」私は風采頗る揚らず、女出入りをする柄では無いがどうした訳か女出入りが多い。私の多情多恨の心理か、それとも運命か、その何れにしてもそうした事が大なり小なり一生を通じて多い。自ら求めて然るに非ず。「なりゆき」であるから大目に見て頂きたいと妙に自己弁護をして置く次第である。私は妻なき淋しさから毎日通ってくる姉妹の美術



学校のモデル女と関係して了った。名前はキセ、姓は佐原。向島の百花園の親戚だという話であり、大正八年六月から九月頃に私と彼の二人は夫婦同様の関係を結んじまった。一寸した冗談から彼女の腹の中に一塊りを作った。責任観念は私しにも相当ある。終に私は彼女と同棲する事になったのが後年、私の一生の大事件、大ケサに云えば日本全土の出版業者を驚かした小生の著「論語通解」事件であるが、この事件の前後の事を委しく記せば優に一篇の、世に云う「変態性慾史」の一篇として膨大な一書を為すであろう。私の自叙伝は之れを以て其前半を終る。

晴雨の「自画自伝」は以上で終っている。半紙サイズの和紙に「晴雨蔵書」と摺り込んだ用箋を用い、全四十八丁(九十八頁)の和綴本で、一冊をなしてはいるが、彩色が未完と思われる挿図もあり、完成品かどうかは不明である。続編が作られたかどうかともわからない。

「縛りの快楽に溺れる」
 (大正八年、美術学校の女モデル佐原キセ子を雇い……酒に浸り家業を擲ち……大に信用ヲ失フ)*

“縛り名人”の老後

晴

雨の自伝にはもうひとつ、昭和二十七年に雑誌「人間探究」に七回にわたって連載された「おいでばなし 昔憲談」がある（ドキュメント日本人6 アウトロウ）所収。必ずしも時系列で書かれたものではないが、これにより以下、晴雨伝を続けると――



「七年目の浮気」ではないけれど、ちょうど結婚七年目の大正五年ごろから、晴雨には愛人がいた。東京美術学校でモデルをしていた「嘘つきお兼」こと永井兼代という女性で（佐々木姓とも、また鈴木姓との説もある）、三年ばかり関係は続く。秋田生まれ、晴雨ごのみの瓜実顔の美人だったが、のちに竹久夢二のもとへ去った。たまき、彦乃に続く夢二の「第三の女・お葉」である。彼女との別離が大正七年ごろ、その翌年あたりに晴雨は最初の妻と離婚しようだ。そうして、ほとんど入れ違いに新しい妻がやってくる。

この二番目の妻キセ女が、晴雨の責め場研究に協力的で、逆さ吊りや雪責めなどの苛酷な撮影にも応じてくれたのだが、この責め写真が晴雨の筆禍の遠因となる。まず昭和三年に刊行された晴雨の著作『責の咄』が発禁に。付録につけた写真版が当局の忌諱にふれたもので、出版者・坂本篤は拘留、晴雨も身柄こそ拘引されなかったものの、それ以来当局は私の研究を春画と同様にみなして圧迫を加えてきたという。つづいて昭和五年、晴雨は「面白半分」に論語通解という奇抜な春本をかいた。印刷部数五十部、大に新意匠を誇って知人の古本屋の高橋竹次郎に見せると、「これは珍らしいぜ、私にも下さい、決して商売物にはしませんから」というので、くれてやったのが大失敗のもとで、そこが何とかのあさましで、高橋はこれを同業者に売り、それから足がついてちよつと来いとなったという始末……。私は、三月のある寒い雨の日に大黒傘をさして、日比谷署に行った。警視庁に連行された晴雨は取調べをうけたのち留置場にいられた。

「私にとつてははじめての世界だ。恐ろしいというより珍らしいという職業意識が先にたつが、心持ちが落ちついてくると自宅のことが心配になってくる。それ



駒込の天祖神社の祭礼に使う灯籠絵を描く

よりもっと心配になってくるのは、数日後に初日を開けることになっている、市村座の新国劇の舞台装置である。沢田正二郎没後必死とあがいている新国劇の舞台を思うと、いても立ってもいられないような焦燥の念にかられてくる。

新国劇の沢田正二郎とは大正六年の旗揚げころからの仲。しばしば舞台装置を手がけ、北海道巡業に同道したりもしていた。昭和四年の沢田没後も関係はつづき、このときも舞台装置をひきうけたはいが、仕事地完成するまえの拘留だった。幸い粋な取り計らいで、取調室で描くことを許されたが、それがまた新聞に報道されてやかましい騒ぎとなる。どうも晴雨という男の周囲には、波風がたつように出来ているらしい。拘留十日で出てきて自宅でくつろいでいると、もと検事で探偵小説家の浜尾四郎が訪ねて来た。浜尾に言われ

【右頁】昭和27年の晴雨。浅草で上演された芝居「責め」の実技を指導した画家としてマスコミに登場。その説明に曰く――女を折檻する絵で知られた画家で桐壺秋子は専属モデル。写真提供：毎日新聞社

とに似た友人の食客で、早稲田
出の文士の卵であるIという、自
分より年下の男といふ仲になつて
しまつた。それを知つた私は、い
さぎよく、まったくサツパリと家
財道具にのしをつけて、女をその
青年にくれてやつた。女房のよう
で情婦のように十年あまり同棲し
た女は、左様ならの一ト言をのこ
して、その男の荷物の車の後押し
をして、流れ河で何とやらを洗つ
たやうに出て行つてしまつた。

へそれから私は、十六になる長女に台所をさせて、表面はのん気に、裏面はムシヤクシヤして近所のカフェエを片っぱしからのんで歩いてたが、天は自ら助くる者を助くて、近所のカフェエのナンバーワンとついったことからできて、女房になる相談がまとまったので、三度目の正直、今度こそ一生の女房とばかりに、この女をその母親の承諾をもらった。新しい女房はへいたって温良貞淑、これなら伊藤家万々歳と思いきや、天は私に幸せず、後三年にしてこの女は発狂してしまった」と晴雨は書く。三年間入院して彼女は死去。晴雨は入院費用に加えて当時間倒をみていた劇団の出費がささみ、大きな借金を抱えこむことになった。苦勞に苦勞を重ね、さすがの晴雨も意氣消沈したようだ。

その後の晴雨は妻帯せずへまったく空閑を守って、道徳堅固ならず、筆硯ますます多忙、モデルを求めんとして東奔西走、離合集散溺れてまどわず、愛して迷



わす、もって今日におよぶ」というのだが、実際には「曾我廼家五郎の仕事をしているかたわら、自宅に印刷器を据えつけて、自分の著書を自分で印刷して発行してみたり、新刊雑誌の挿画をかいたり、うやむやの内に十年の歳月は流れて行ったが、一人の娘は嫁にいつ

て、あゝはまた一人ボッチになって、呼べば来るのは酒ばかり。軒かたむきて庭上青苔を封し、雑草離々として白昼庭上に虫声を聞くという暮らしぶり。寄席の楽屋、落語界に親しみ、またへ田端の駅長に接近して、旅行団の幹事になったり、浅草昭和座にいた梅沢昇という九州出の俳優の相談役になったりしているうちに、日米開戦。昭和二十年四月十三日の空襲で駒込の自宅は全焼し、多大の労苦と費用をつぎこんだ責め写真、膨大な画稿、責めの文献など一切を失った。戦後は性開放の雰囲気のなかで、カストリ雑誌などを舞台に責めの専門家として挿絵に文章に大活躍。

父・晴雨のこと

が、ちよつと度が過ぎたのか昭和二十六年「あまとりあ」、翌年「読切ロマンス」で晴雨描く付録画が相次ぎ発禁処分となつた。昭和三十年代になるとさすがにメデイアにはほとんど登場しなくなるが、三十六年一月二十六日付「内外タイムス」(二十五日発行)に唐突に晴雨のインタヴュー記事が掲載される。半ページをさいて「現代の奇人」を紹介したもののだが、これを置き手紙のように三日後、伊藤晴雨永眠。

稀にみる七十八年余の生涯だった。

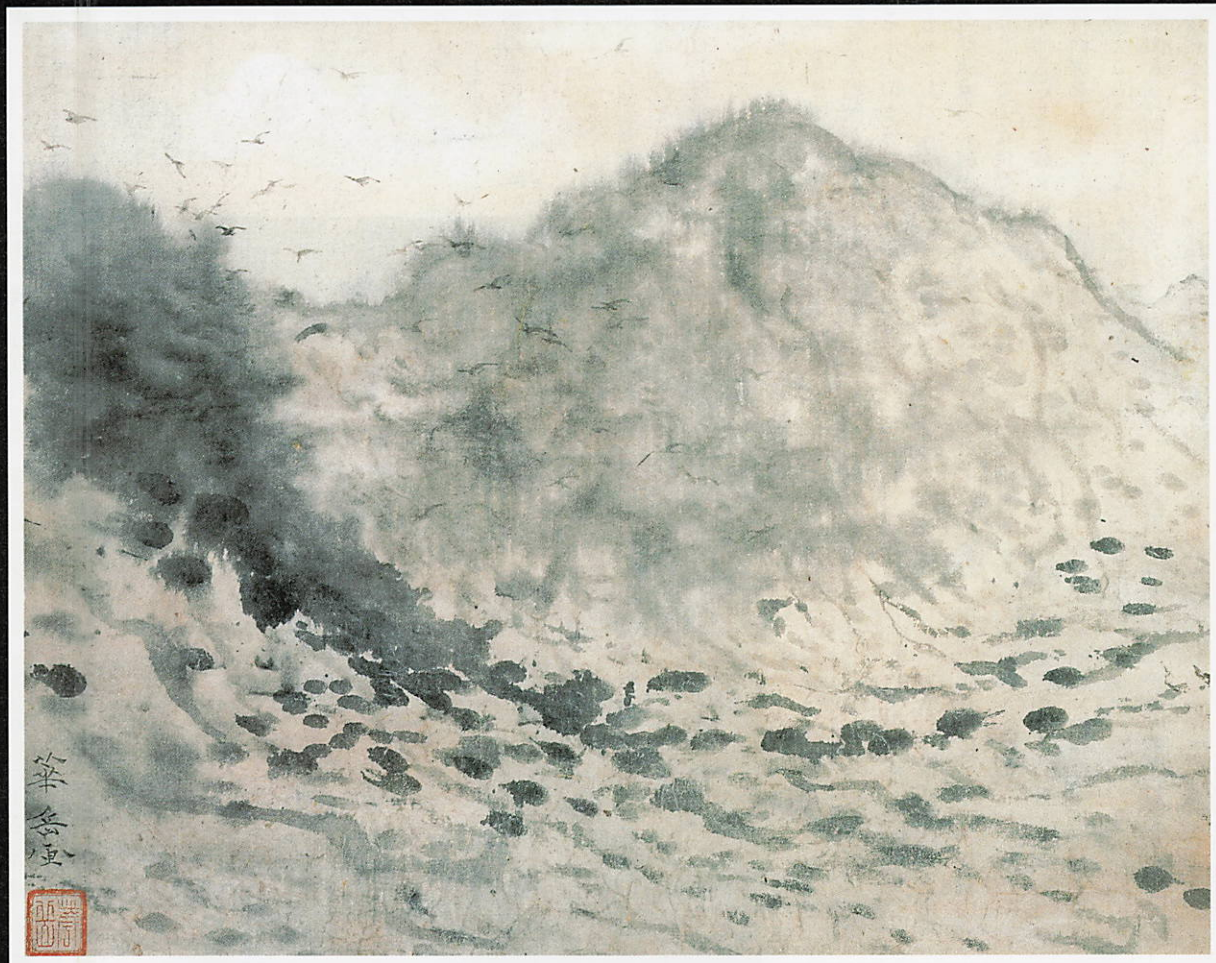
伊藤菊

私

私が生まれて間もなく、両親が離婚して、四歳くらいで大阪の叔父のもとに預けられました。彫刻を教えていたこの叔父と父とは、たいそう仲がよくてね(22頁写真参照)。幼稚園もむこうで上がったんですが、関東大震災で東京に戻ってきた。お前のお父さん死んじゃったかもしれないと叔父が心配しまして、急いで上京したんです。東海道線が不通で、名古屋で一泊、翌日上野駅に着いたのを覚えてます。それから阪神の父の家で暮らしました。私いちど結婚したんですが出戻りまして、一つ屋根の下で父の最期まで一緒に過ごした。ああいう絵を描いてましたし、色いろいろ言われましたけど、父はエロの絵描くのは、好きじゃなかったみたい。こんなモンつもらねえ、とか言っていましたから。好きなのは江戸風俗や、芝居の絵。芝居には本当に熱心で、金もらわなくたって描くんだった。本が好きで家じゅう本だらけ、とうとう家が傾いたほどでした。わからないことは徹底的に調べなきゃ気がすまない。注意深く物事を見ろ、常づね頭を使えとよく言われたもんです。好きな食べ物も寿司。日本酒は白雪が量販で、ずいぶん嗜んだほうですが、ペロペロに酔っぱらうのは嫌いでね。尻から飲むなって始終言っていました。煙草はやりません。金もないくせにお洒落で、震災後に盛岡に行ったときだけは洋服でしたが、あとは和服で通しました。よく冗談を言ったり回りを笑わせてましたけど、人の悪口は言わない人でしたね。[談]

—— 時代が求める美と信頼 ——

A・J・C・オークション



村上華岳「秋山返照之図」紙本・着色・共箱 40.0cm×51.0cm 落札予想価格 ¥40,000,000～¥50,000,000
「村上華岳名作展」出品(昭和42年、神戸市立南蛮美術館)

[下見会] 1995年5月17日(水) AM10:00～PM5:00 / **18日(木)** AM10:00～PM4:00

[オークション] 1995年5月18日(木) PM5:30～ 絵画 / PM7:00～ 工芸

[会場] 東京美術倶楽部 東京都港区新橋6-19-15 TEL.03-3432-0191

オークション参加・カタログのお申し込み受付中!



オークション ジャパン 株式会社

〒104 東京都中央区銀座6-7-18 デイム銀座201 TEL:(03)5568-6471 FAX:(03)5568-6474

江戸の明治の障子づし

次男の同僚と名をい
川村より自甘はかたに



晴雨傑作選三
市井の大雑学家

行商人から見世物まで、晴雨は詳細な江戸の画像データベースを作りあげていた！

「いろは引 江戸と東京風俗野史 巻の一」から。江戸、明治期の障子を集めたパートの扉頁。福富太郎コレクション(以下◆印)

江戸の行商人たち



《歯磨売り》「目がつら」を滑
槽な身振りで売り歩いた。巻の四◆



『いろは引 江戸と東京風俗野史』
全6巻の表紙。望月コレクション
以下、掲載する図が同書からのもの
は「巻の一」「巻の二」などと示す。

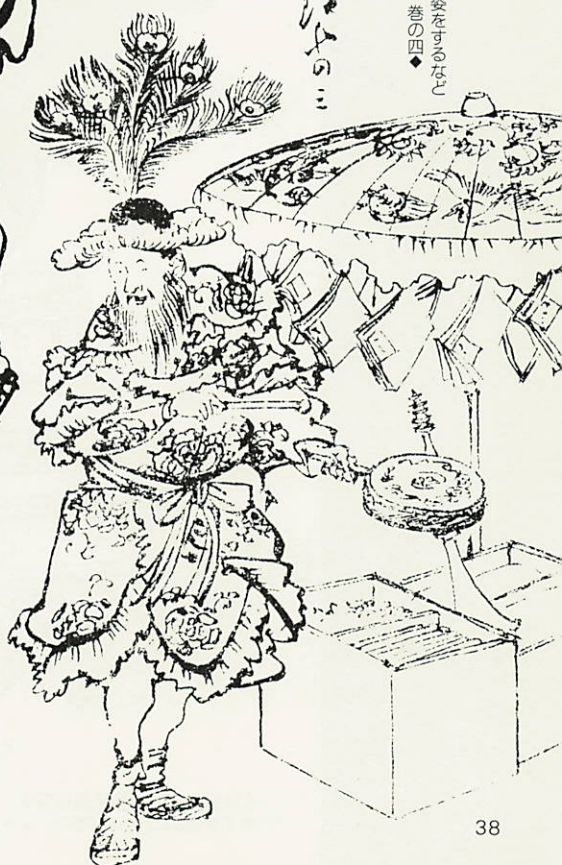


《蝶々売り》巻の四◆



《唐辛子売り》

《船乗り》派手な中国人の姿をするなどして子供たちの目を引いた。巻の四◆



《唐辛子売り》脇に抱えた巨大な唐辛子の模型に七味が入っている。巻の四◆

「学

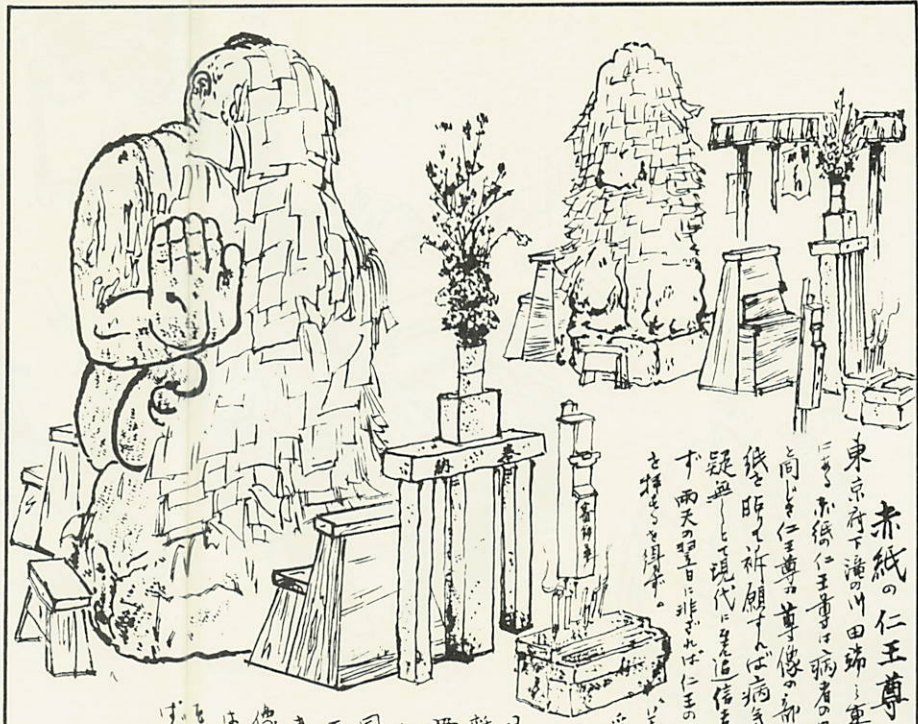
者晴雨——性科学の研究者と
して名高い故高橋鑑は、親しく
交際していた伊藤晴雨の博覧強記ぶりを
賞賛して彼をこう呼んだ。何しろ晴雨の
旺盛な好奇心の対象は「責め」に止まら
ず犯罪刑罰史から、演劇芸能、浮世絵、

男色まで実に多彩な事柄に及び、それらに関するお
びただしい数の著作を残している。そんな彼が格別
の熱情をもって取り組んだのが江戸、明治の風俗研
究だった。文献渉猟に加えて東京中の名所・旧跡を
見て歩き、服装、灯籠などの世帯道具、怪談奇談に
至るまで詳細に尋ねては丹念なメモをとっていった。
それをもとに昭和初年に刊行されたのが、晴雨入魂
の作というべき『いろは引 江戸と東京風俗野史』
である。石版摺り、瀟洒な和綴本6冊のこの著作に
は、晴雨の流麗な筆遣いによって行商人たちの姿な
ど当時の風俗が生きたと、盛り沢山に描かれてお
り読んでいて全く飽きない。この『風俗野史』、今で
も時代劇の考証に重宝されているとか。【編】

まじないと迷信



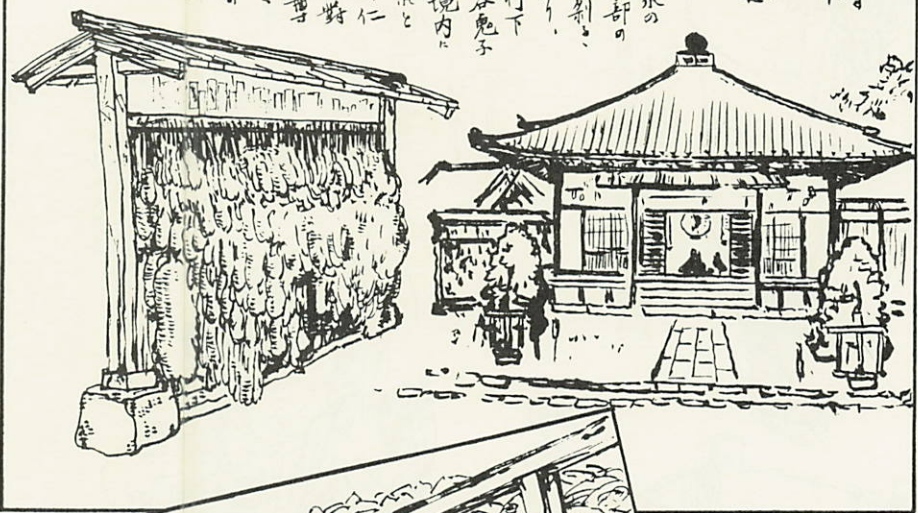
[上] 庚申[88頁参照]の夜に性交すると、
“てなが(盗人)”の子を宿すと信じ
られていた。巻の五◆
[左] 田端・東覚寺の仁王像。病者が患
部と対応する箇所には赤紙を張ると
病が治ったとか。巻の五◆



赤紙の仁王尊
東京府下流の川田師・東覚寺
にも、赤紙仁王尊は病者の患部
と対応する箇所には赤紙を張ると
病が治ったとか。巻の五◆



橋の擬宝珠に水を掛けると乳がよく出る
という迷信があった。巻の五◆

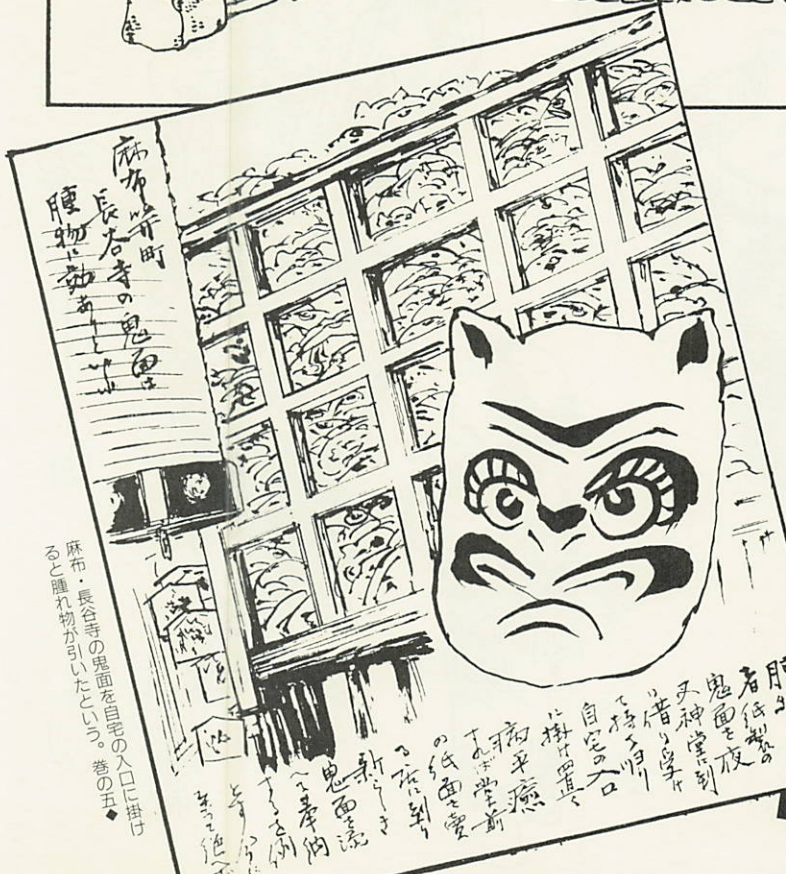


赤紙の仁王尊
東京府下流の川田師・東覚寺
にも、赤紙仁王尊は病者の患部
と対応する箇所には赤紙を張ると
病が治ったとか。巻の五◆

中国の神獣「白虎」の図は旅のお守
りとして重宝された。巻の五◆



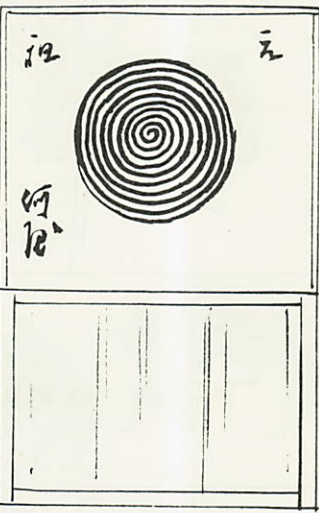
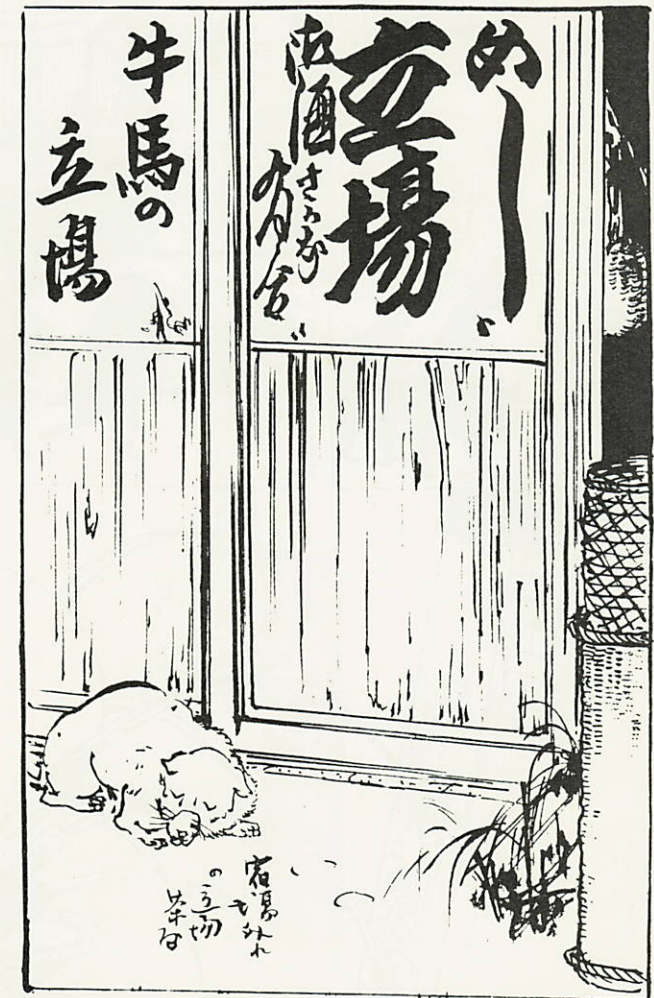
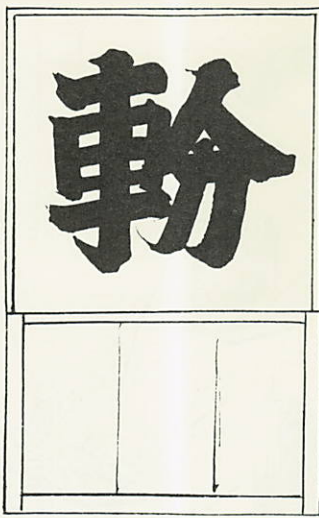
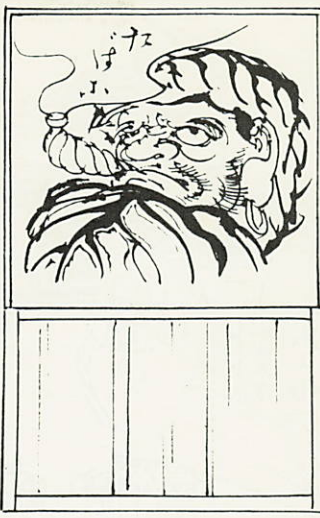
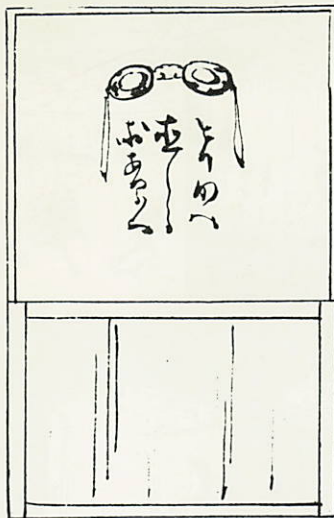
白虎の図
旅行用心集
に載る
白虎の
図



麻布・長谷寺の鬼面を自宅の入口に掛け
ると腫れ物が引いたという。巻の五◆

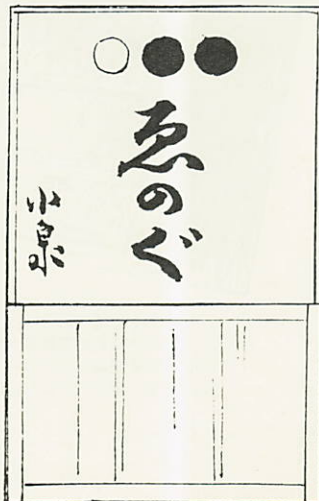
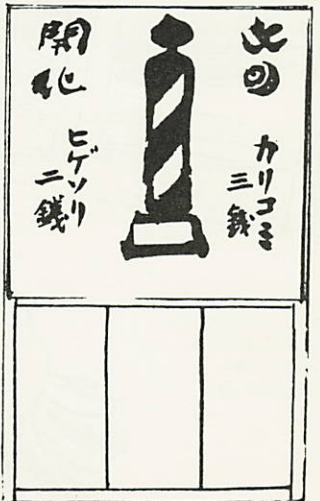
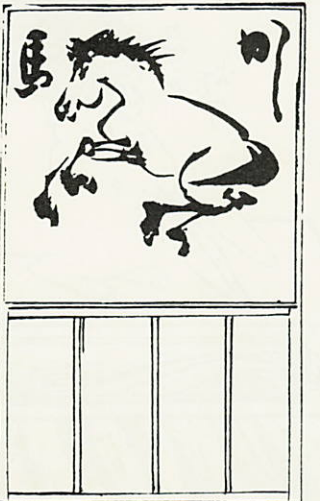
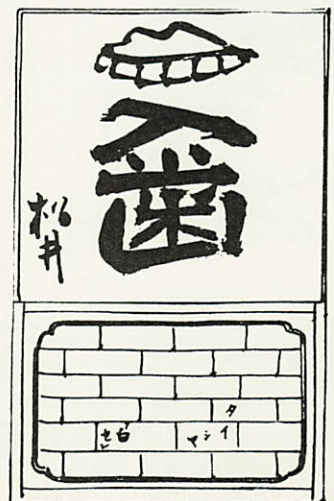


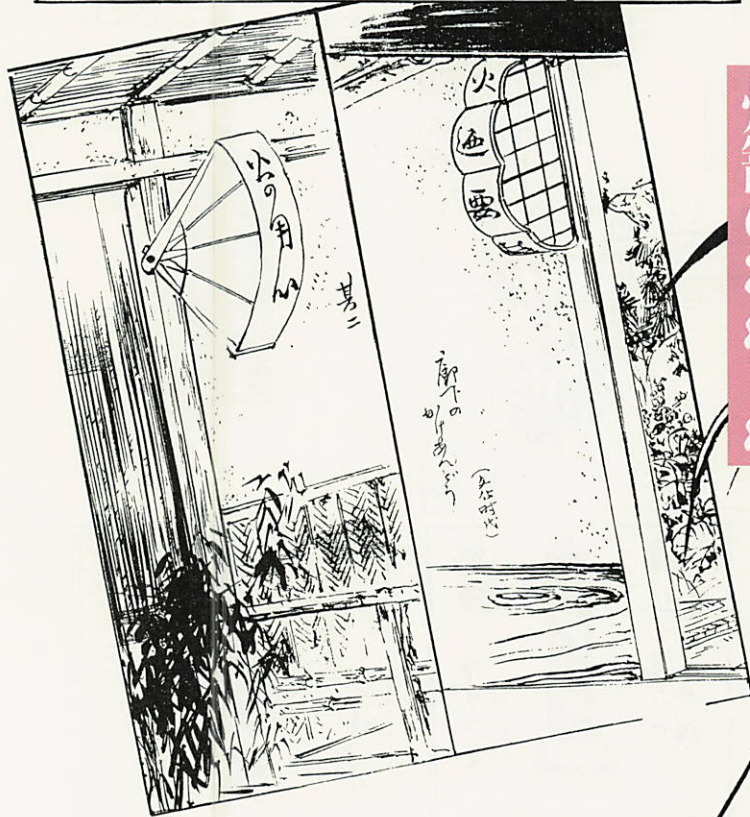
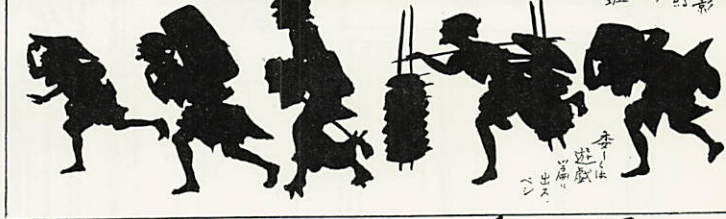
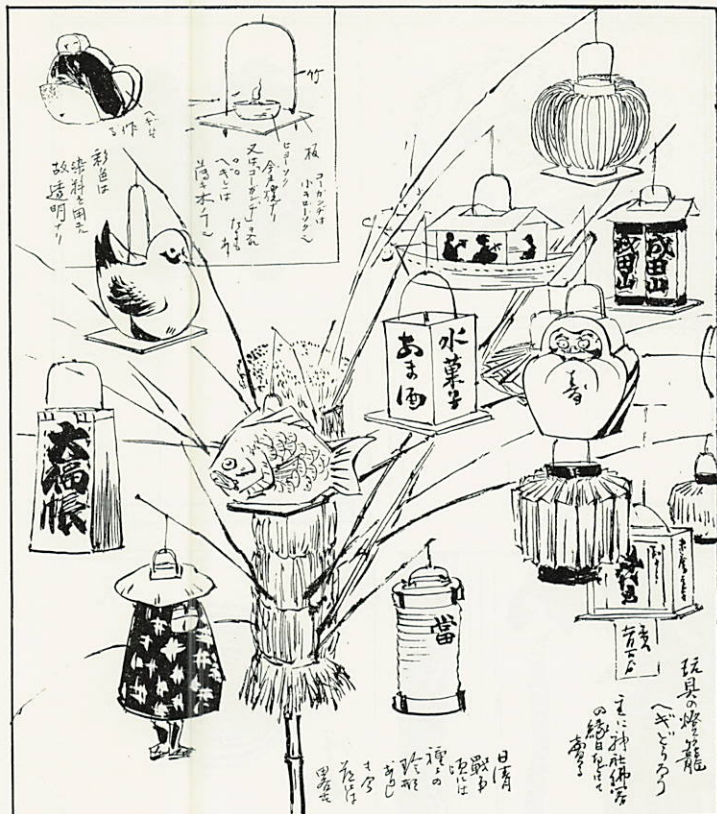
腫れ物と患
者低熱の
鬼面を夜
に神堂に
掛けると
腫れ物が
引いたと
いう迷信
があった。
巻の五◆



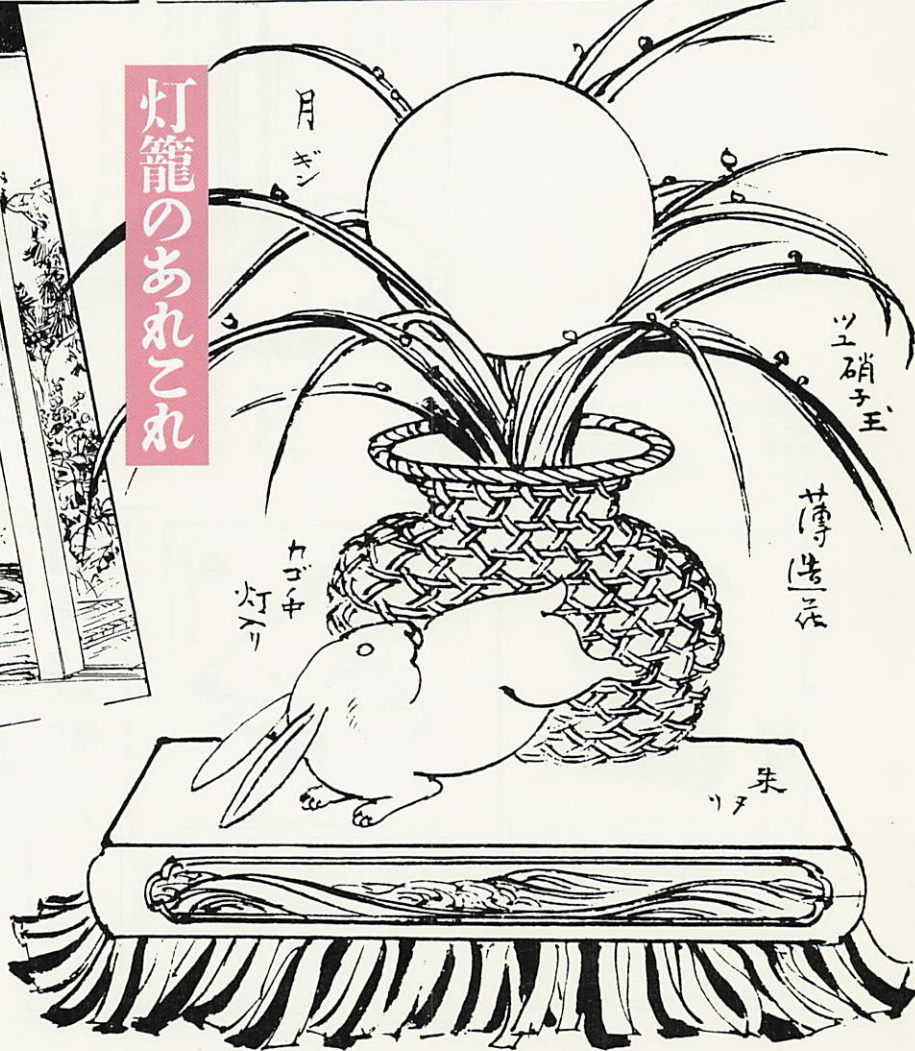
障子づくし

小粋に店頭を飾った障子の数々
左上から時計回りに、眼鏡屋、甘酒屋、
煙草屋、人力車宿、飴屋、絵具屋、明治
初年の床屋、貸馬屋、入歯屋、風屋。中
央の図は茶店の入口。全て巻の一◆

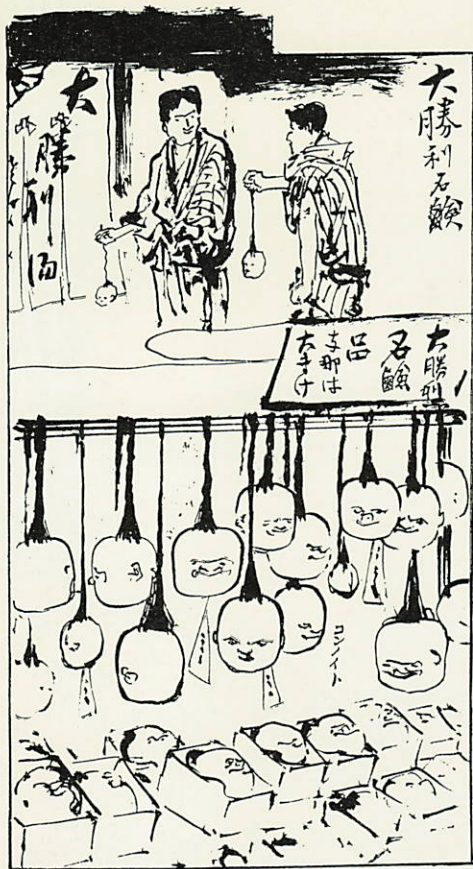




灯籠のあれこれ



[上] 多彩な灯籠を紹介した「巻の三」中の見開き頁。
画面下に影絵を展開させたお洒落な構成。◆
[下左] 行灯を実際に掛けている例。巻の三◆
[下右] 遊廓に置かれていた細工灯籠。巻の三◆



[右]天保の頃の風呂の店頭。巻の二◆
 [上]日清戦争の時、辮髪をした中国人の顔を描いた「大勝利石鱈」が夜店で発売された。巻の一◆
 [下]西南戦争後、竹皮で作った「西郷鍋」なる物が登場。西郷隆盛の姿をした大道商人が売っていた。巻の一◆



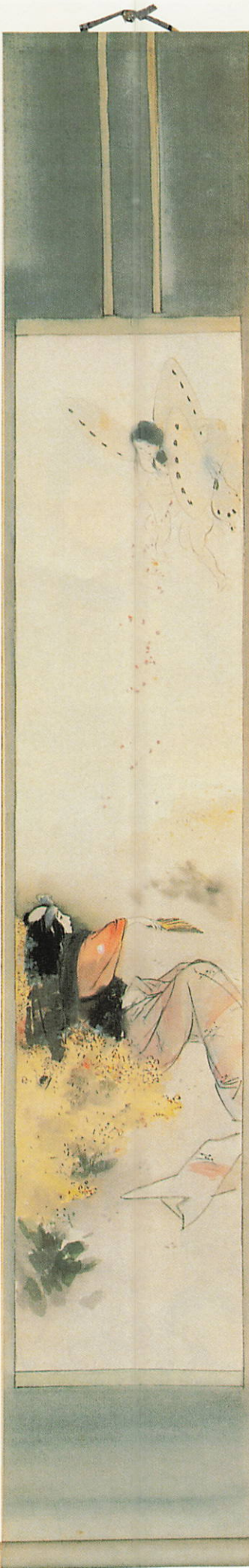
幕末・明治の「野史」

国

家の事業として編纂された歴史書である「正史」に対して、民間で記された史書を「野史」という。野史の記録の中心になったのは、大きな政治的事件より、庶民の間に起こったささやかなでもユニークな出来事だった。晴雨の「いろは引 江戸と東京風俗野史」は、詳細な「江戸の画像データ・ベース」であると同時に、こうした野史ならではの面白さも堪能させてくれる無類の絵草紙でもある。西南戦争の後、竹の皮でできた鍋を西郷隆盛の恰好をして売った「西郷鍋」が現れた話や、日清戦争の時に辮髪をした中国人の形をした「大勝利石鱈」が売られたなどという何とも珍妙な「事実」は、形式ばった正史では全く教えてくれない。歴史の中に埋もれていた意外なエピソードを拾い集めて開陳するそのスタイルは、ほら、こんなこともあったのさ、と鑑賞を傾けてにこやかに語る物知り親父の話を聞く味わいすらある。〔編〕

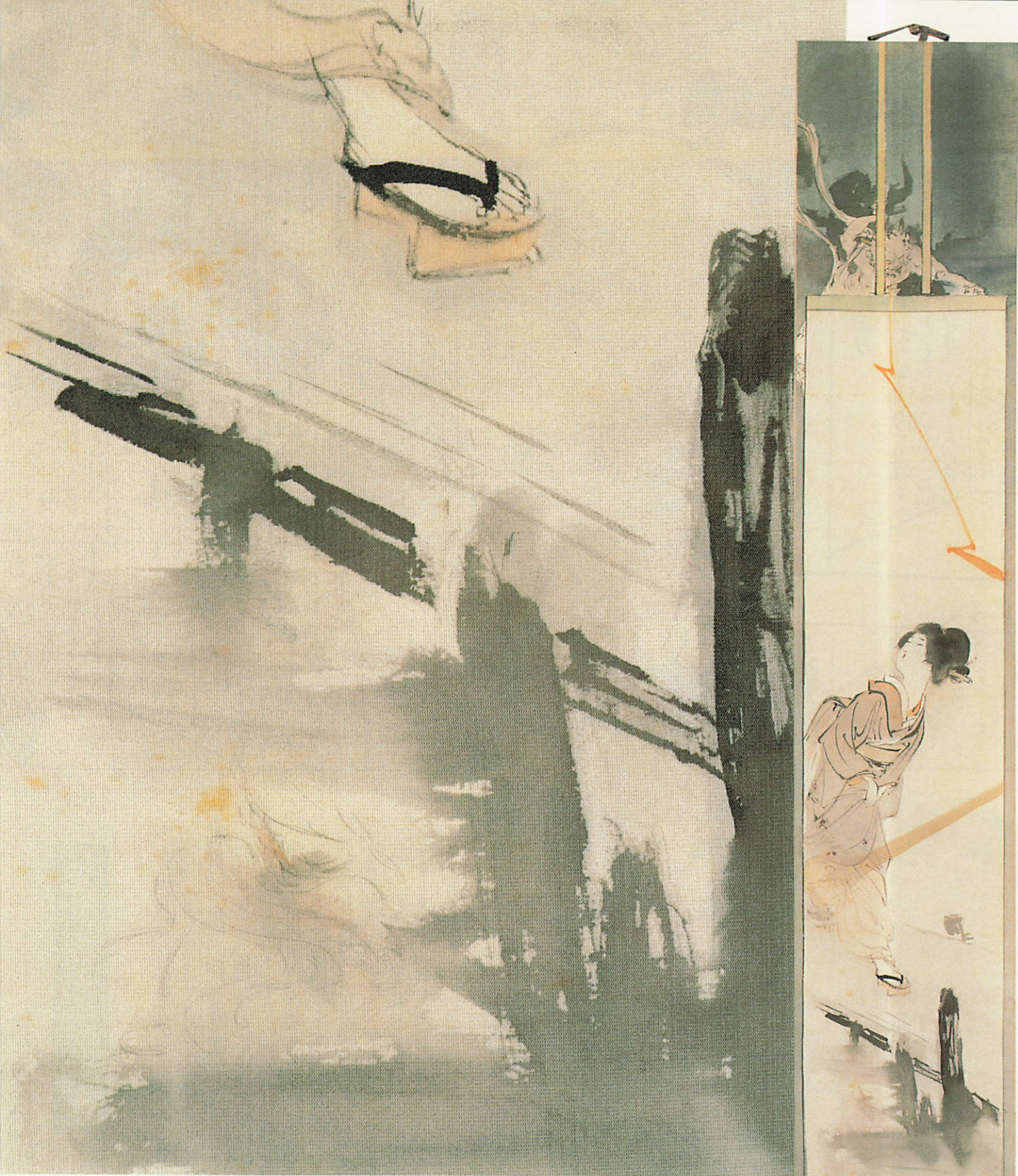


男女の“陰”に仕掛けあり

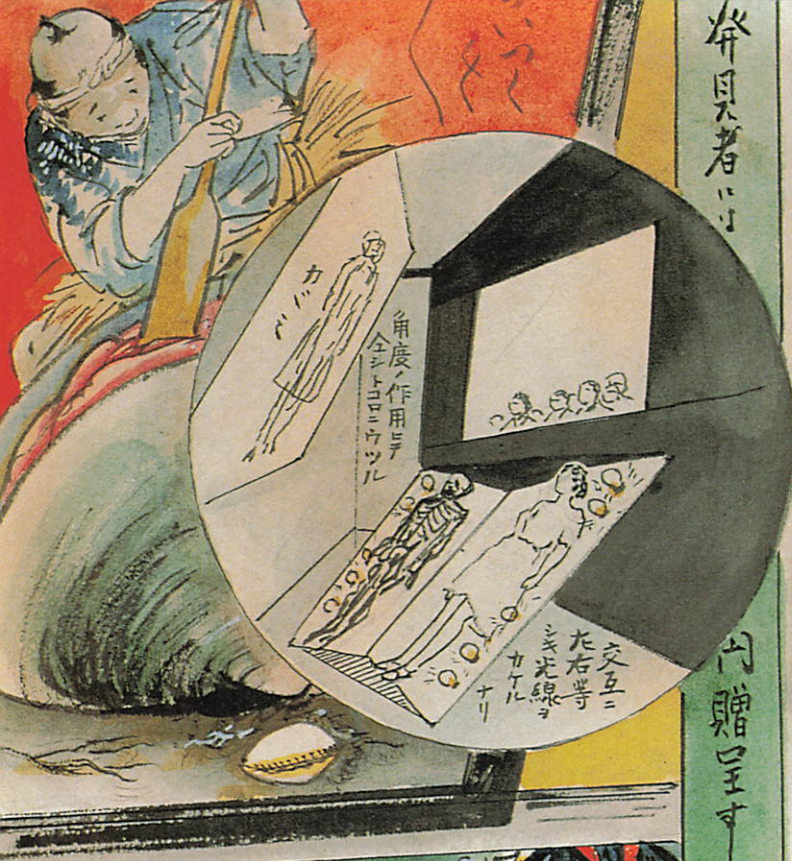


絵

の中に表装も描きこむ「書表装」仕立てで、それぞれ男性と女性を描いた2幅の掛軸。男は蝶々のような羽をつけた「天女」に扇をひらひら振ってこぼれ、橋の上に行く女は稲妻の光る空を不安そうに仰ぎ見る。とりわけ左頁の作品では、軸の上からカミナリさまが絵の中の女性を覗き込んでおり、何ともおかしい。ほんのりとした色調で優雅な風情を漂わす2枚の絵だが、近づいてよく見ると……やや、何と男の股間はテントのように脹らみ、水面には女の陰部が映っているではないか！ 上品に見えた絵が一転して、色気を醸し出すエッチな作品に。密かな仕掛けを巧みにほどこした晴雨の、してやったりとニタニタ笑う姿が目に見えよう。こんな遊び心、洒落つけを晴雨は生涯忘れなかった。玄関に簾を垂らし「忌中」に似たくずし字で「寒中」と張り、木魚のようにボクボク盪をたたき自分が死んだかのように見せかけていたら、知人が香典を持って集まってきた話や、バス旅行の時、ビール代わりにこっそりと小便を紙コップにして乗客に回したエピソードなど、晴雨の旺盛なイタズラぶりは伝説のように物語られている。ところで、女性を描いた絵は、久米仙人の伝説を思わせる。苦しい修行で神通力を得たこの仙人、せつかく空を飛べるようになったのに洗濯女の白いふくらはぎに見惚れてあえなく墜落したとか。カミナリさまもゴロゴロドシンと落ちるのは、地上の女の美しさに見惚れてのことだったか……と晴雨は言いたげだ。〔編〕



ちょっとエッチな双幅画 《天女》[右頁]と《雷と女》
 絹本着色 127.5×21.2cm(2点とも) 福富太郎コレクション
 遠目には気がつかないが近づいて部分を見ると、男の股間は持ち上がり、水面には女性の陰部が映っている。



弁見者

内贈呈す



光線理學子應用人時変化術

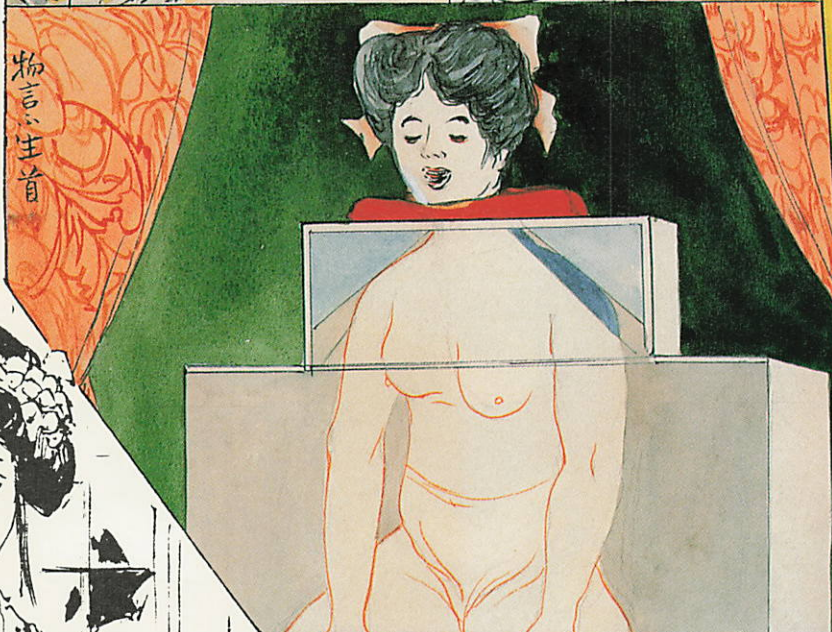


世にも珍しい見世物の数々、さあさあ寄ってらっしゃい、見てらっしゃい！
 右頁上は《蜘蛛くも男》巻の二。巨大な頭と手の異常な長さから、こう呼ばれた。右頁
 下と上は雑誌「ロマンス」に晴雨が描いた「古今見世物めぐり」の原画。◆【この見聞き全て】

古今見世物のしらべ
伊藤晴雨画



曲鞠



物言生首

むしやう
ちんちんはたはちやうと妙齡の美人が
口より血を吐いて大の内臓を
あやうく喰ふのであつた。執事
のほうをそれだけ見てゐる。親の因
果が子に報ひるといふか、ちんちんは
狂牛の心でゐる。大の内臓を喰ふ
たはちんちんは、大いにかさねのうへで物
ありふた。根は物言生首の根である。



「上(曲鞠)と(物言生首)」。古今見世物めぐりの原画。
「五(むしやうむしやう)」。大の内臓を喰ふ美人。と思いきや、実は
ヤモの肉を紅で染めたものを口に近づけているだけ。巻の二



【上】右「玉乗り」や地獄の風景を再現した「からくり」
 「蛇つかい」「曲独楽（きょくごま）」が描かれて
 いる。曲独楽とは大小のコマを操って演じる曲芸。
 “古今見世物めぐり”の原画。◆[2点とも]



[上]樽の中に河童が！ 実は瓢箪に毛を張って浮かべているだけ。巻の一◆



黒縄で結ばれた晴雨と私

望月あえか（もちつきあえか・会社員）

昭 和の御代がもはや終わりが近いなど、思いだ

にしない冬の事だった。越してきた街は坂を下るとバンドや演劇、フアッション関係の若者向けのお店でひしめいている。その中で、ひっそりと未だに木枠のガラス戸のたたずまいの店があった。ガラス越しに見えるのは眠り続けていたい、とでもいうような本達だ。それまで古本屋さんというものは、しかめ面をした大人が出入りするところとばかり敬遠していたし、無学無教養の私には何だか敷居が高すぎた。それでも寒い夕暮れ、煌々とした灯りに誘われ思い切ってガラガラと引戸を開ける。ごめんください……。

天井までも届く本の群れがジロリと一瞥をくれる。単なる好奇心でと見破られないよう、コチコチになりながらも本棚の中央へと進む。

そのうち一冊の本が語りかけてきたような気がした。北原童夢氏の『フェティシズムの修辭学』というタイトルだった。エイ！とばかりに引き抜いた本は、随所に写真を載せている。パラパラと頁をめくると、へあぶな絵師達という一節がある。その筆頭に「伊藤晴雨」という名が挙げられていた。

「晴れ」と「雨」という名前の面白さも手伝い、へえ、と晴雨の頁を読み進めると、人となりのすさまじさが伝わってくる。「責め画」を描いたとか、身重の女房を括ったとか。ちよっと私の周囲にはいないような人だった（いや周囲だけじゃなくてもめったにいない人だワ）。

読めば読む程に伊藤晴雨という御仁を知りたくな

った。本を包んでもらっている間に店主には「伊藤晴雨

ねえ、集めるのたつて難しいよ……」とまづいなさ

れた。「どうすれば手に出来ますか？」と畳みかけた私に、「そうね、時間をかけないとね。こういうものは……」と言葉少なに教えてくれた。

そうね。石の上にも三年というもののね、とあきらめにも似た手がかりの無さに途方にくれる。文字通り本当に三年の間は伊藤晴雨という名ばかりが胸にくすぶっていた。さすがに時が過ぎていった。

そうこうした夏、たまたま買い物で立ち寄った百貨店に古書市がかかっていた。

「えっ、古書市!?」。そうか、そういう手があったのか――。

やみくもに飛び込んだそこには、漫画や洋書、雑誌に百科事典、昔ながらの絵本も所狭しと並んでいる。

どのくらいいたつただろう。ショウケースの中に極彩色の絵が三枚ほど連なっている。これは石抱きの刑。それにお菊さんかしら？

あら可哀想に切りつけられている……。それらは錦絵よりもタッチが生々しい。

息を飲んで見入っていると、手もち無沙汰の店主が「珍しいもんですよ……。御存知無いでしょうけれど。お嬢ちゃんじゃあ、わかりやしませんよね。イトウセイウっていうんですよ……。」と。

突然も突然、しかも三枚も目の前に並んでいる。あまりの事に声も出ない。欲しい、欲しい！と思いつのつたものが今私の目と鼻の先、三センチのところに在る。

「せ、晴雨でしょう、これ！ 私探していたんですよ。うわあ……」と

独りでわめいていたように思う。「見てみますか」と店主がそろそろとガラスケースの上に広げてみせる。苦しうにうめく顔、振りかざした力んだ腕、裾をはしよった折の着物の襷、特に黒髪は生命が吹き込まれたようだ。

私自身、日本画の手習いを始めていて骨を包む肉、それを覆う皮膚と人体デッサンの難しさを身に浸み



筆者のコレクション中白眉の作「十姦十二支図」
部分 紙本着色 天地20.5cm 海外旅行を断念し、月給半年分以上の値段で手に入れた。





うない。それほど、その絵は迫力に満ち私を魅き寄せる。甘味の無い、彫るような線が、どうだとはばかりに目につきささる。

無言で絵と対峙している私に店主が「本当にお買いになりたいのですか。それでしたらカードもお使い頂けますよ」と知恵を授けてくれた。なるほどカードなら何とか私にでも手が届く、かも知れない！

「買います。頂きます。嫌と言っても貰って行きます!!」とキツと眦を決して言った。ようやく探しあてたものなのだ。これは私の晴雨なのだ。

不思議と大きな買い物をしてしまったという後悔などなく、思いつめていた晴雨の作品を手に来た、夢のような喜びで一杯だった。

店主が私に手渡す時「いえ、ねえ。あなたのような……と言っては失礼だけど女の方がねえ。でも本当にお気に召して下さったのだから、私どもも嬉しいですよ」とニコリしてくれた。その日はどうやって家に辿り着いたのか覚えがない。やつとやつと巡り逢えたのだとばかりに買った包みをなでさすり、授かった幸運を確かめていた。

ただ、こうした偶然はあまり続くものではない。むしろ、出足があまりにもラッキーだったせいか「意外と集まるかも」とタカを括ってしまう。だがどうして、おごっ

ている時はまるで収穫がない。収穫どころか古書店に尋ねるとまるで商売の邪魔！とでも言いたげな早口で「えっ、晴雨!? ないっすよ。お宅が集めてんのオ」と驚かれ、「いや、ああいうものはおやめなさい」とさとされ、「まアねえ。そのうち出て来たら、声かけますけどね。しかし、変わってるよ、ア





白洲正子 著 名人は危うきに遊ぶ

A5判220頁 口絵カラー4点モノクロ4点 精興社鑄造活字原版刷 本文越前三極紙 表紙平=太引玉糸地織布・背=ゴード革白張仕上

限定80部番号入
著者サイン入

予価60000円
＜予約受付中＞

この一冊には、古寺、古典、謡曲、美術、紀行、自然といった白洲正子の世界が全て収録されている。装幀も、その内容にふさわしく田島隆夫さんに特別の布を織っていただき、その上、両見返しに「日本武尊の歌」を全冊墨書していただいた。書物の理想美を追求した精興社活版原版刷の最後の本である。

田島隆夫歌集 小 摘

A5判変型200頁 普及版 定価3000円
特装版袖布装限定100部 定価12000円

安土文子詩集 石 笛

菊判変型64頁 限定150部 定価18000円
装幀 口絵・高橋輝雄木版画

深澤省三画集 赤い鳥の画家

B4判204頁 カラー64点 定価39140円
挿図106点 函入 (本体38000円)

篠田 穰 ゴルフ論

B5判252頁 カラー31点 定価10000円
モノクロ17点 函入

★ご注文は、直接小社宛もしくは下記の取扱店にお申し込み下さい。

取扱店 書肆ひやね

〒101 東京都千代田区神田淡路町2-3-12
TEL 03-3251-4147 FAX 03-3251-4127

荻生書房

〒113 東京都文京区本駒込6-13-10-205
TEL 03-3946-8640 FAX 03-3946-0660

ンター」とあきられた。

正直言って私は自分が好きな「もの」に対して「向き・不向き」とか「男女の別」とかいうネックがあるなどとは思ってもみなかったのだ。それにはこちらが驚かされた。けれど慣れとは恐いもので、私の方もニッコリと「だって好きなんですよ」と開き直る。電話の向こうからは、まるで非行に走る女生徒をなだめすかす風紀係の先生のような口ぶりが返ってくるのが常だったが、言葉を重ねる私の思いが次第に通じていったように思う。

ある時、「うちにはないけれど、そうそうBさんが持っていたよ」と教えてくれた。「いい店主だから見せてくれるでしょう。すごく高かったけれど、なに、ものを見るのも勉強。いいものをたくさん見なさいな」と励ましてくれた。耳にした金額は予想をはるかに超える値段だった。がしかし、見たい、見るだけはタダだし——。値段に打ち負かされそうになった私だったが結局「一目なりとも見たい」という欲求が電話をさせた。

Bさんの手に桐箱があり静々と巻物が取り出される。年月を経た表装の中にボツンボツンと絵が現われる。何かしら？ 思いのほか長いもので、手軽く筆を走らせているのに晴雨とわかる。ただ、銘は無い。それを本物と信じるには、自分の目が必要だ。晴雨は、人・もの・事を心眼でとらえている。それを確かなデッサンによって仕上げていく。観る者をあつと言わせ、ナルホドとうならせ、よくもまあ、こういう事を考えつくもんだ、と感心させる。そうした内容の仕事だけに、私の雀の涙ほどのOLのお給料など消し飛んでしまう。飲まず食わずで過ごしたとしても、月給半年分以上のお値段だ。豚の貯金箱や宝くじの当たり券、とにかくお金をひっかき集めよう。楽しみにしていた海外旅行もおあずけだ。

それでも——私は欲しいと思った。自分の手にして、とくと心ゆくまで眺めていたいと思ったのだ。気に入ったとみるや「この線がいいでしょう」と店主の説明にも熱が入りが籠る。「実はこれは近々他の方にお目にかけてと考えていたのですが。お気に召しましたか」と言う。

「はい。……はい。でも……。ええ、でも……」と口ごもると「良いでしょう。私はあなたにコレを売りたいと思った。あなたもコレを買いたいと思った。これも何かのご縁でしょう」と、かなりまけて下さった。

暇を告げる時「娘さんにとっては、まけたとは言えかなりの金額だ。これだけあれば、ブランド物がザクザク買える。よくご決心なさいましたね」と感心された。

こうして今、御覧頂けるものは全て、本物を見た！ という私の願いに答えて下さったご店主の方のご好意によるものだ。確かに「小娘はすつこんでろ……」というドヤされ方をした事もある。それでも、もう一度、今一度と私の晴雨への思いはつのるばかりだ。

「生涯一俗物」と覚悟を決め、市井に身を置く「絵師」としての「本分」を死ぬまで全うした男、伊藤晴雨。そんな彼と、私はリアルタイムで過ごせなかった。悲しいかな、夢の後追いしか許されない。だからこそ、一つ一つの作品を「縁」と感じ大切に集めてゆけたらと思う。晴雨と私は、赤い糸ならぬ、黒いお縄でつながっているのだ——と信じて。

〔右頁・上〕初めて購入した晴雨の作品。3枚組の中から「番町血屋敷」のお菊〔右〕と石抱きの栲間〔左〕。2点とも絹本着色 天地 右27.6cm 左27.7cm
〔右頁・下〕筆者所蔵の稀少な石版画集『女三十六気意』。「美人乱舞」を始め晴雨の著作を数多く出版した粹古堂書店から昭和7年に出版された。

晴雨傑作選〔四〕

晴雨の百物語

一世を風靡した落語家たちのコレクションとして
谷中の古刹に伝えられてきた晴雨幽霊絵の数々





何

と妖気に満ちた幽霊だろう！落語に親しみ、とりわけ三遊亭圓朝の創作した怪談噺を愛好した晴雨は、それを題材に数々の幽霊絵を描いた。悪弟子に殺された絵師菱川重信の霊が、大滝に投げ込まれた我が子を救い出す『怪談乳房榎』、恋人に裏切られた富本の師匠豊志賀の凄まじい呪いが次々と惨劇を引き起こす『真景累ヶ淵』など。この『乳房榎幽霊』は、圓朝の遺品である100点もの幽霊絵コレクションに含まれていたものだが、圓朝の生前に晴雨がこれを描いたとは考えにくい（圓朝が70歳で亡くなった時、晴雨は19歳）。恐らく圓朝の没後、何らかの形で彼のコレクションに加えられたのだろう。この作品は後に、圓朝の菩提寺である東京谷中の全生庵に



絵師の幽霊は滝から我が子を救い出した！
《乳房榎幽霊》 絹本着色 126・6×41・5cm 全生庵

寄贈された。全生庵には他にも林家正蔵（彦六）旧蔵の《豊志賀》〔左頁〕と柳家小さんの晴雨幽霊絵コレクション〔60頁〕があって、圓朝の命日（8月11日）にまとめて一般公開されている。かくも錚々たる噺家たちの手に晴雨の幽霊絵がどのようにして渡ったのか詳細は不明だが、正蔵が毎年夏に行った、一門の弟子を集めて動物の皮に御参りなどする『怪談祭り』の際には、床の間に晴雨の幽霊絵が掛けられたという。こうした幽霊絵の他にも、寄席の名門である新宿末広亭の席主、北村銀太郎と親しく交際し、そこで興行を行なう噺家たちの扇子や舞台の幕に絵を描いていたというから、晴雨と落語界の繋がりはかなり深いものだったようだ。〔編〕

〔左頁〕富本の師匠、豊志賀は怨霊となって不実な恋人の前に！
《豊志賀》部分 絹本着色 85・97×41・93cm 全生庵
絵の右上の為書（たがき）から、もともとは三遊亭圓朝のため
に描かれたものと思われる。後に林家正蔵の手に渡った。



い
つ
と
う
な
り

晴雨妖怪絵



妖怪変化と戦う勇ましき女丈夫
 《荒山寺の怪》 部分 絹本着色 123・5×42・5cm
 福富太郎コレクション 左頁の「三幅対」と同じく、画中の書き入れ文字から北村英蔵なるコレクターの求めに応じて描かれたことがわかる。晴雨の周囲には、こんな妖怪絵のファンも集っていたのだ。



若さと美貌を保つためか!? 赤子を食べる娘たち
 [右] 40.6×35.8cm [左] 33.9×39.9cm [下] 25.6×34.7cm
 3点とも絹本着色 福富太郎コレクション [上]は右図の部分。

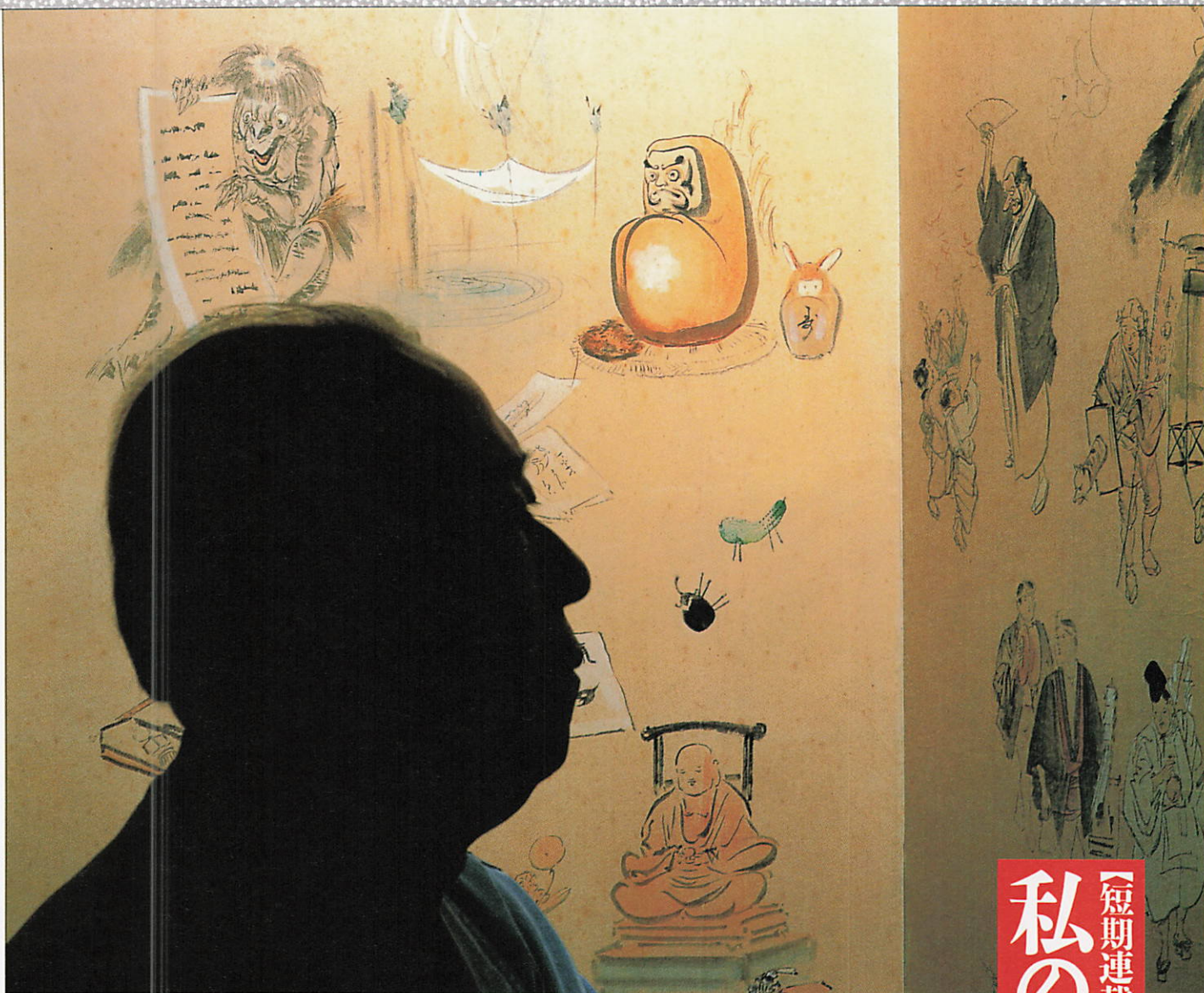
小さん師匠の お化け絵コレクション



柳家小さんが所蔵していた晴雨幽霊絵は20枚1組で全生庵に寄贈されたが、そのうち1枚は盗難にあって現在行方不明。左頁右は「うぶめどり」だろうか。出産のために死んだ女がなる幽霊で、夜な夜な空を飛び回るとか。本頁の下には河童、お盆の時に地獄の釜が開いた様子、「真景累ヶ淵」を象徴する「鎌」、「番町皿屋敷」のお菊が描かれているようだが、他の作品は何を意味しているのか謎だ。9点とも紙本著色。全て部分。







〔上〕江戸の信仰風俗を散らし描きた晴雨筆・二曲屏風の前の筆者。
〔左頁〕《幽霊》部分 絹本着色 119.1×40.4cm 福富太郎コレクション
この作品を手に入れた後、優れた晴雨作品が続々と入手できたという
コレクターにとってはゲンの良い幽霊絵。右は全図。

「短期連載」第二回 私の伊藤晴雨探究

アート・キャバレー番外編

福富太郎



昭

和三十六年一月二十八日、伊藤晴雨は死んだ。
新聞の死亡記事によれば死因は心筋こうそく、
時刻は朝七時半。明治十五年三月三日生まれだから、
七十八年十月月の生涯であった。私が晴雨の作品を蒐
めはじめたのは、その半年ほど前、三十五年秋のこと
である。

そのころ私は三十歳。神田の駅前に、念願の自分の
店を開いて三年が経とうとしていた。八月に改装して
再オープンしたばかりのその店が、火災に巻き込まれ
たのだ。幸い火元ではなく、被害もボヤ程度で済んだ
のだが、その火事現場で、私の晴雨蒐集が始まった。
火災の報せを受けて私が店に行ってみると、ポスト
ン・バッグをさげた男が立っていた。佐藤倫一郎
通称「R佐藤」、キャバレーなどの内装設計家で、店の
経営にも手を出す野心家として、その筋では知られた
顔だった。この人の口利きで、私も職場を世話しても
らったことがあったが、神田に店を開く際にトラブル
がおきて、以来ずっと絶交状態が続いていた。とはい
え、せつかく来てくれたものを無視するわけにもいか
ない。とりあえず見舞いの礼をのべ、会話を交わすう



ち、R佐藤が、こんな災難もあるからな、俺はいつもコイツを持って歩いてるんだと、バッグをさし示した。ずいぶんと重そうな鞆だがいっいたい何が入っているのか。興味津々見ていると、中から本やら絵やらが出てきた。伊藤晴雨である。

「お、晴雨じゃないか」と私が言うと、意外そうな顔をした。ほう、晴雨を知ってるのか、そいつは感心だな。で、お前はいったいどんなのを見たんだい、雑誌の挿絵か、一枚絵か、とたたみかけてくる。石版画を知ってるか、雪の中で女を責めている図があるんだが、あれはな、俺が刷ったんだ、とも言う。おや驚いた、この男、伊藤晴雨の仕事を手伝っていたのか。

確かに、いま昭和四年に出版された晴雨の『いろは引 江戸と東京風俗野史 巻の一』の奥付を見ると、印刷者として佐藤倫一郎の名が明記されている。となるとずいぶん長い付き合いだ。晴雨への思い入れもことのほか強かったのだろう。自分はいつか「伊藤晴雨センセイ」——彼は、独特のイントネーションで晴雨をそう呼ぶのだったが、その「晴雨センセイ」の一代記を作る、その図版用に晴雨作品をできるかぎりたくさん蒐めたいのだという。同じ本を二冊も三冊も買って、その中でいちばん綺麗なものを印刷に使うと聞いて、私はびびりした。そんなにたくさん蒐めるのだったら、私もおこぼれにあずかれるかもしれない。晴雨のものなら私も欲しいな、と言うと、じゃあ金を出してくれ、俺が全国を回って蒐めてやる、その代わり伊藤晴雨一代記をつくるときには、協力してくれよ——というわけで、私の晴雨蒐集は、佐藤倫一郎という人物の手を借りてスタートすることになったのだ。火事見舞いのつもりか、仲直りの記念なのか、R佐藤はその場で私に晴雨の石版画を一枚くれた。それにしても私はなぜ晴雨の描く女の顔を覚えていたのだろう。晴雨といえ、いかにも綺麗な女性の顔を描くという印象があったのだが、実はつい最近まで、子供のころに晴雨の挿絵を見て、それが頭に焼きついたのだと思ひこんでいた。ところが改めて調べてみる



いかにも晴雨 春画仕掛けの「羽織裏」 絹本着色
上図は前後の身ごろ裏、左図は袖裏。実際に仕立てると、左右の前身ごろの裏に「蛇の目傘」と「天満橋」の絵柄がくるので一見なんの変哲もない羽織になるが、実は背中と袖裏に、あられもない春画を「着込」でいるという仕掛け。こんな羽織、人前で脱ぐなんてとてもとても……。いたすら好きの晴雨らしいアイデア。福富太郎コレクション



と、私が晴雨だと思っていたその挿絵は、錦木清方が描いたものであったのだ。清方と晴雨では、画風も画格も違うと思われるかもしれない。けれども若いころの清方さんは、刺青の片肌を脱いで拳銃をぶっ放す莫連女なんぞを描いて、堂に入っていた。そのころの妖艶な清方美人の顔に、晴雨絵の女は似ているのである。絵づらだけのことでない。画中の女性を凝視するうちに、観ているこちらがなにやら妖しい気分になせられるという、絵から受ける感覚にも、相通じるものがある。清方さんの後年の本画——たとえば代表作とされる《築地明石町》となる、あくまで品の良い美人図で、ああこれか、昇華された女性美——というものがと納得させられてしまうのだが、初期の作品——なかでも泉鏡花「風流線」の挿

絵などでは、女たちはもつと婀娜な魅力に溢れていて、私はこちらの「俗っぽい」のも好きなのだ。

清方の弟子の伊東深水も、初期の挿絵には晴雨絵にも通じる妖しさがあるけれど、次第に上品な美人画へと「進化」して、とくに地毛を結び上げた日本髪ではなく、髪をかぶったモデルを多く描くようになった戦後の深水美人画となると、私はほとんど魅力を感じない。もともとはこれは深水に限ったことではなく、挿絵の流れを辿ってみると、戦前・戦中と時代が下り、戦後の混乱も一段落して社会が安定するにつれて、お行儀よい美人画が増えていったような気がする。その中で晴雨だけは変わらず、生身の女を感じさせる挿絵を描きつづけた。私が、火事現場で絵を見せられて、すぐに晴雨だと判ったのも、戦後のカストリ雑誌などに掲載された晴雨の挿絵美人が、他の画家のものよりも強く眼に焼きついていていたからだと思う。戦後の晴雨は「妖奇」「人間探究」「あまとりあ」などの雑誌を舞台に、挿絵や文章を精力的に発表していた。得意の「責め」や「風俗考証」の分野で随筆集も数多く出版しているが、そうした活動も昭和二十年代までで、以後はあまり表だった活動をしなくなる。晴雨自身の高齢のためであろうが、彼が関わっていた雑誌メディアもろ

とも、猥雑俗悪なものを切り捨てていこうとする当時の世間の風潮とも無縁ではなかったろう。

実際に作品が集まりだしたのは、晴雨の死後しばらくたってからだった。ちょうど日本経済が上向きはじめたところで、景気の上げ潮を受けて私の商売も軌道に乗り、昭和三十九年には銀座に進出することができた。経済的な余裕もでき、ちよくちよく骨董屋めぐりをするようになったのだが、そんな折には、よくR佐藤が同行してくれた。施主とのトラブル続きで店舗デザインの仕事にあふれ、毎日のように私の事務所に入りびたるようになっていたのである。なにしろ櫛をいれたこともないような半白のボサボサ頭。焼酎焼酎の赤ら顔にチョビ髭を生やし、乱杭歯からは昨夜の酒の匂いが吹き出してくる。灰が落ちるのもお構いなしの銜え煙草といった風体だから、相手の度胆を抜く迫力充分。その男が遠慮もなしにズカズカと上がりこんで来て、いきなり伊藤センセイの作品はないかと聞くのだから、向こうも呆気にとられたに違いない。晴雨といっても知らない骨董商が多かったから、はかばかしい成果は得られない。すると今度は、じゃあオマエんとは「わ印」はないかとズバリ聞く。そんなやり方だから、空振りに終わることも少なくなかったが、

晴雨に限らず時々とんでもなく面白いものを探し出してきてくれた。銀座の伊東屋裏にあった「キッチンライメン八真茂登」という店に晴雨作品が掛けてあるのを見つけたのもR佐藤で、なんとも通って盛りの多いライメンを吸りつつ、譲り受けたいと説得したそうだが、これはついに果たせなかったようだ。

とはいっても、彼だけが私の晴雨蒐集のパイプだったわけではない。私の周囲には、不思議と晴雨の作品に鼻が利く人びとが集まっていたようなのだ。ひとり雑誌「土曜漫画」の編集長だった高橋猛さん。探偵雑誌を標榜した「妖奇」や、一時は八十万部まで部数をのばした大衆娯楽誌「ロマンス」などに載った、雑誌口絵の原画が入手できたのは、猛さんのおかげである。出版人脈を生かしてのことだったろうが、ほかにも晴雨の肉筆をいろいろ見つけてきてくれた。珍しいものでは晴雨が絵筆を揮った長襦袢がある。歌舞伎役者や落語家との付き合いが広い晴雨だったから、ときに着道楽の舞台人からそんな揮毫依頼があったのかもしれない。図版にご紹介したのは比較的最近入手した羽織の裏地で、無款だが絵のスタイルも書き入れの文字も、そして何よりアイディアが、いかにも晴雨らしい。前身ごろに橋の図と蛇の目傘の図を描き、背中と袖の内側にはあられもない交合図を「着込む」わけだが、間近く見ると胡粉や金粉を使っている、これでは通常の絹本画と同じ描き方である。胡粉はすでに剥落しかけているから、たとえ羽織に仕立てても、いちど袖を通せばひとたまりもあるまい。描き手も注文主も、実際に着用におよぶとは思っていないのだ。そんな仕掛けの羽織を持っているという、遊び心が満たされるだけではないのだろう。

晴雨絵を蒐めてくれたもうひとりとは講談師の神田山陽さん。幼馴染みがわが社にいた関係で、私は一時期、山陽さんの後援会長をしていたことがある。それを恩義に感じてくれたのだろう、晴雨と親交のあった嘶家さんや寄席の関係者に渡りをつけて、作品蒐めを手伝ってくれた。古今亭今輔さんを筆頭に、晴雨と親しか



った噺家さんは多く、作品をお持ちの方も少なくなかったのである。嬉しいことに何点かを譲り受けることができた。

こうしてだんだんに手元に作品が集まってきたが、私は晴雨絵を蒐めていたとはおつぱらには言わなかった。晴雨に興味があると言ったり、作品を蒐めているなどと言うと、奇異の目で見られかねない。もともと商売柄、軟派と見られがちなものだから、そのうえ「責めのコレクター」などと噂をたてられては堪らないと思つたのである。だが、それだけが理由ではない。

実をいえば、晴雨の絵に惹かれるいっぽうで、私は晴雨の世界が怖いのだ。晴雨の絵をじっと見つめて

いると、妖しい気分になってくる。別段、誰かを縛りたくなるとか苛めたくならないのではないのだが、なんだか自分の知らない世界に引きずり込まれそうに恐ろしい。実際、晴雨の周囲には、とり憑かれたように熱狂的なファンが少なくなかったらしい。晴雨の責め絵に入れこむあまり、新聞小説の挿絵に毎旦女の責め場面を描いてほしいと頼んでくる男がいたり、またある会社重役は、嗜虐的な性向があつたのか、切支丹が十字架で処刑されるシーンを、なんと自分の似顔で描いてもらいたいと頼んできたという。本人は陶然とその絵を見ていればいいだろうが、絵を受け継ぐ次世代のコレクターとしては、まったくゾッとしない。そんな話を聞くにつけ、深入りはしたくないものと思つてしまふ。それでも晴雨の作品となると一点でも多く見たいものだから、機会があれば手に入れる。そうし

て時折、不安に襲われる。たとえば晴雨の小遣帳というの入手したことがあつた。赤い薄っぺらな表紙の小冊子で酒が幾ら何が幾らと、晴雨独特の細かい字で書いてある。なぜこんなものが古書マーケットに出回るのが不思議だつたが、しばらく手元に置きはしたものの、自分あまりに晴雨に接近しすぎていような気がして、結局は手放してしまった。

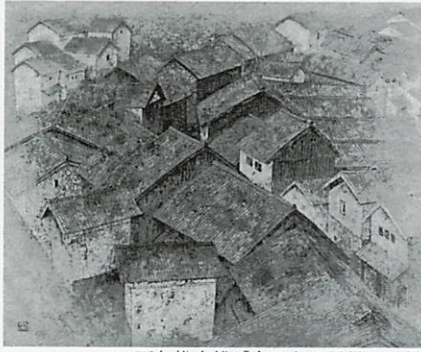
そんな揺り戻しに作品を手放したこともあるけれど、三十五年間、晴雨を蒐めつづけてきた。それだけ気になる存在でありながら、これまで一度も晴雨について、本気で考えたことがなかった。そろそろ潮時だろう。晴雨にしたって、いつまでも「責め絵師」の名のみ高く、そのくせ自分の描いた絵がほとんど一般の目にふれるチャンスがな

いというのでは浮かばれまい。今回は覚悟を決めて、できるだけ晴雨の絵をみつめ、文章を読みこんで、自分なりの晴雨像を探ってみることにしよう。というのも、晴雨の絵を見るにつけ、この画家の不遇を思わずにいられないのである。晴雨は専門の芸術教育を受けなかったわけだし、丁稚奉公も彫刻師のところだったから、絵はほとんど独学である。見よう見まねで芝居小屋の看板絵を描き、新聞挿絵を描き、新国劇の舞台絵を描きと、彼が歩いたのはいつも陽のあたらない場所だつた。竈木清方や井川洗屋ら、戦前の挿絵名手にも伍する美人画を描きながら、それとても「責め絵」の一語で片付けられてしまふ。江戸の風俗考証など、時代劇の制作現場ではすこぶる重宝されているはずなのに、いっこう晴雨の業績が評価される気配はない……。

公的には恵まれなかった晴雨だが、死の前年の三十五年、長年の業績に対し、出版美術家連盟の「連盟賞」を授与された。「罰ありと雖賞無し」と自ら書いた晴雨がもらった、生涯ただ一度の賞であつたが、実は賞を出した連盟側でもこれがただ一度きり、つまりは晴雨のために特別に設けられた賞だつたという。出版美術家連盟（現・日本出版美術家連盟）は挿絵画家の集

まりで、晴雨は会員ではなかったが、長老格として、よく連盟主催のスケッチ会などに顔を見せた。いつも冗談をいって周囲を笑わせる好々爺の、画家としての凄さも、過ごしてきた人生の凄さも、後輩の挿絵画家たちはもちろん知っていた。誰からともなく、この無冠の老絵師が元気なうちに顕彰しようではないか、と話がまとまったのだとか。生涯一絵師を通した晴雨には、仲間うちからのそんな褒賞こそ似つかわしい。授賞式に臨んで、晴雨はたいそうご満悦だったという。





西久松吉雄「倉のある風景」20号
昨年の出品画より

第2回 草創会

出品作家名

小西 通博

西久松吉雄

村岡 幸信

〈敬称略・五十音順〉

会 期

4月11日(火)——4月21日(金)

AM11:00~PM6:30

日曜日休廊



ギャラリー イツ

〒104 東京都中央区銀座1-4-6 紅雀ビル2F
Tel.03-3563-2822

【主要参考文献】

- ◆伊藤晴雨「いろは引 江戸と東京風俗野史 巻の一〜六」 昭和47年 伊藤勝千代(巻一、二)・城北書院(巻三〜六)
- ◆伊藤晴雨「女三十六気意」 昭和7年 杵古堂書店
- ◆伊藤晴雨「美人乱舞」 昭和7年 杵古堂書店
- ◆伊藤晴雨「江戸の盛り場」 昭和22年 富士書房
- ◆伊藤晴雨「枕」 昭和23年 杵古堂
- ◆伊藤晴雨「日本刊風俗図史(上・中・下)」 昭和23〜26年 杵古堂
- ◆伊藤晴雨「賣の四十八手」 昭和26年 伊藤敬次郎
- ◆伊藤晴雨「黒縄記」 昭和26年 伊藤晴雨
- ◆伊藤晴雨「危機一髪」 昭和27年 伊藤敬次郎
- ◆伊藤晴雨「与力同心岡つ引」 昭和27年 伊藤敬次郎
- ◆伊藤晴雨「性犯罪と私刑」 昭和27年 伊藤敬次郎
- ◆伊藤晴雨「賣の話」 昭和27年 杵古堂
- ◆伊藤晴雨「文京区絵物語」 昭和27年 文京タイムス社
- ◆伊藤晴雨「十二カ月行事奇形刑罰図説」 昭和28年 睦書房
- ◆伊藤晴雨「新版 美人乱舞」 昭和28年 杵古堂
- ◆伊藤晴雨「今昔談(ほくのおもひではなし)」『ドキュメント』日本人6 アウトロウ所収 昭和43年 学芸書林
- ◆高橋夜居「伝奇 伊藤晴雨」 昭和41年 豊島書房
- ◆高橋鐵「残韻画家 伊藤晴雨一代記」『漫画読本』昭和43年6月号 文藝春秋
- ◆石子順造「私性の絵家師・伊藤晴雨」『黒の手帖』昭和46年11月号 樺樹社
- ◆「二遊亭月朝全集 全十巻・別巻」 昭和50〜51年 角川書店
- ◆季刊「江戸」第二十五号 昭和55年 アトフィア出版局
- ◆林家正楽「正蔵師匠と私」 昭和63年 一声社
- ◆北原章夢「フェティシズムの修辞学」 平成元年 青弓社
- ◆城市郎「性の発禁本」 平成5年 河出文庫

天災と芸術

特集

【報告】 阪神大震災と文化財

1995年1月17日午前5時46分、震度7の文化的に豊かな土壌に育まれた神社仏閣を始め、明治の洋風建築、数奇者たちの珠玉のコレクションにも大きな打撃を与えた。現地取材によって、想像を絶する激震の傷痕をレポートする。



5月号予告



天災と戦ってきた人類の美術
世界の歴史に目を移せば、天災と戦ってきた人類の美術史がある。大噴火で埋没したために往時の生活や文化が封印されたまま残ったポンペイ、フィレンツェでは1966年の洪水を機に絵画の修復技術が格段に進歩した。あるいは安政大地震は記録画絵巻を生み、関東大震災では多くの「宝」が失われた一方で、美術を巡って感動的なドラマも生まれた。

【訂正】2月号16〜17頁の文中「牧野文平」とあるのは「横野文平」氏の誤りでした。訂正し、お詫言いたします。

室町時代に造られた重文の分厚い土塀も崩れた 西宮神社

震災で頭や腕が破損した北村正信の大理石彫刻 兵庫県立近代美術館

La bataille d'Austerlitz



Austerlitz :
 «J'ai livré trente batailles comme celle-ci, mais je n'en ai eu aucune où la victoire ait été si décisive et les destins si peu balancés.» (Napoleon)

«Nous étions là, aux premières lignes, regardant à nos pieds la défaite de l'armée russe.» (Capitaine Coignet, présent à Austerlitz)

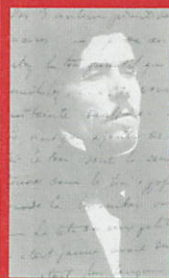
1 - La Campagne d'Autriche :

ナポレオン、皇帝の謎

École française



歴史のピラミッド、ルーブル美術館



Introduction
 Voyage with Delacroix
 The metaphysics
 Dictionary of forms
 The answer to the map

ドラクロワ、オリエントの旅

●発売予定タイトル

RMNデジタル・アートセレクションでは今後次のようなタイトルを発売する予定です。今後のシリーズにもご期待下さい。

第2弾 『歴史のピラミッド、ルーブル美術館』
 平成7年8月発売予定

第3弾 『ナポレオン、皇帝の謎』
 平成7年9月発売予定

第4弾 『ドラクロワ、オリエントの旅』
 平成7年10月発売予定

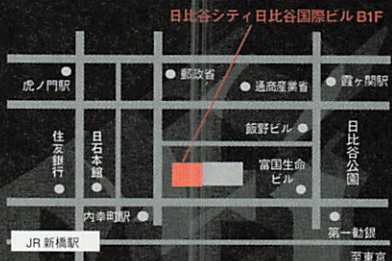
第5弾 『サンディエゴ号の財宝』
 平成7年10月発売予定

第6弾 『歴史の終着駅オルセー』
 平成7年11月発売予定

こちらのCD-ROMは下記のショールームで御覧になれます。

NEC CD-ROM SPOT

なお、CD-ROM SPOTでは通信販売を行っております。
 詳しくはショールームまでお問い合わせください。



●東京/〒100 東京都千代田区千代田 2-2-3
 日比谷国際ビル B1F TEL.03-3593-1238
 営業時間・11:00~19:00 (土日、祝祭日はお休み)



●大阪/〒540 大阪市中央区城見 1-2-24
 NEC ショールーム C&C プラザ 1F TEL.06-945-3555
 営業時間・平日 9:00~17:00 (水曜日は 19:00まで) 土日、祝祭日 10:00~17:00

●RMNデジタル・アートセレクションシリーズは、RMN(フランス国立美術館連合)との提携によりフジテレビジョンとインフォシティが共同開発する本格的な美術CD-ROMシリーズです。

・RMN:REUNION DES MUSEES NATIONAUX/フランス国立美術館連合
 ルーブル、オルセーをはじめとするフランスの主要34国立美術館からなる公団

制作・発行/フジテレビ
 制作/株式会社インフォシティ

©フジテレビ/インフォシティ1995



Réunion
 des Musées
 Nationaux



INFOCITY
 COMPUTER & MEDIA TECHNOLOGY

※ Windows は米国 Microsoft 社の商標です。※ その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

RMINデジタル・ポートレイト

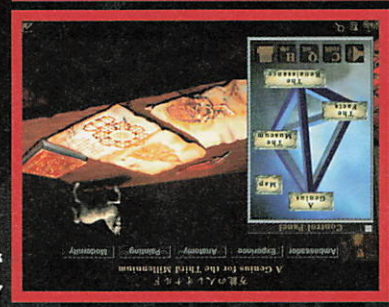
第1弾：1995年4月発売

[レオナルド・ダ・ヴィンチ]

—ルネサンスの天才—

CD-ROM/WINDOWS版 価格9,800円(税別)

歴史上の語りで謎への扉が開かれる。生涯に20数点しか描かなかった史上最高の画家、
 ダ・ヴィンチ。建築家にして音楽家、哲学者にして科学者、社交家として人間嫌い、絶世の美男
 で同性愛者、その複雑な人間性が今、明らかに。『モナリザ』『最後の晩餐』など全ての絵
 画をCGアニメで解説、3Dグラフィックスで現代に生まれ変わった数々の発明や発案。ハイ
 パーピンクで織り上げられる“ヴァーチャル・ルネサンス”
 ‘94年カンヌ・マルセイユ祭最優秀賞受賞作品





日本画絵具で描けば、日本画になる。

●「彩(いろどり)」絵てがみセット(PPケースSM入り)/日本画絵具「彩」(5号チューブ)12色セット・膠液・プラ梅皿・ビニール角筆洗・マツ鉛筆・紫極筆3本(長峰面想<中>・彩色<中>・平筆No.3)・和紙ハガキバック 9,950円 ●「彩(いろどり)」色紙セット(ソリッドケースF6透明入り)/日本画絵具「彩」(5号チューブ)12色セット・膠液・プラ梅皿・ジャバラ筆洗<大>・マツ鉛筆・優彩筆4本(長流<中>・則妙<大>・彩色<大>・聽毫面想<大>)・平刷毛No.7・筆筒丸型<大>・和紙バッド手洗二双色紙・麻紙ボード色紙・教本「楽しい色紙」 23,260円 ※表示されている価格はすべて税別の価格です。

スーパー・アーティスト 柳瀬正夢の 多忙な多忙な45年間

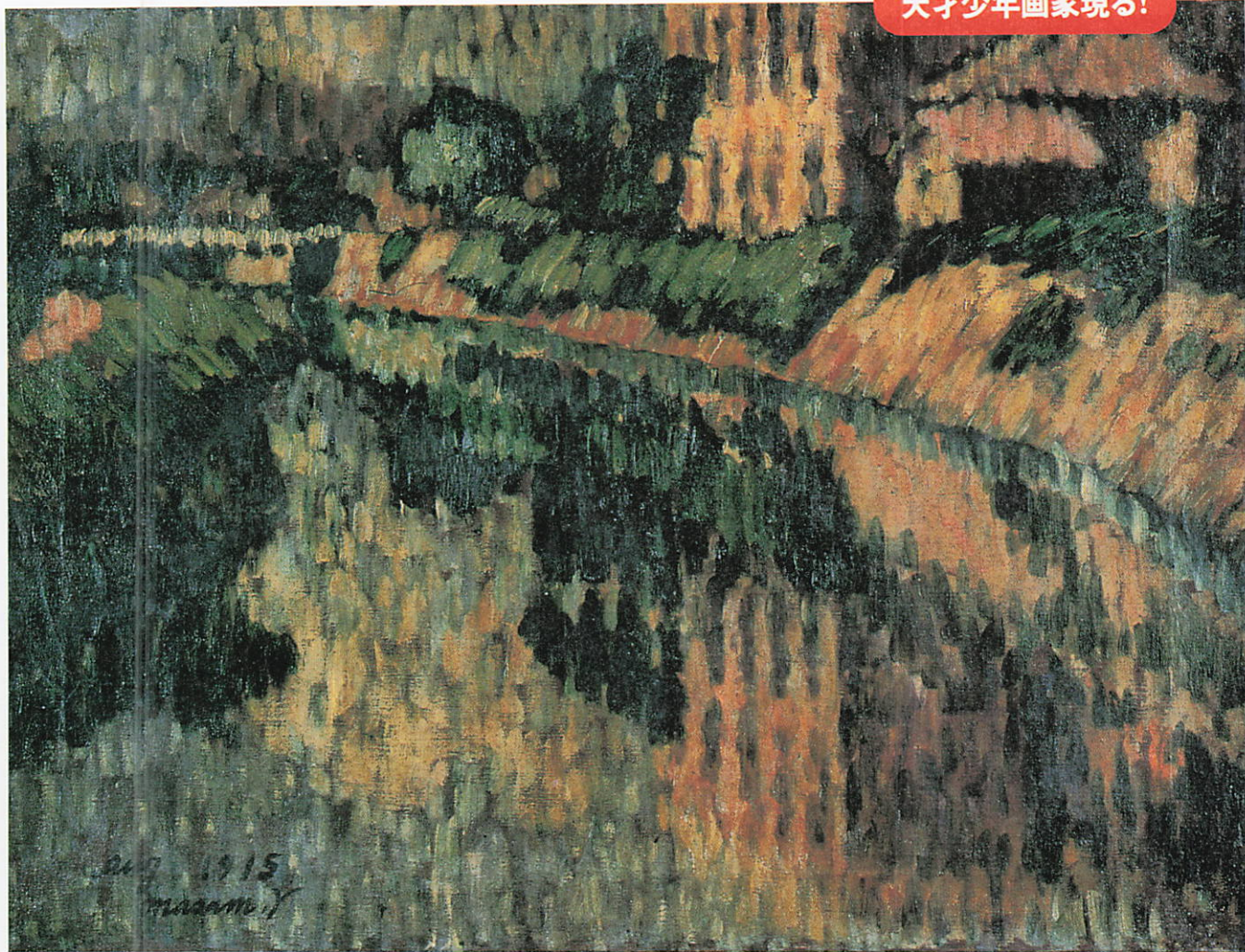
◆ 没後50年記念 画布からあふれ出した筆跡 柳瀬正夢展 2月24日▼4月9日 愛媛県久万町・町立久万美術館 松山市・南海放送サンパーク美術館

ART NEWS



終戦の直前、新宿駅の空襲で柳瀬正夢が無念の死を遂げてから半世紀、その45年の長くはない生涯に彼が遺した仕事はあまりに多彩である。早熟の天才少年画家、大正の前衛アーティスト、プロレタリア美術運動の闘士、卓抜したグラフィックデザイナー、軽妙洒落な漫画家——その才気あふれるマルチぶりの奥にいる柳瀬正夢という男、さて、いったい何者だったのか？

▲柳瀬正夢16歳の自画像は、この天才少年画家の輝くような自負を雄弁に語る
《自画像》 1916(大正5)頃 油彩、紙 32.6×26.2
武蔵野美術大学美術資料図書館寄託



[上]わずか15歳の院展入選作《河と降る光と》は、少年・柳瀬正夢の名を高からしめた
1915(大正4) 油彩、カンヴァス 45.3×60.5 武蔵野美術大学美術資料図書館寄託
[下]少年時代を過ごした門司の風景は、繰り返し画題となった
《門司港》1919(大正8) 油彩、カンヴァス 88.0×141.0 岩波書店

柳瀬正夢は11歳で松山から移り住んだ門司で、本格的に洋画と出会い、画家になることを決心する。父の反対を押して1914年（大正3）上京。松山出身の画家・水木伸一を頼って、彼の寄宿する小杉未醒宅を訪ね、そこで村山槐多を知った。後年、柳瀬の遺品から槐多の油彩の代表作《尿する裸婦》と同一モチーフの木版画やデッサンが発見されたことは、ふたりの交流の深さを物語り、翌年帰郷する際に友人に託した作品《河と降る光と》が再興第2回院展に入選、小宮豊隆は「色彩を分析する感覚と色彩を綜合する感覚とを、可成多量に賦与されている」と賞賛、柳瀬正夢の名を一躍世間が知るところとなった。わずか15歳の鮮やかなデビューである。



柳瀬17歳の裸婦デッサン[上]は、村山槐多が同年描いた裸婦像[左]にどこか似た雰囲気漂わせる。わずかな時期濃密に交際した2人の天才が一緒に描いた可能性も？
[上]《裸婦 上半身 左斜め》1917（大正6）木炭、紙 61.7×47.6
武蔵野美術大学美術資料図書館寄託
[左]村山槐多《裸婦》1917（大正6）木炭、紙 52.0×28.0 信濃デッサン館

画

家・柳瀬正夢が亡くなったのは1945年昭和20年5月25日、終戦のわずか80日前である。その夜、長野に疎開していた長女を見舞うために新宿駅にいた彼は、そこで空襲に遭遇したのだった。消息の知れない彼を捜し歩いた朝子夫人がトラックの荷台に積まれた死体のなかに柳瀬を見つけたのは29日のこと。享年45歳。あの夜、新宿駅の空襲で亡くなったのはわずか9人ほどだったという。

終戦とその後の新しい時代を見ることなく生を終えた柳瀬正夢は1900年明治33年生まれ。つまり彼は20世紀の前半部と並走した人だった。明治末から大正を経て第2次大戦へと至る半世紀はまことに濃密、その時代を生きた柳瀬の生もまた濃密だった。早熟な天才少年画家にはじまり、大正の前衛アーティスト、プロレタリア芸術家、グラフィックデザイナー、漫画家、舞台美術家という多彩な肩書は、かえって柳瀬正夢というひとりの人間の実像を見えにくくした。「柳瀬の」如何なる作品ものがさず年代順に編集すれば、特色ある、壮大な激動期の日本の歴史書が出来るであろう、そう書いたのは柳瀬の生涯の友人であり後の岩波書店会長、小林勇だった。45



▲田端に仮住まいしていた頃の柳瀬正夢 村山槐多が夢中になったのも頷ける美少年ぶりだ 壁にその槐多の木版画《尿する裸僧》が飾られている 1916(大正5)頃



大正の前衛美術運動の渦中で

年間を超人的な多忙さで駆け抜けた柳瀬正夢、さていったい彼は何者だったのか。
本名正六。小さい頃「ひょうろく」と囃されたこの名を彼は嫌った。「正夢」の名は、竹久夢二への傾倒によるとも正夢をかけたともいわれる。愛媛県松山市に生まれるが、11歳で門司に移り、そこで本格的に絵と出会った。1912年(大正1)春、小倉の延命寺で三宅克己らによる洋画展が開かれたのである。この展覧会によっておぼろげに洋画の概念を知

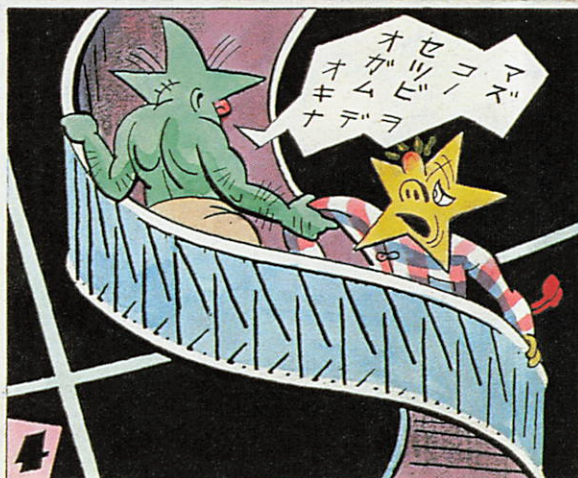
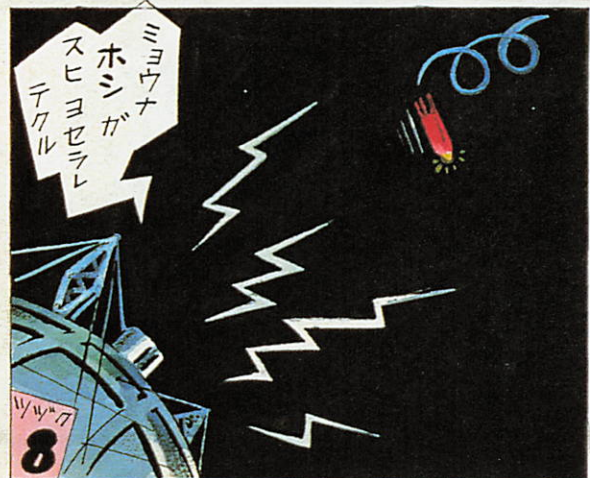
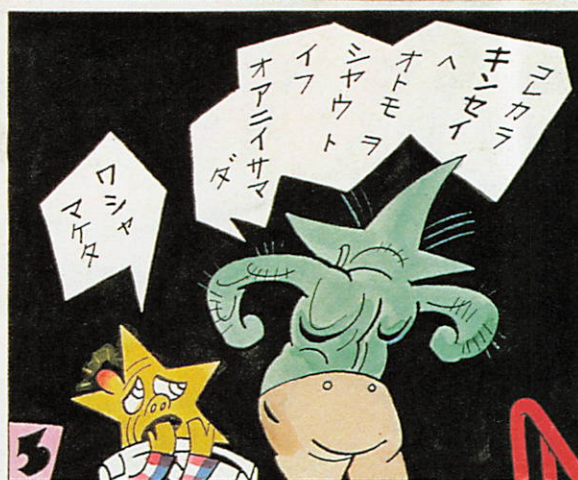
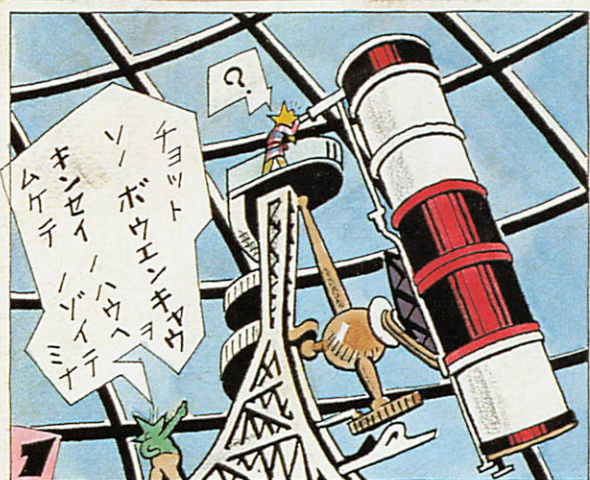
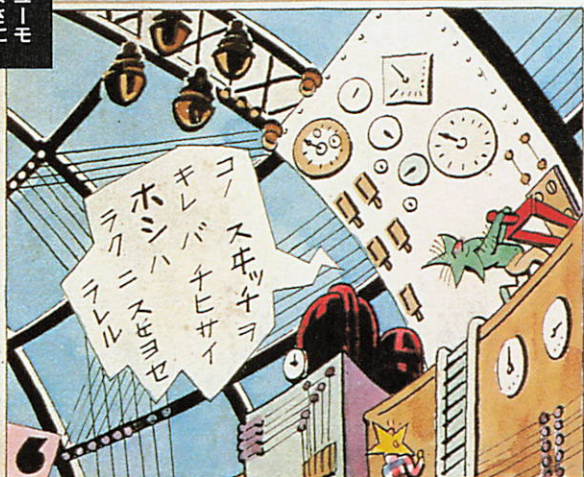
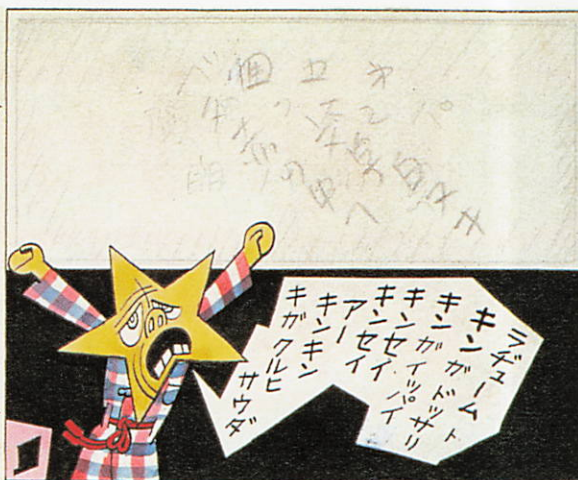
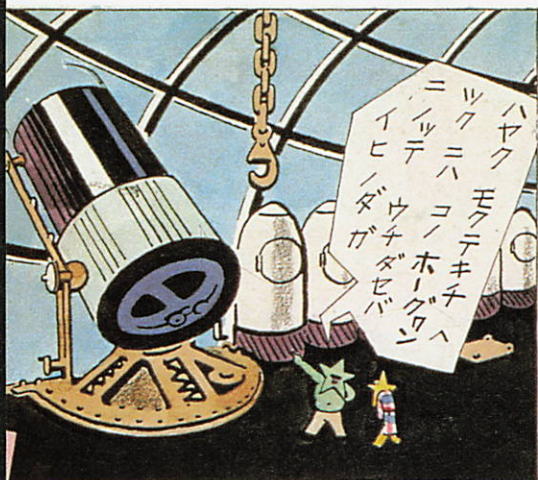
った柳瀬は、洋画資料を集め、岸田劉生らが結成したヒュウザン会展覧会目録などを取り寄せた。少年の旺盛な知識欲はあらゆる刺激を求め貪る。だが父親は彼が絵を描くのを嫌い、見つける端から破り捨てた。
高等小学校を卒業する頃、父に画家志望を告白した。「死んじまえ」と罵声を浴びたが柳瀬の心は固く、14年(大正3)9月上京。東京美術学校選科受験のためだったが、すでに試験は終わっており、田端の小杉末醒宅に寄宿



未来派、キュビズム、表現主義など同時代の「前衛」に惹かれた柳瀬が、1923年村山知義らと結成したのが前衛芸術グループ「マヴォ」だった
[上]マヴォ第1回展出品作《5月の朝と朝飯前の私》 1923(大正12) 油彩、カンヴァス 44.0×44.0 武蔵野美術大学美術資料図書館寄託
[左]柳瀬はマヴォ同人たちの姿を軽妙にスケッチブックに描きとめた 左端は村山知義 1923(大正12)頃 東京都現代美術館

柳瀬は似顔絵の名手だった。対象の特徴をたちまち把握しユーモラスな誇張で描くことに長けていた彼にとって、漫画はまさにうってつけのメディア。まず舞台は『読売新聞』。1920年（大正9）に入社した彼は時事漫画を描いた。その後1930年に創刊の『読売サンデー漫画』では「金持ち教育」を連載。子供向け漫画も手がけた。またその一方では、プロレタリア芸術家の面目躍如たる痛烈な政治漫画を『無産者新聞』に発表し続けたのだった。

マンガを描いても天才!?

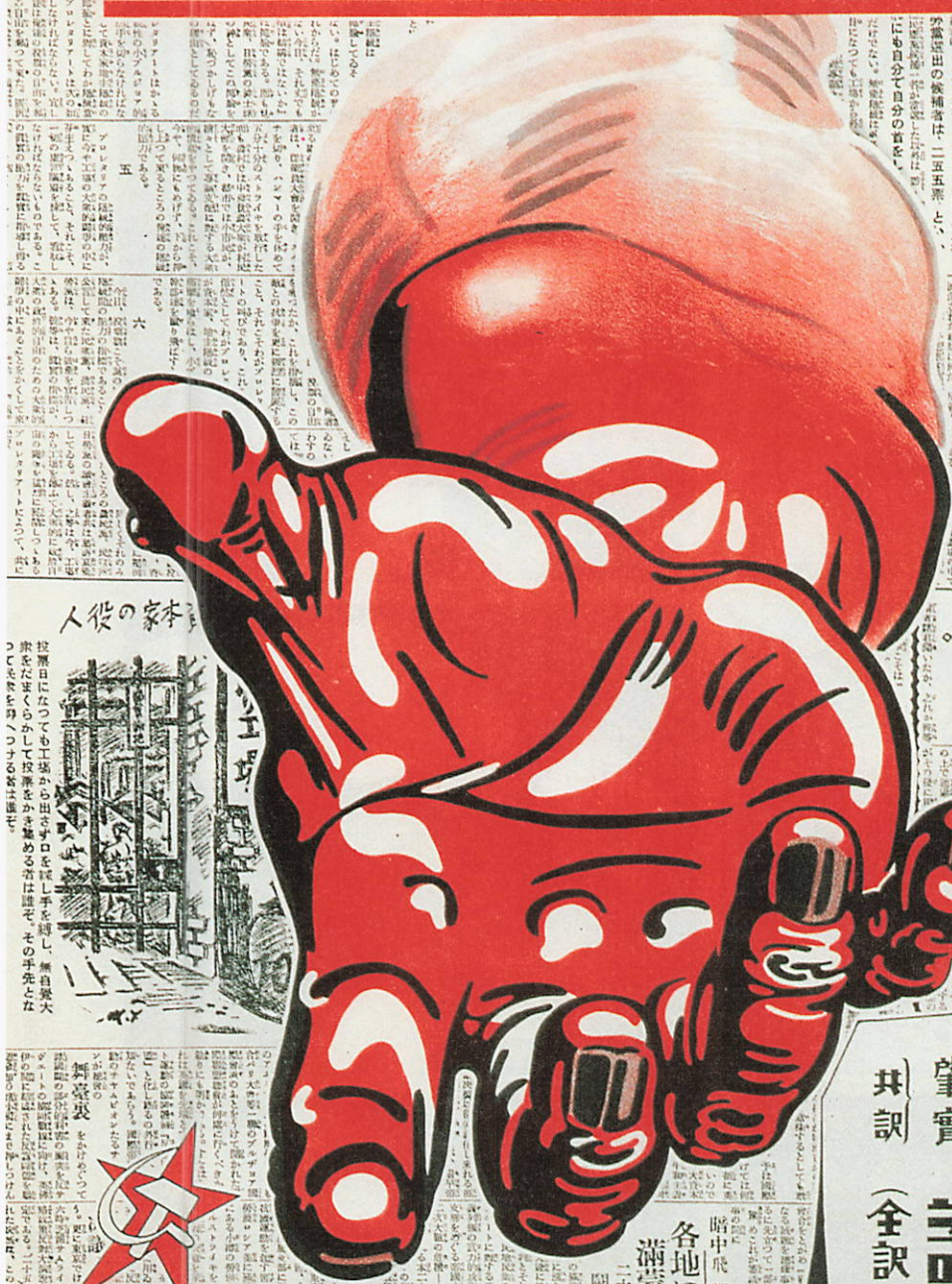


子供向け漫画『パン太の冒険』より連載第5回
ペン・墨・水彩・コンテ、紙 37・0×23・7
1931（昭和6）
武蔵野美術大学美術資料図書館寄託

無産者新聞

五万の読者と手を握れ

全民族の味方無産者新聞を讀め!!



愈々
思弄され
さる
甚だし
は自縄自縛
労働者を監視する
明るい政治
清き一票に
降服した日労働

九億の血税はどう
使はれてゐるか
十五銀行と国際汽船
（部立）
（部立）

各地に起る
満蒙侵略反對運動
開争を決意に継続せよ！

共 肇 上 河 版庫文波岩
訓 實 川 宮
（全訳） スフルマ
論本資 巻一才
來出 冊分一第
20 銭
店書波岩

八十二時間及佐南区芝市京東
番三七六二話電 番二九二六京東座口替振
社聞新産無



八面六臂のグラフィックデザイナー



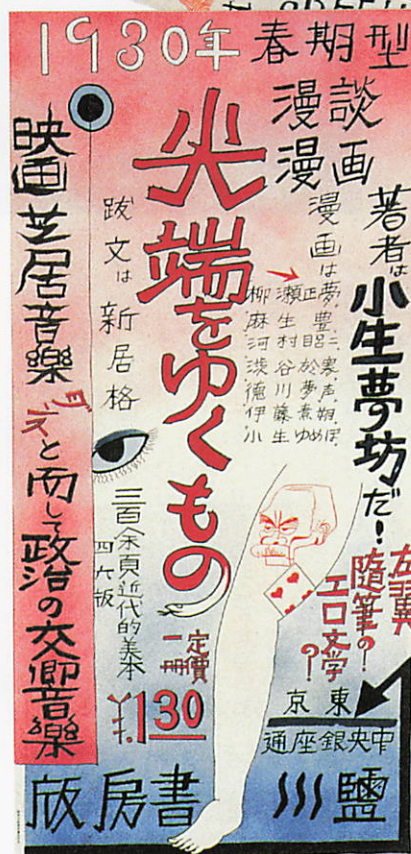
[右上]《小川未明選集 予約募集》 1925(大正14) 印刷、紙 77.3×40.5
武蔵野美術大学美術資料図書館寄託(この頁4点とも)

[右下]《尖端をゆくもの》 1930(昭和5) 印刷、紙 76.0×37.1

[左上]《地主の三士が農民の味方大山か》 1928(昭和3)

印刷、紙 92.2×61.9

[左下]《全農第16回全国大会》 1936(昭和11) 印刷、紙 56.2×41.7



柳瀬の多彩な才能のなかでも、「質」と「量」の両面で総合した場合にもっとも抜きん出るものは何だろうか？ グラフィックデザイナーとしての柳瀬の活動は、プロレタリア芸術運動への没入と時期を同じくしている。右頁の突き出された腕が「無産者新聞を読め!!」とプロレタリアートに呼びかけるボスターは彼の代表作だが、その脅迫的なメッセージがけつて硬直した印象にならないのは、柳瀬のデザイン・ワークに因るところ大だろう。彼はなによりタイポグラフィのセンスが抜群だった。大胆で力強いが粗雑ではなく、細部にまでも神経がゆきとどき、どこかしらユーモアと洗練とを漂わせる。それが柳瀬のデザインの特徴だった。今日これを超えるデザインがいったいどれほどあるだろうか？ ボスターだけではない、本の装幀、雑誌の表紙など、膨大な量の仕事に柳瀬のデザイン魂は爆発的に開花したのだ。

する松山出身の画家・水木伸一を訪ねた。そこには村山槐多が同居しており、彼ら3人はしばらく共同生活を営んだ。美少年趣味の槐多は柳瀬を気に入った。槐多の日記には「柳瀬が美しくなつた」「危険且病的な戯れの夜を柳瀬と共に寝る」などあるし、柳瀬もまた槐多が自分の「頬へ痛い接吻を食はし」たことを記している。ふたりの親密な交流は束の間だった。5年後、22歳で槐多は病没する。

少年・柳瀬はたしかに天才だった。ほとんど独習にもかかわらず10代の作品は驚くべき早熟を示す。《河と降る光と》が再興第2回院展に入選するのは15年(大正4)のこと。地元でも天才と騒がれたが、父は息子の受賞をなかなか信じなかった。

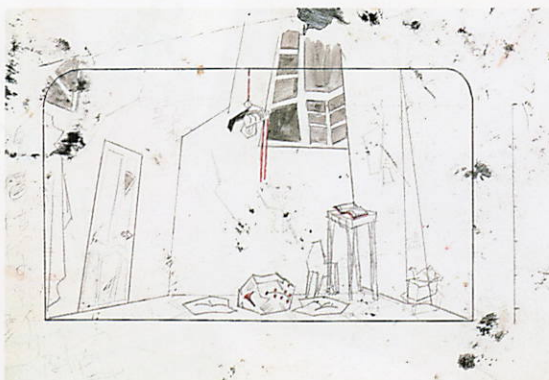
柳瀬が東京に本格的に居を定めるのは19年(大正8)である。この年ジャーナリストとして名高い長谷川如是閑の知遇を得ており、翌年彼の斡旋で読売新聞社に入社、24年に辞めるまで漫画を描いた。同時代の美術動向に敏感だった柳瀬は、表現主義、キュビズム、未来派などの新しい表現に感応しては画面も変貌を遂げた。未来派美術協会を経て、23年(大正12)には村山知義や尾形亀之助らと前衛美術グループ「マヴォ」を結成。大正アヴァンギャルドのただなかに彼はいた。

だが柳瀬の「前衛」時代は長くない。すでに如是閑主宰の「我等」、種々人などの雑誌で活動していた柳瀬は、急速にプロレタリア芸術運動に傾斜してゆく。その契機となったのが関東大震災。このとき彼は社会主義者の嫌疑で憲兵隊に逮捕され、虐殺を危うく免れた。27年(昭和2)に彼は「自叙伝」と題する文章を雑誌「ユウモア」に発表し、冒頭で「大正12年9月1日」が自分の生年月日だと記した。

舞台美術家としての仕事ぶり

もともと柳瀬が社会主義思想と出会ったのは15歳、以来彼のなかで「社会主義と絵画との不断の闘争が初つた」。そしてこの「自叙伝」は、自らの「更生使命」を「組織的無産階級解放運動」と謳う宣言でもあったのだ。

25年(大正14)に共産党の機関紙「無産者新聞」が創刊されれば専属漫画家として健筆を揮い、翌年創立された日本プロレタリア芸術連盟では中央委員をつとめた。28年(昭和3)



柳瀬は優れた「舞台美術家」でもあった。1923年(大正12)には秋田雨雀の先駆座に参加、その後も前衛座、新劇協会、プロレタリア劇場、築地小劇場などで次々と斬新な舞台装置を手がけた下の写真《土蔵劇場試演舞台》は、その名のとおり土蔵を劇場に使用したユニークな舞台で、上の《カリガリ風室内》はおそらくそのためのスケッチだろう。1923(大正12)頃 武蔵野美術大学美術資料図書館寄託(2点とも)▶

全日本無産者芸術連盟結成に参加。31年には日本共産党入党。この頃の彼は油絵を描かず、もっぱら装幀、ポスター、風刺漫画といった印刷メディアを舞台に活躍した。その量は半端でなく、彼はおそろしく多忙だった。当時の左翼的出版物はほとんど柳瀬の装幀によるものだったという。彼のグラフィック・ワークは今日の眼でみても素晴らしいもので、ポスターに見られる大胆かつ洒落たデザイン処

理、書き文字の流麗さは、堅苦しい左翼的イデオロギーを軽々とはみ出して視覚に訴えかける。声高な政治的メッセージのなかにもユーマアを失うことがない。これら印刷メディアでの仕事には、10代にはじまる彼の芸術家としての経験蓄積が総合されたことだろう。

だが28年の「三・一五事件」、翌年の「四・一六事件」と続く共産党への大弾圧によって、柳瀬の活動は非法化へ向かう。彼の仕事にねじ釘マーク●のサインが登場するのはこの頃で、28年に知りあった小林勇が岩波書店を辞めて興した鉄塔書院の出版物、大山郁夫著『嵐に立つ』(29)の装幀が最初。彼は社会における一本のねじ釘でありたいという願いをこめ、その簡潔にして力強い意匠を以後、手がけた作品すべてに描きこんでゆく。一方で30年彼は読売新聞社に復帰する。新設された漫画部に所属し、『読売サンデー漫画』創刊にも参加した。32年には『読売新聞』でモーリス・ルブランの小説「真夜中から七時まで」の挿絵を手がけ、119回もの連載においてモン・タージュなどを駆使した実験的な絵を描いた。『合法』と『非法』の振幅のなかで、柳瀬はそれぞれに充実した仕事を達成したのだった。

治安維持法違反容疑で特高に逮捕されたのはその新聞連載終了直後の11月である。過酷な取調べと拷問の日々を彼は沈黙で通し、しまいには特高も首をあげた。妻の梅子が面会に訪れた際、特高が席を外した隙に柳瀬は素早く色紙2枚に絵を描き、小林勇宛に託した。1枚が次頁に掲げた雪景色、もう1枚は小林の姪の初節句を祝う雛人形の絵だったという。過酷な日々にあつてこの気遣い、それが柳瀬の精神のありようだった。柳瀬は獄中にあつた33年8月、妻・梅子と死別する。周囲の尽



EMILIO GRECO

《Grande bagnante n.2》

水浴の女(大) No.2

1956—57 227×65×55cm ブロンズ

ギャラリー ユニバース 1

本社・東京都中央区銀座7-16-21 銀座本拠ビル1F
電話 03-3542-1311(代表)

ギャラリー ユニバース 2

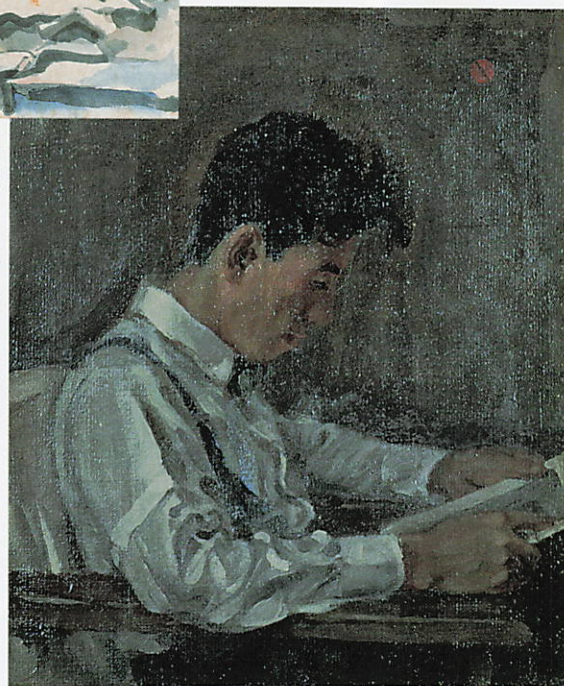
東京都江東区新木場1-4-5 篠西林内
電話 03-3522-1323

GALLERY UNIVERSE



[上]1932年(昭和7)柳瀬は治安維持法違反容疑で逮捕された この雪景色の絵は夫人が面会に訪れた際、特高の隙をみて色紙に窓外の風景を描き、こっそり手渡したものである 激しい拷問の日々にあつて、このような晴朗な風景を描いた柳瀬の精神は、遂に転向することがなかった 1933(昭和8) 水彩、紙 24.0×27.0

[右]出獄後の柳瀬は油彩を描く気を失っていたという それを説得し、自らモデルとなって油彩復讐第1作を描かせたのが、小林勇だった 絵の裏側には「NO 1」と朱書されている《Kの像》1934(昭和9) 油彩、カンヴァス 45.6×38.2



治安維持法違反で逮捕、そして……

彼は読売新聞で漫画を描きながら、日本各地や中国に旅行してはスケッチを描き、油彩を描いた。39年には松岡朝子と再婚。この頃の風景画にはかつての進るエネルギーも造形上の実験も見られないけれど、洲之内徹は「ほんとうの山や海がかいてあり、しかも、柳瀬の沈痛な心情や寂寞がにじんでいて心を搏たれる」と評した。もし柳瀬が戦後に生きただ

力で5日間の仮出所が認められ、梅子は柳瀬を待つていたように息を引き取った。同年9月、保釈決定。判決は懲役2年・執行猶予5年。転向はしないが実践活動もしないことが条件だった。保釈後、柳瀬は読売新聞社に復職している。しかも彼が逮捕されている間も給料は支払われ続けていた。それらは正力松太郎の厚情だったが、周囲の人間をそうさせずにおかないところが柳瀬の魅力だった。以後、

ら、その「沈痛な心情や寂寞」を乗り越えて、再びどのような造形世界を開いたことだろう。洲之内徹は小誌連載「気まぐれ美術館」で柳瀬のことをたびたび書いた。ふたりは同郷であり、洲之内もまた左翼運動で柳瀬と同年に逮捕された。36年(昭和11)、松山の洲之内の実家に「ヤナセ」と名乗る人物が訪ねてきたが、20分ほど留守にしたため遂に会う機会を失ったことを洲之内は地団太踏んで悔やんだ。彼はその後78年に松山で開かれた柳瀬正夢遺作展を手伝うが、この展覧は反ファシズムの左翼芸術家としてのみ扱われがちだった柳瀬の全貌を初めて明らかにするものだった。同じ年、洲之内が柳瀬について書いた文章に、対し小林勇が多少の反論をこめた一文を寄せ、さらに洲之内が応える、そんなやりとりが小誌で展開された。小林は自ら柳瀬本人と深く交わった思いから、また洲之内はついに会うことはなかったというこれまたひとつの縁によって、ふたりはそれぞれに柳瀬正夢像を自分のなかで結び、書いたのだった。面識のなかった洲之内と小林とを誌面で束の間結んだのもまた、柳瀬正夢という縁であった。



甦れ！沖縄のきんきらキングたち

その昔、東シナ海とくろしと貿易船を馳せ巡らせた琉球王国。小さいながら繁栄を誇ったこの国の王たちは、美しい城に住み、豪華な漆器を作らせ、その死後描かれた“御後絵”と呼ばれる肖像画も華麗を極めた。だが昭和20年の沖縄戦は、王たちのこれらの遺産をほとんど灰にしまったのだった……

ART NEWS

◆「東京芸術大学大学院博士後期課程研究発表展'95」 [1月6日▶2月26日 東京芸術大学芸術資料館]

▲佐藤文彦《尚穆王御後絵》 1994
 アクリル・顔料、綿布・絹・和紙 162.0×166.0
 御後絵は王の死後描かれた肖像画で、“おごえ”または“うぐい”と読む。
 原画は沖縄戦で焼失したが、戦前の写真[左頁上]を元に、推定復元した

14世紀から16世紀にかけて、東シナ海一円の中継貿易で栄えた琉球王国は、当時は日本よりむしろ中国との関係が深かった。国王たちの死後に描かれた「御後絵」と呼ばれる肖像画で、王たちが中国風の豪華な衣装（中国皇帝から贈られたもの）を身に纏うのもそのため、彼らは中国皇帝に臣下の礼を取り、大陸の文化を導入することに努めた。1609年の島津家の侵略で王国の繁栄は翳るが、天皇や将軍の肖像画より遙かに立派な歴代王の御後絵が、なお19世紀半ばまで描かれ続ける。戦前の沖縄は首里城や円覚寺（王家の菩

向元湖《尚穆王御後絵》1796 紙本着色 154.1×154.0▶
琉球の画家は、中国福建省へ留学して絵を学んだ。御後絵も中国皇帝の肖像画の様式に倣う。王が身に纏うのは冊封（琉球国王たることを中国皇帝から認めて貰う儀式）の際、皇帝から贈られる皮弁冠服という衣装。歴代王の御後絵は、戦前、鎌倉芳太郎氏が撮影した写真10点が残るのみである



▼悲劇の王も、こんなにキンキラキンだった？

佐藤文彦《尚寧王御後絵》1994

アクリル・顔料、綿布・和紙 162.0×177.0

島津氏に侵略され、人質として連行された悲劇の王の肖像



提寺。御後絵はここに祀られたなどの国宝建築や、種々の美術・工芸品の宝庫だった。残念なことに、その大半は「鉄の暴風」と呼ばれた昭和20年の沖縄での激戦で、破壊されたり焼失したりしてしまう。御後絵もこの時失われたが、恐らく17点あったうちの10点については戦前のモノクロ写真が辛うじて残り、図版の華麗な御後絵はそれを元に、東京芸術大学大学院の佐藤文彦が推定復元したもの。佐藤は「とにかく派手だった」「全体の印象は青っぽかった」などの、御後絵についての僅かな証言を頼りに手探りで彩色を試みた。だが戦前、御後絵を実見した沖縄文化研究者の眞栄平房敏氏によれば、これも本物の御後絵の華やかさには遠く及ばぬらしい。とにかく

人物も衣装も、実物そのままの写実的描写で、王冠の宝石もあればサファイヤ、これは珊瑚、真珠とみな見分けがつく。王様がちょうど等身大になるよう描かれた、それは大きな掛け軸で、年に一度七夕の日に尚王家の邸宅の書院にずらりと掛け連ねました（当時、円覚寺から移してあった）。その時にはまず、奥の貴婦人方が盛装で出て来られ拝礼します。御後絵は傷みもなく光輝くような美しさ、目の当たり玉座の前に出て王様方の謁見を賜るような感じがしました。佐藤は、さらに厳密な考証をして御後絵復元に再挑戦したいと言った。また沖縄の研究者たちの手による復元作業も始まった。往時さながらの王たちにお目見え出来る日も、そう遠くはなさそうなのである。

▶円覚寺仏殿 円覚寺は沖縄随一の寺で、尚王家の菩提寺、15世紀末の創建。御後絵はこの寺に祀られていた。沖縄の建築を代表する存在として首里城と共に旧国宝に指定されたが、いずれも沖縄戦で灰燼に帰した。撮影・鎌倉芳太郎提供・沖縄県立芸術大学「本頁も」





ブックデザインで見渡す戦後50年

◆「日本のブックデザイン展1946-95」 [2月6日▶28日 キンザ・グラフィック・ギャラリー]

ART NEWS



戦

後から今日までの50年間に刊行された書籍の数は、どのくらいあるのだろうか。しかもそれらすべてが「装幀」という、どれひとつとして同じでない衣装を身にまとっていることを考えると気が遠くなる。もちろんはるか昔から本には装幀がつきものだった。夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』上・中・下巻（明治38〜40）を橋口五葉が手がけたのが近代日本の装幀史の嚆矢ともされるが、それから美麗を誇る工芸品めいた本もいろいろ「同時代」に刊行さ

われわれにとってより切実な本とは戦後という「同時代」に刊行さ



▲出品作の一部から……装幀：栗津潔（大江健三郎著「万延元年のフットボール」1967 講談社）／装幀：花森安治（花森安治著「一五五厘の旗」1971 暮しの手帖社）／装幀：花森安治（島田巽著「ふだん着の英国」1955 暮しの手帖社）

[右頁]「日本のブックデザイン展1946-95」会場 2つのフロアを使い、ギャラリー地階には1946年から84年[上]、1階には85年から95年まで[下]、約80人の装幀家が手がけた書籍約700点が年代順に並んだ

れた膨大な量のなかにこそあるのではないか。このたび開催された「日本のブックデザイン展1946-95」は、その意味で時宜を得た企画だった。戦後の装幀の系譜を総括する試みはおそらく初めて。会場は連日盛況で、3週間の会期中に5400人が訪れた。この数字は装幀に対する潜在的な関心の高さを示すだろう。そしてまた今回の展覧では、いくつかのことを考えさせられたのだった。

1946年から95年まで刊行年代順に整然と本が並ぶ会場を巡れば、本とは、装幀とは、時代を映す鏡であることがわかる。たとえば栗津潔、横尾忠則、平野甲賀、菊地信義といった第一人者たちは現在進行形の装幀家であるにもかかわらず、彼らの仕事はそれぞれに60年代代であったり70年代代であったりと、帰属する固有の時代の匂いをどこか漂わせる。それはつまり、1冊の本にどのようなかたちを与えるかによって時代と密接に関係してきた彼らの「個人史」が、戦後という時代のなかでくっきりと立ち上がっているからなのだ。だがそのことを十全に伝えるには、会場に並ぶ本はあまりに少ない。戦後という

時代を象徴するのは、まず何より「量」だろう。良くも悪くも大量消費のシステムのなかで形成されてきた戦後のブックデザインという運動を見せるためには、装幀家約80人の自選作品700冊では足りない。展示作品の「行間」に隠れてついに登場することのない膨大な本について考えずにはいられないのだ。会場のかなりを占める贅を尽くし



た豪華本もいっそ不要。さらに当然入って然るべき装幀家たち、とりわけ杉浦康平という巨人の手掛けた本が1冊もないことは、事情もあつたろうが致命的ではないか。ともかく初の試みであることは評価しつつ、より理想的なかたちの戦後ブックデザイン展を今後に期待したい。たとえば会場まるごと書店の棚のような構成なんてどうだろう。観客は時代順にぎゅっしり並ぶその棚から、好き勝手に手に取っては眺め、戦後50年という時代の厚みを身体で感じるのである。

出品作の一部から……装幀：平野甲賀（植草基一著「雨降りだからミステリーでも勉強しよう」1972 晶文社）／装幀：羽良多平吉（稲垣足穂著「一千一秒物語」1990 透土社）／装幀：原弘（北杜夫著「月と10セント」特装愛蔵版 1971 朝日新聞社）／装幀：菊地信義（古井由吉著「極」1983 福武書店）▶

あな珍しや！

酒井抱一のブローリング襖絵

アヴァンギャルドな趣向を凝らした抱一の襖絵を筆頭に、出品作の全てが初公開という三井文庫の館蔵品展 三井家の蔵の奥深さを示す、知られざる珍品・逸品を御覧あれ

◆「館蔵絵画の逸品展」4月4日▼26日（前期）4月29日▼5月28日（後期）三井文庫別館



襖の表面に貼った細い板を「風」に見立てる奇抜な表現―
酒井抱一「秋草に苑図襖」部分 全図は次頁に掲載





▲酒井抱一《秋草に兎図襖》江戸後期(19世紀)
紙本薄板地淡彩 各面162.5×84.0 展覧会後期出品



洒

脱な画風で知られる江戸琳派だが、それにしてはこの襖絵を見て何と言っべきか？ 秋草は伝統的な画題だし、月や兎も秋のお決まりではあるが、野っ原を吹き渡る秋風の、見たこともないこの表現！ 幅約25センチ、厚さ1ミリ弱という細く薄い板によって、画面左上から右下へと吹きつける風を表してしまったものなのだ。その板地の上に描かれた秋草は、見事に風になびいて見えるではないか。作者は、江戸琳派を代表する酒井抱一(1761-1828)。しかしこんな手法で風を表現した奇抜な絵は、他の画家はもちろん、抱一その人にも類例がないという。

◀水面にまで気を配った土佐派の繊細な花鳥画
土佐光起《水辺白菊図》江戸前期(17世紀)
絹本着色 47.7×74.2 展覧会後期出品
一見何の変哲もない絵[上]だが、静かな水面に目を凝らすと、うっすらと菊の影が……

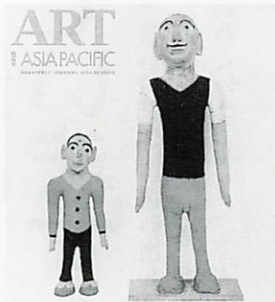
GIB ARTS International



World Art

(English/quarterly/U.S.A.)

ニューヨーク、メルボルン、ベルリン、東京にエディターを持つ「ワールド・アート」は、世界中から最先端のビジュアル・アート、ネクスト・カルチャー、思想を先鋭的視点で紹介する世界初のグローバル・マガジンです。
(英語/季刊/アメリカ)



Art and Asia Pacific

(English/quarterly/Australia)

昨年創刊の「アート・アンド・アジアパシフィック」は、現在注目を浴びつつあるアジア、パシフィック地域のコンテンポラリー・アートを各地の専門家によって紹介・分析します。
(英語/季刊/オーストラリア)



neue bildende kunst

(German/bimonthly/Germany)

アートの拠点となりつつあるベルリンから発信される「nbk」誌は、ドイツのコンテンポラリー・アートをカバーするだけでなく、ヨーロッパを中心とした世界のアートシーンを的確に取り上げ分析することで定評があります。
(独語/隔月刊/ドイツ)

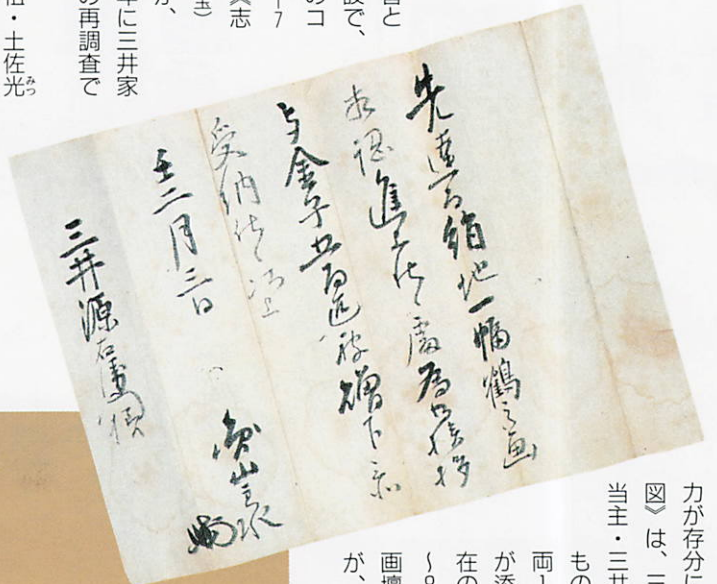
お申込みはお近くの書店へ。お問い合わせは下記宛お願い申し上げます。



(日本洋書販売配給株式会社) 雑誌部
東京都新宿区大久保 3-14-9
TEL.03-3208-0187 (直通)

このトリッキーな模絵を始め、財団法人・三井文庫の蔵品の中から、これまで紹介されることのなかった絵画約30点が初公開される。会場となる三井文庫別館は三井各家から同文庫に寄贈された美術工芸品約3600点と切手類約13万点の保管と研究・展示を目的とする施設で、1985年の開館。同文庫のコレクションには、円山応挙(1733-1795)の《雪松図》や《志野茶碗 銘卯花壇》(ともに国宝)など著名な作品が含まれるが、今回初披露となるのは、近年に三井家から贈られたものと、蔵品の再調査で明らかになった作品である。

江戸時代の土佐派中興の祖・土佐光起(1617-1691)の《水辺白菊図》は、水面に映る菊の影までを繊細に描き出した通好みの逸品。この光起は、鶉の絵で名を馳せたというが、細密描写の冴える《鶉図》は、その実



力が存分に発揮された作品だ。応挙の《双鶴図》は、三井六本家のひとつ、新町三井家の当主・三井源右衛門の依頼によって描かれたもので、絵の代金「金子五百匹」――両一分を受け取ったという応挙の書状が添えられているのが貴重。これを現在の貨幣価値に換算すると、およそ7〜8万円にあたるという、当時、京都画壇のトップの座にあった応挙の画料が、意外に安かったことが分かる。

出品作は展覧会の前期・後期で展示替えの予定(既述の作品は全て後期出品。他にも、『江戸名所図会』『武江年表』の著者・斎藤月岑(1804-1878)の作とされる記録画絵巻《寛永元年宝生太夫一代勸進能図巻》(前期出品)と《嘉永二年小金原狩獵図巻》(後期出品)、あるいは京都・方広寺の火災に取材した作者不詳の《寛政十年大仏炎上図巻》(後期出品)も見逃せない。大家の作品から記録画まで、三井家コレクションの懐の深さを実感させる展覧会である。



◀円山応挙《双鶴図》 寛政4年(1792)
絹本着色 98.8×36.0 展覧会後期出品

「言いつけ虫」を封じ込めろ!! 「庚申信仰」を知っていますか?

60日に1度の庚申(かのえさる)の日には、眠った人間の身体から「言いつけ虫」が這い出して天帝にその人の悪行を告げに行く、ゆえに夜を徹して起きていて精進すべし——それが「庚申信仰」だ 江戸時代に日本全国に広まったこの庶民信仰はいまも各地に根強く残っているという……

◆「青面金剛と庚申信仰」展 1月31日▼3月12日 町田市立博物館

ART NEWS

◀幕末の「庚申講」の様子を描いた《庚申日待絵図軸》
万延元年(1860) 肉筆彩色 129.9×59.4
絵の作者・千輝(ちぎら)玉斎は、いまの群馬県玉村町にあった旅館「万屋」の婿養子で、この図にはその万屋で行われる庚申講の様子——徹夜の慰みとして義太夫や博打が行われるさまが細々と描かれる。てんこ盛りのご飯を食べるのは同地の庚申の晩の風習とか
▼現在の庚申講風景(山形県遊佐町十日町庚申講)





▲これが人体に巣くう「言いつけ虫」と「三尸虫（さんしのみし）」だ！
《庚申縁起》より 文政3年（1820）写 彩色 26×44 秋田市太平町黒沢大かえ講蔵
庚申信仰の由来を絵図入りで説いた珍しい《庚申縁起》。なかでも目を引くのが、この
三尸九虫の図である。上の3組が三尸で、普段は人の手の形や小鳥のような姿で人の
身中に潜むが、庚申の晩には鬼や馬などに変身して猛威を揮う。何やら回虫やダニの
類を連想させる九虫は、三尸がさらに細かく分かれたものだ。詞書きによれば九虫の
それぞれが、頓死病や不食病、眼病、腹痛・腰痛といった病を引き起こすのだという
*P88-91の掲載作品は、すべて「青面金剛と庚申信仰」展出品作



庚申 申様とか庚申堂、庚申塚という言葉を一
度は耳にしたことがあるはず。だが
それがどんな信仰に基づくものが、こぞじだ
ろつか。庚申信仰とは、一言でいえば「長生
きするためには庚申かのえさるの晩に徹夜す
べし」という信仰だ。古来中国では人間の
体内には「三尸」という虫が棲んでいて、庚
申の晩に人の眠りに乗じて天に昇り、寿命を
司る天帝にその人の悪事を告げる」と考え、
庚申の晩に徹夜をする習俗があった。それが
8世紀頃日本に伝わり王朝の人々の間で信仰
されていたが、室町時代になると仏教や修験
道と結びついて「庚申待」という仏教的色彩
の強い信仰形態が成立する。江戸時代にはこ
れが庶民にも広まって、沖繩と北海道を除く
日本全国で庚申待が行われるようになった。
この庚申待のために町内や村落ごとに結成
されたのが「庚申講」だった。講のメンバー
は60日に1度の庚申の晩には1か所に集い、
真言や般若心経を唱えて、一番鶏が鳴くまで
徹夜した。眠けを払うために大いに飲食し、
時に博打や余興なども行われていた。その様
子は、幕末、上州（群馬）の文人画家・千輝玉

▲各地の庚申堂は、今も篤い信仰をあつめる
京都市・八坂庚申堂[下]でも、健康を祈願
する「括り猿」の奉納がひきまきらない[上]
写真提供：町田市立博物館（右頁右も）

▼庚申信仰を全国に広めた立役者は「大津絵」だった
 〈青面金剛像軸〉 江戸時代 岩手県石鳥谷町大興寺第十一区庚申講蔵
 この大津絵の青面金剛は、いまでも現役のご本尊として祀られている

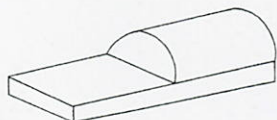


庚申信仰のご本尊「青面金剛（しょうめんこんこう）」

【上】〈青面金剛像軸〉 江戸時代 肉筆彩色 85.1×36.2 大和郡山市金輪院旧蔵

【左】〈青面金剛像〉 江戸時代 木彫 高62 大和郡山市金輪院蔵

中世末から庚申信仰のご本尊の座についたのが青面金剛。仏教に帰依した鬼神という。経典によればその体は青く手は4本で眼は3つ、鬚髯や蛇を身にまとい足下には2匹の邪鬼を踏みしめる。「庚申様」として祀られるようになると、お供の2童子のほかには4人の夜叉と、猿（時には見ざる言わざる聞かざるの三猿）、鶏などの眷属も加わった



絵は心の手紙です
第1回全国

「かまぼこ板の絵展覧会」 作品公募

■応募要項

テーマは自由です。とにかくかまぼこ板の上に絵を描いてください。ただし、作品は未発表のものに限ります。(1作品、1枚～100枚まで可)

なお、応募作品は全て「ギャラリーしろかわ」オープン2周年記念として展示一般公開します。また、入賞作品については一切の権利を城川町が有し、その他のものについては返信用封筒(切手貼付)を同封された方のみお返しいたします。

■応募の資格

プロ、アマチュアは問いません。
世界各国どなたでもOKです。

■応募の方法

1人何点でも結構です。ただし、必ず1作品ごとにかまぼこ板の裏に絵の題、住所、氏名(ふりがなも)、年齢(学生は学校名、学年も)、電話番号を明記して下さい。

■応募の締切り

1995年5月10日まで。(当日消印有効)

■あて先

〒797-17 愛媛県東宇和郡城川町大字下相680
町立美術館「ギャラリーしろかわ」
「かまぼこ板の絵」展覧会係
TEL. 0894 (82) 1001代 FAX. 0894 (82) 0756

■審査員(アイウエオ順・敬称略)

岡崎昌之(福井大学専任講師)
折笠勝之(洋画家)/富永一郎(漫画家)
浜美枝(女優)/山田幸子(アナウンサー)

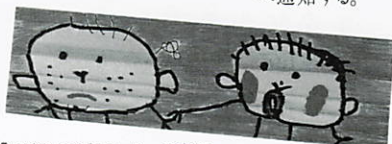
■賞と賞金

最優秀賞(1点)……………賞金30万
優秀賞(10点)……………賞金5万
入選(40点)……………賞金1万
佳作(100点)……………南予名産かまぼこ詰合せ

■特別賞

愛媛県知事賞(1点)
愛媛県教育長賞(1点)

入賞者の発表は
マスコミを通じて
発表の上、入賞者
へ通知する。



「ぼくのおとうちゃん」3才児

城川町

齋が描く通り戸。ここにはてんこ盛りのご飯も描かれているが、「大食」は農村部に共通する庚申の晩の習俗であるという。また、庚申の晩は様々なタブーがあり、特に男女の同衾は禁物で、この日に身籠もった子は盗賊になるといって用心！

さて、こうした庚申講で本尊として祀られたのが仏教に帰依した鬼神といわれる「青面金剛」だった。神道の影響を受け「猿田彦大神」などを祀ることもあったが、それは少数派。千輝玉齋の絵でも奥の床の間に青面金剛の絵が掛けている。江戸初期の大津絵や石仏に始まって、かの円空も青面金剛を彫っているし、各地の庚申堂に関連して彫られ、描かれた青面金剛像は数知れない。酒井抱一や葛飾北斎の描いた青面金剛像も現存する。そうした青面金剛像には、お供としてふたりの童子、4体の鬼、鶏や猿と一緒に描かれることが多い。猿は庚申の「申(さる)」に因むものだろうが、猿に縁の深い山王信仰と庚申信仰との深い結びつきを暗示するものでもある。一方、庚申の徹夜は一番鶏とともに終わるから、鶏



の登場は自然の成り行きといえようか。信仰儀礼であるばかりか、地域の親睦や昔話を語り継ぐ場でもあった庚申講も、明治以降の社会構造の変化で、その数は激減した。だが、秋田や青森をはじめとして現在も続いている講は少なくないという。そして、大阪・四天王寺、京都・八坂、大和郡山・金輪院など各地の庚申堂は、今も篤い信仰を集めている。元来は長寿延命こそが庚申様のご利益なのだが、庶民信仰として広まるうちに豊作・商売繁盛・病氣治癒・夫婦和合など、ありとあらゆる願いが庚申様に寄せられることとなり、近年ではなぜか「失禁治癒」のご利益を説く庚申堂もあるという。庶民信仰ならではの「たくましさ」だろうか。

▲松本市上野庚申堂が発行した青面金剛像3種 かなりの歳月を経た刷り物[右]から印刷された現行版[左]まで、表現は変わっても、無病息災を願う庶民の祈りは同じ





▲「戦争作品」展(ロンドン)より 戦争ゲームを主題にしたアナ・フォックスの写真

「ストリート・スタイル」展(ロンドン)よりヘビメタ・ファン着用のジャケット(部分)▶

博物館入りした!? 街角のファッション

London

70年代のパンクの流行以来、ストリート・ファッションの発信地となったロンドンでは、街を歩く若者の数だけファッション・スタイルがあるといわれる。ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館で開かれた「ストリート・スタイル」展(94.11.16~95.2.19)は、40年代以降、街角で生まれ育ったファッションを、特に音楽との結びつきに注目しながら文化人類学的手法で体系化した興味深い展覧会だった。愛聴する音楽やライフ

女性作家が模索する 戦争と写真の関係

London

モッズ、ロッカー、80年代のニュー・エッジ・トラベラー、そして90年代のサイバー・パンクなど、50をこえる「種族」たちの特徴的なファッションが、実際に着用された衣服やアクセサリーで紹介された。各種族が生まれた時代背景やほかの種族との関係をパネルで解説、こうした種族の発展・継承の流れを一目で追える「系図」も掲げられて、この半世紀の若者のファッションの展開が立体的に見える。有名デザイナーによるハイ・ファッションの歴史的回顧はしばしば行われてきたが、風俗として簡単に片づけられることが多かったストリート・ファッションを初めて体系づけた今展は、現代におけるファッションの意味を改めて考えさせる。

写

真というメディアにとって、「戦争」は最も劇的な主題のひとつだ。しかし両者の関係はいわゆるフォト・ジャーナリズムの観点から語られることが多かった。その固定観念を打ち破り、戦争と写真の新たな関係を模索するのが、ヴィクトリア&アルバート

美術館の「戦争作品」展「Warworks: Women, Photography and the Art of War」(94.11.30~95.2.19)。出品したのは日頃から写真手法で制作する女性作家11人。戦場でシャッター

を押すかわりに、独自の視点で戦争のイメージを撮った100点以上が出品された。たとえば、アン・ノグレルが撮影したのは、第2次大戦中活躍したアメリカの女性パイロットたちの現在のポートレート。モイラ・マッカイバーは、精神を高揚させるべくデザインされた軍服に、官能美を見いだそうとする。マーサ・ロズラーは、何の変哲もない家庭の風景に唐突にヴェトナムの戦場場面を登場させて、平穏な市民生活と戦争の脅威が実は隣り合わせであることを表現した。アメリカ在住の日系人マズミ・ハヤシは戦時中の日系人収容所の跡を撮った写真コラージュと収容者の証言テープとで日系人の戦争体験を再構築している。ロバート・キャバに代表される戦場での写真を、「男たちが捉えた戦争」とするのなら、それとは全く違った戦争の姿を、女性写真家による今展出品作は確かに写し出している。

フランス中が祝う 映画100年

Paris

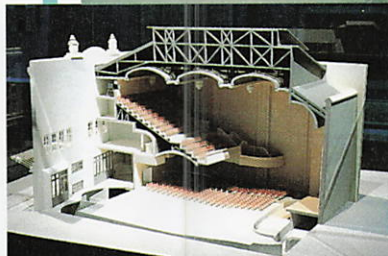
ユミール兄弟がパリ、カピュシーヌ大通りで初めてシネマトグラフを発表したのが100年前。地元フランスでは、映画100年を記念する企画が目白押しだ。さまざまな特集上映、リュミール兄弟作品のテレビでの放映、そして5月のカンヌ映画祭もテーマは「映画100年」である(その詳細は直前まで秘密だという)。ポンピドゥ・センターほかでは、映画会社の草分け、パテやゴモンの歴史などを紹介する展覧会が開催された。そのうち、カルナヴァレ博物館が企画したのは、パリと映画の関わりを「映画館」で探る展覧会「大画面のパリ、素晴らしき映画館 1895~1945」だった(1.17

14~30)。パリには今も、シャンゼリゼ、オペラ座周辺、オデオン座周辺などなどいくつもの映画街があるし、東洋風の奇怪な外観を見せる「バゴダ」やモンマルトルの「レックス」など、古き良き時代を偲ばせる巨大な映画館も残っている。この展覧会では、第1次映画黄金時代の1931年に建築された「モザール・パラス(モーツァルト宮)」など、失われた名映画館の数々を精巧な模型で再現。ほかにポスターや映写機などを展示して、往時のパリがいかに「映画館の街」だったかを実感させる。このほか、2月22日から3月28日まで、パリの広告掲示板1500カ所に、トリュフォーの「終電車」(91)からカラックス「ボンヌフの恋人」(91)までパリを舞台とした映画24本のポスターが張り巡らされ、パリの街角そのものも展覧会場となった。

シンディ・シャーマン 試行錯誤の魅力

New York

このところ、人形を被写体としてクロトスケな表現を続けるシンディ・シャーマン。今回の個展「1.22~2.11 メトロピ



◀「大画面のパリ、素晴らしき映画館 1895-1945」展(パリ)より 模型で再現された往年の代表的映画館「モザール・パラス」
photo: Olivier Pighetti



▲シンディ・シャーマンの新作展より(N.Y.)

東独の「国家発注芸術」をいま検証する Berlin

クチュア②では、長辺が2メートルほどの大作9点と6枚組の作品1点が発表された。紫のベルベットに横たわる女性の人形の頭部は、乱杭歯の二つ目小僧。バラバラの頭部、胸部、下腹部が串刺しされたように繋がっている女性像。そして、6枚組の作品は、皮を剥がれピカソの絵のように歪められたおぞましい顔面のクローズアップである。基本的には近年の作風を踏襲しながら、統一的な主題がなく作品ごとに違ったイメージを打ち出しているのが今回の特色だ。また、二重露光や大胆なクローズアップ、チバクロームによる色彩の強調など多彩な画像処理が、今までとは一味違う異様さを演出している。この多彩な新作にはまとまりがないという批判もある。だが、作風を維持しながら新たなイメージを生もうとするシャーマンの苦闘の率直な表れとして、むしろ好感が持てた。

か

ねてより論議的となっていた旧東ドイツの国家発注芸術を歴史的に検証する展覧「Auftrag: Kunst 1949-1990」が、ベルリンのドイツ歴史博物館で開かれた「1・27」4・18。会場では、42年間の東独時代に芸術家たちに発注された絵画・彫刻から一年につき一点が選ばれ、年代順に並べられた二部は写真や模型を展示。作家と発注者の間の書簡ほかの関連資料、そして出品作家へのインタビュー・ビデオなども展覧され、社会主義下の芸術家と作品の運命を浮き彫りにして反響を呼んだ。出品作は、政府(社会主義統一党)がその時々求めた国家のあり方を如実に反映している。50年代初めまで、作品の主題は「国家建設」を直截に表す建築現場が主流で、ついで労働者の群像や働く母親像も奨励された。やがて、市民革命や東独の国家行事などに題材をとった独自の「歴史画」の模索が始まる。党の方針が柔軟化した70年代に入ると、従来の英雄的な労働者像が、醜悪なまでに人間臭く個性的になるのは興味深い。市民の余暇や「生きる喜び」がテーマとなるものもこの頃から。そして、80年代には抽象作品や社会主義に否定的な内容の作品も受け入れられるようになるが、最後まで革新的な芸術作品は現れない。こうした国家発注芸術の歴史には、様々なエピソードも残っている。たとえば、第3帝国時代にはヒトラー御用達だった彫刻家に、レーニンやスターリン像が発注されたという信じがたい事実。また、壁画の下絵を6回も描き直させられた画家、軍事クーデターの謀叛人たちの顔をあまりにリアルに描いて修正を命じられた画家、そしてベルリン駅構内に完成させた大壁画が「形式的主義的」という理由で廃棄された作家もいた。

▼旧東ドイツの国家発注芸術を検証する展覧(ベルリン)より[下も] J・F・ロッゲによるレーニン像



ナチ政権下でJ・F・ロッゲが制作したヒトラー像▶



クリスティーズで開かれた、沈没船「ダイアナ号」のオークション(アムステルダム)よりそれぞれ17万円〜22万円ほどで落札された▶

珊瑚の生えた中国陶磁も沈没船オークション Amsterdam

1 87年、中国(清)の広東からカルカッタに向かっていたイギリス東インド会社の貨物船ダイアナ号は、マラッカ海峡で謎の沈没をとげた。さる3月6日、7日の両日、アムステルダムでクリスティーズで競売に掛けられたのは、このダイアナ号が積んでいた中国陶磁およそ24000個! 昨年マレーシア政府が引き揚げに成功したものである。ディナーセット、スプーンやシチュー用の蓋物など、19世紀初頭のヨーロッパの趣味に

合わせてデザインされた中国陶磁の数々は一種のタイムカプセルでもある。84年以来何度か沈没船オークションを手掛けてきたクリスティーズによれば、珊瑚の生えた染付皿のように長年の海底生活を物語るものもある一方、全般に保存状態が良く、また制作年代が比較的新しいために価格が手頃なのが今回の特徴だという。セールは好調で、落札価格の総計は予想の2倍以上の220万ポンド(約3億4000万円)に達し、2点組の染付果物籠が約170万円の最高価格を記録したが、未だ2万円程度から10万円内外で落札された中国陶磁も多い。コレクターならずともちよっと参加してみたいくなるセールだった。

【取材】………悠木愛子(ロンドン)

永島章雄(パリ) 近藤竜男(ニューヨーク) 足立加代(ベルリン)

この10年ほどで、明治美術は急速に脚光を浴びつつある。発掘や研究の進展とともに展覧会

も増加し、明治美術の多彩な魅力に触れる機会も多くなっている。そんな状況の中、宮内庁の明治美

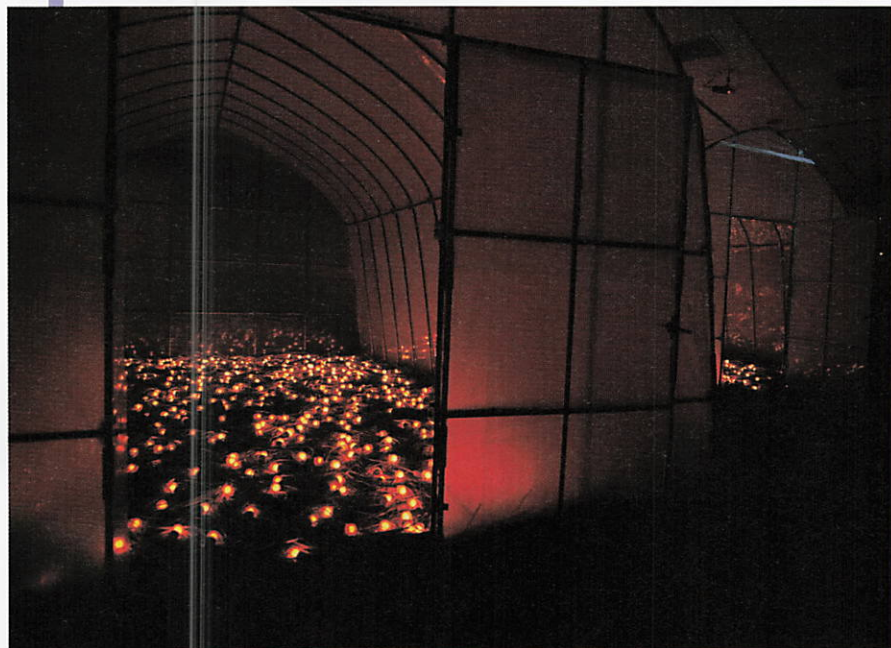


▲柳源吉《陸海軍連合演習》1890 油彩、カンヴァス
95.5×150.0 宮内庁三の丸尚蔵館蔵

日の目を見始めた 皇室明治美術コレクション 「明治美術再見」展

美術コレクションがついに公開され始めた。明治維新後の天皇家は、当時の美術家にとって新たなパトロンであったため、制作の御下命作品の御買上げ、あるいは献上によつて多くの作品が皇室に納められた。これらは明治美術を語る上で重要な作品群なのだが、一部の作品以外は実際に目にするのが難しかったから、今展はまさに待望の展覧。油彩画と金工を皮切りに、他の分野も順次紹介していく予定という。出品作には文字通りの初紹介品も多く、中でも高橋田一の息子・柳源吉（1868〜1913）が、明治天皇も参加した軍事演習を描いた大作は、不肖の息子とされてきた源吉像の見直しを迫る渾身の力作である。「1・4〜3・5 宮内庁三の丸尚蔵館」

“魂”をハウス栽培した作間敏宏



会 場に入ると、そこは暗闇。その闇の底で、淡い光を放つものがある。やがて目が馴れると、三つのビニールハウスが並び、その中に敷かれた藁の上で無数の豆電球が仄かに光っていると知れた——作間敏宏（57）は今展の作品を《治癒》と名付けた。「肉体が傷ついても、やがてかさぶたの下から新しいピカピカした肌が見れる

ように、一部が死んでも全体としては生き続けてゆく生命のあり方」に魅かれているという作間はまた「弱々しい存在の方にリアルな命を感じる」と語る。消える寸前まで調光されたこれらの豆電球も、単純な仕掛けながら、命の比喩、魂の比喩として確かな効果を上げて、見る者を静かな情感で満たした。「2・6〜27 ギャラリー日鉦」

◀作間敏宏「治癒」展会場

STARDUST





北欧の椅子親父 ハンス・J・ウェグナーのワンマンショー

多 少たかをくくっていたから驚いた。会場にびっしりと並ぶのはただ椅子ばかり、その数100点を、これまたびっしり並んだ観客が老いも若きもカッパルも、飽くことなく眺めている。ハンス・J・ウェグナー(14)がデザインした椅子だけを集めてその半世紀の仕事を回顧しようという、実に極端な展覧会である。北欧といえどまずデザイン、優れたデザイナーたちを輩出し家具の名作も数

多い。デンマークではアルネ・ヤコブセンらと並んで名高いウェグナー、彼の名を何よりも高からしめたのが椅子のデザインだった。木という人の肌に優しい素材を用いた表現にこだわるところは、他のデザイナーと違って自身、腕のいい家具職人あがりである彼らしい。ちなみに今展の出品作、すべて椅子のコレクター・評論家である織田憲嗣氏のコレクション。「2・14〜28 パークタワーホール」

大 岩オスカル幸男(65)は日系ブラジル人と世、4年前に活動の舞台を東京に移した。大岩の作品は東京という都市の断片を拾い集め再構成した、一種の騙し絵による物語だ。今展はタンテの「神曲」に倣い、会場の三つの壁をそれぞれ地獄、地球、天国に見立てている。例えば図版の「ペアトリーチェ」——「神曲」では天国に住まうこのダンテ永遠の恋人の顔を、大岩は落ち葉やゴミで描き出す。同様に工事現場の情景が涙を流す男に見え、機械と螺旋階段の組合せから地獄の鬼の顔が現れる。聖女も鬼もガラクタの寄せ集めにしてしまう大岩の皮肉や屈折は、そのタッチが明るいだけに却って胸に響いた。「2・24〜3・25 スカイドアートプレイス青山」

大岩オスカル幸男の 壁芝居

大岩オスカル幸男展会場▶
作品は《ペアトリーチェ》
1994 鉛筆・アクリル、合板
244.0×158.8 80万



ま るで左官屋さんが壁塗りをするように、パレットナイフで絵具を塗り込めている。一見不規則に見えるが、そこにはあるリズムが確かにあって、平塗りされた幾筋もの絵具が、顔の輪郭や目鼻を浮かび上がらせている。緑川俊一(47)は、そうやってもう20年以上も顔だけを描き続けてきた作家だ。彼は「人間のどこが見たいかといえば、まず一番に面が見たくなる」と言う。その面の皮をひっぺがし、筋肉を露わにしたかのような彼の顔たちは、時にユーモラス、時に奇怪……人間の内側にある本性を描いたものか。いや、緑川自身が生きてきた人生の「瞬間瞬間の『自画像』」なのかも知

緑川俊一の いい面の皮

れない。画面には、この画家の性根のすわったこだわりが濃密な緊張感となって漂っていた。「2・20〜3・4 ギャラリー川船」

緑川俊一展より 1994 油彩、カンヴァス
[左]61.0×50.0 55万 [右]41.0×32.0 30万

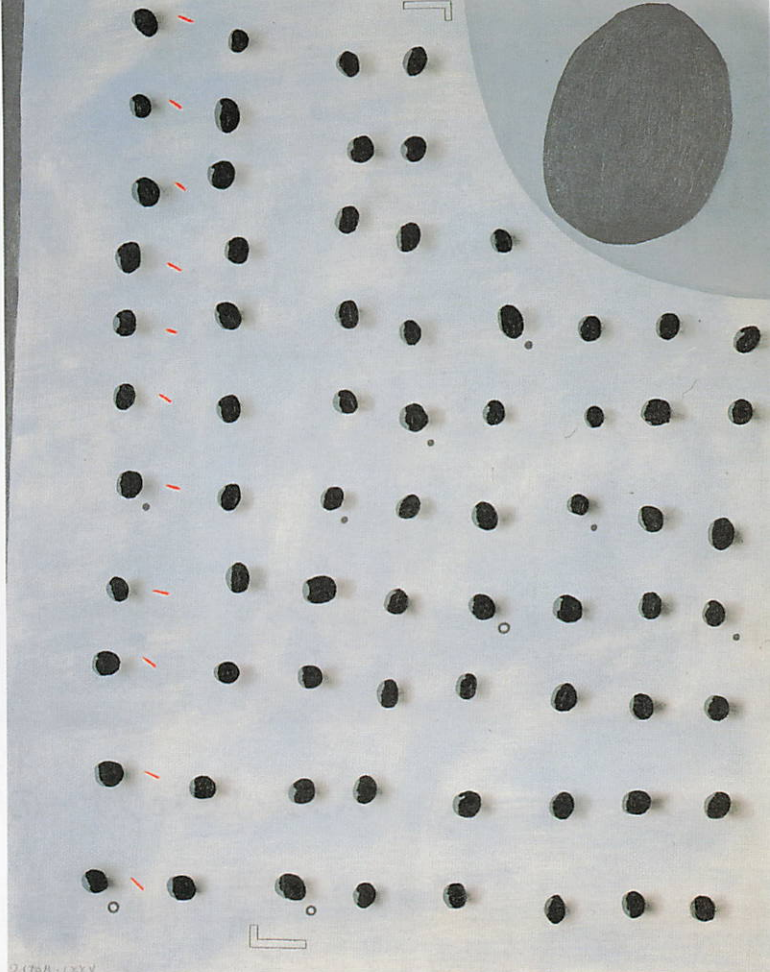


71 個の黒豆が、だまし絵ふうの影を落としながら列をなす。よく見れば、豆の傍らには句読点やカギカッコ、赤い傍点らしきものがあり、どうやらこれが豆で綴った文章であることが分かる。どこから思いついたのか、人を喰ったイメージである。作者の伊藤久三郎（1906〜77）は、京都

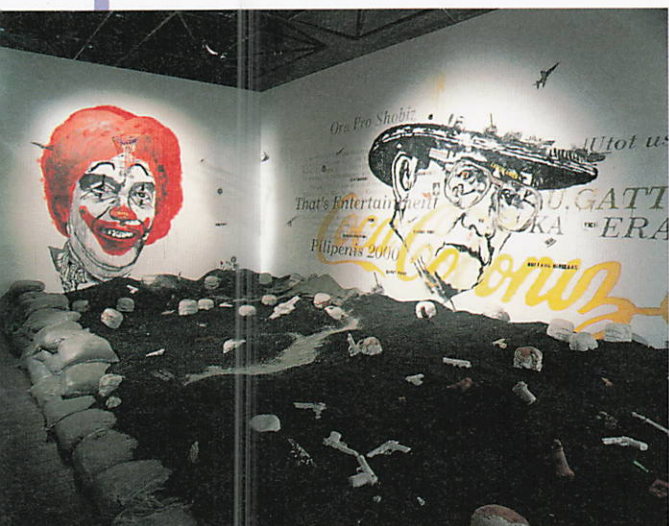
コマメな前衛 伊藤久三郎

生まれの画家。戦前にはシュルレアリスムの感化を受けた前衛画家として注目されたが、58年に大病をしてからは画壇の表舞台に立たずに静かに制作を続けたため、京都以外では忘れられた存在になっていた。その再評価を試みる今回の東京での初回顧展を見ると、晩年の画家が一作ごとに作品のイメージを変えていたことに驚く。それは伊藤の中で自然発生するアイディアの広がりを示すものであり、カラリとしたユーモアが息づく自然体の絵画といえる。

「2・10〜3・8 O美術館」



▲伊藤久三郎〈コマメ〉 1975 油彩、カンヴァス
100・0×80・3 美術研究社蔵



▲「幸福幻想—アジアの現代美術作家たち」展会場

新種登場！ アジア現代アートの新

壁に描かれたのはマクドナルド・ハンバーガーのマスケットのドナルド、ラモス大統領にイエス・キリスト。そこに豚の血をぶちまけ、フィリピンとベニスを掛けた「フィリベニス」などの造語を鏤めた挑発的テキストを殴り書きする。フィリピンの作家アルウィン・リアミリーヨ（64）と妻のジュリエット・リー（66）は（3人の好ましからざる人物」と題したこの作品で、同国の窮状を招いたこれら支配者たちを痛烈に皮肉る。方力鈞（63）はひたすら水中で泳ぐ禿頭の人物を描き、中国の知識人・芸術家の閉塞感を軽快に抉る。

この「幸福幻想—アジアの現代美術作家たち」展に参加したのは、アジア8カ国の若い作家たち11人。強いメタセージ性と優れた造形性が結び付いた彼らの表現に、アジアの地に「新種が擡頭しつつあることをまざまざと感じた。」（2・25〜3・26 国際交流フォーラム）



小林正人の 生れ出づる 「かたち」

小林正人のデッサン 1995
チャコール、紙 65.3×50.0▶

紙

に何かを描く——小林正人（59）のデッサンはそんなヤワなものではない。茫漠たる画面から浮かび出る林檎や瓶や人間のカタチは、木炭と白チョークの粉とを、手で擦りつけ叩きつけることで生み出したものだ。この人は油彩でも筆を使わず、素手で絵具や画布と格闘して絵を作っている。この真剣勝負を、デッサンは油彩以上に明快に見せた。テレビも電話も、ガスすらもないビルの一室に寝起きし、日がな身の回りの物だけを描き続けているという小林。一見捉えどころのない彼のデッサンにいつの間にか心を揺さぶられているのは、そこに画家の全身全霊、生き様そのものが封じ込められているからに違いない。

「2・11〜28 佐谷画廊」

J・A・Aは 創立24年

我が国初の特品競売専門会社
売主と買主を直結する最も合理的な美術
品売買システムです。
ご所蔵品のご処分はJ・A・Aにおまかせ
下さい。

入会のおすすめ

- 競売は会員による入札制で行います。
- 会費年額15,450円をお支払いいただけ
ますと、どなたでも会員として出品並びに入札
の資格を得られます。
- ご所蔵品の査定評価をいたします。この査
定評価額は競売出品の場合の最低価格
です。
- ご納得いただければ何時でも競売に出品
していただけます。
- 資格の有効期限は入会日より向う1年間と
いたします。
- 会員の方には有効期間中に開催される、
全てのオークションのカタログをお送りする
他に通信サービスをいたします。

取扱手数料

落札価格が30万円未満のもの20%
落札価格が30万円以上300万円未満のもの15%
落札価格が300万円以上1,000万円未満のもの12%
落札価格が1,000万円以上のもの10%

カタログ写真掲載料

モノクローム(1点).....5,000円
カラー(1点).....50,000円

保 険 料

東京海上火災保険株式会社特設美術品総合保険
(1)絵画及びそれに類するもの1,000円につき
1円50銭
(2)陶磁器・彫刻・蒔絵及びそれに類するもの
2円40銭

- 詳細は下記宛お問い合わせ下さい。
営業案内書をお送り致します(無料)

日本美術品競売株式会社
〒104 東京都中央区銀座6-3-2
ギャラリーセンタービル4階

TEL.03-3574-6543(代表)



▲森英二郎《銀座1 (映画館)》1995
木版、紙 21.0×30.0 ed. 10

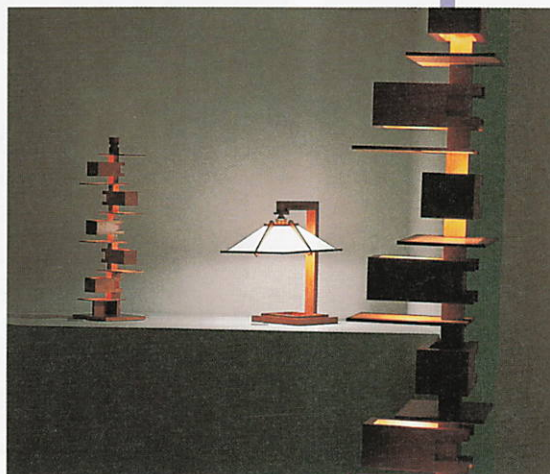
浮世を彫り出す森英二郎

雨の夜の映画館、晴れた日の
草野球の光景、縁側で座蒲
団を枕に昼寝する男など、森英二
郎(1948-)の木版画は描かれ
ているものが何であつても、ある
種のノスタルジーを感じさせる。
中には、実際にノスタルジックな
題材を扱ったもの——雑誌の挿絵
のために古い写真や資料をもとに
明治の風景や戦前の東京を描いた
作品もあるのだが、そこに漂う懐
かしさは、オタク的な回顧趣味と
は趣を異にしているようだ。それ
は、親密で気取らない画家の視点
と、木版画ならではの温もりのあ
るタッチや色彩とがあいまって、
見る者を画面の中に招き入れるか
らだろう。多色摺りの作品とモノ
クロームの作品、あるいはモチー
フによって微妙にタッチを変えな
がらも、そこにはつねに懐かしい
人の匂いがあるように思えた。「2
・27・3・4 スペース・ユイ」

いまではさまざまな複製品に
よって、著名デザイナーの
手になるインテリア用品の名作を
入手するのも難しくなっている。そんな
嗜好の人にお勧めしたいのが建築
家フランク・ロイド・ライトの照
明器具。彼は自作の住宅のために
オリジナルの照明器具をいくつも
デザインしたが、日本と縁浅から
ぬこの人らしく、写真のように木

フランク・ロイド・ライトの ライト感覚

を素材にした簡素な造形にはどこ
か東洋的な印象も漂う。昨年ニュ
ーヨーク近代美術館で開催された
ライトの回顧展のために照明器具
会社ヤマギワが委嘱されて製作し
たもので、復刻と侮れない出来だ。
13点すべて販売されているからラ
イトの優れたライト感覚を身近に
置いて確かめてみては?「3・1・
20 松屋銀座・デザインギャラリー」

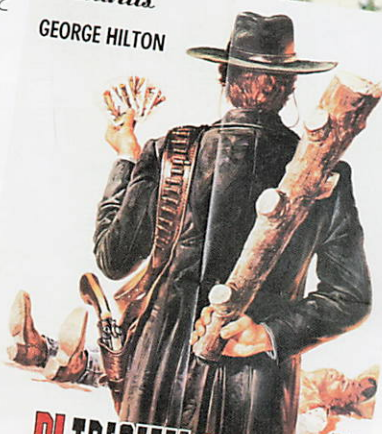


ライトの照明器具展会場▶
右より〈タリアセン2〉 高203.6 25万
〈タリアセン1〉 高50.8 6万4000
〈タリアセン3〉 高75.2 8万6500

Invitation

マカロニ・ウエスタン復活祭より
セルジオ・コルブッチ監督「殺しが静かにやって来る」[右]とマカロニ映画のポスター[中/左]

Titanus
GEORGE HILTON



DI TRESETTE CENE UNO
TUTTI GLI ALTRI SON NESSUNO

CHRIS HUERTA • NELLO PALZAFINI • UMBERTO D'ORSI
TONY HORTON • LUCIANO MARTINO



映画・音楽ポスターと マカロニ・ウエスタン 「復活祭」の楽しみ方

マカロニ・ウエスタン——イタリアで作られた西部劇のこと。欧米ではスバゲッティ・ウエスタン（＝と呼ぶ。本場アメリカの西部劇が衰退した60年代に、その徹底した娯楽性で受けた。基本は「殺し」の場をさすらう「男たち」の物語で、東映やクザ映画のよう、とも。イーストウツドをスターにした「荒野の用心棒」の監督セルジオ・レオーネが有名だが、マカロニの名匠はもうひとりいる。今回、代表作「殺しが静かにやって来る」[88]と「JSS」さすらい

の逃亡者」[73・日本未公開]が上映されるセルジオ・コルブッチである。その屈指したベシズムは「もっともマカロニらしいマカロニ」と評された。「殺し」の舞台は、なんとアルプス。マントをまとい、馬に乗ったガンマンが雪山をいく。主演は「男と女」のジャン・ルイ・トランティニャン。復讐にきた町で悪役に撃ち殺されるといふ、「マカロニらしい」非情なラストに、エンニオ・モリコーネの叙情的なメロディが流れる——このマカロニ・サウンドがいまブームだという。サントラ盤が次々とヒットし、今後も続々と発売される予定。そして今回もうひとつの楽しみは、26日から4月1日まで開かれる「マカロニ・カフェ」[88・5489・5459]。独特のデザインが粋なマカロニ・ポスターを店内に貼りめぐらし、即売もする。映画と一緒にどうぞ。

黒人の自由を歌う闘士 ポール・ロブソンの 深い深い低音の響き

ポール・ロブソン（1898～1976）といえば「オールマン・リバー」ミュージカル映画「ショウボート」[35]のなかでミシシッピ河で働く黒人の心情を素晴らしい低音で歌いあげ、一躍この曲を世界に知らしめた彼のことを、しかしそれ以外にわれわれは知らない——。バス歌手・俳優としてすでに人気を得ていたロブソンの人生は、映画「ショウボート」

THE ODYSSEY OF PAUL ROBESON



Unique performances from the collection of Paul Robeson, Jr. released for the first time.

◀「ポール・ロブソン／オールマン・リバー」
▼「菅原久仁義／雨月譚」



アラビア音楽も取入れた 尺八界の俊英の刺激的な デビュー作

「邦楽」を古臭く退屈なものと思いついていたが、尺八界の俊英、菅原久仁義（85）のこのデビュー・アルバム「雨月譚」を聞いて驚いた。アラブ音楽の旋律を用いた曲あり、軽やかなメヌエット調の作品ありと、尺八の幽玄な響きが異国的なリズムと渾然一体となって、艶めいた何とも不思議な音色が生み出されているのだ。菅原は、伝統的な尺八の技法に精通しながら、ジャズや民族音楽もとこむなど大胆な演奏活動を繰り広げている。「古典」の枠を越えた新しい形の邦楽を模索するこうした試みは、これまでも前衛的な箏曲等の創作に挑んだ沢井忠夫や武満徹の曲を演奏した尺八奏者、横山勝也らによってなされてきたが、菅原を始め更に新しい世代の邦楽家たちは、それをより一層押し進めようと奮闘している。そんな意欲的な邦楽家たちのCDを続々と企画しているのが、「PURE SOUND ON JAPAN」シリーズだ。菅原のCDもその一環として発売された。邦楽の現在」を生き生きと伝えるこの企画

録音は52年から58年、つまりここにあるのはまさにロブソン受難の時代の歌声なのである。「ポール・ロブソン／オールマン・リバー」オーマガトキ 2800円

に今後も期待したい。
「菅原久仁義／雨月譚」 KYOTO RECORDS 2800円
柴田敏雄が撮影する
「自然」と「人工」が
美しく出会う場所

あなたはこれらの写真を見てどう思うだろう。美しい自然を痛々しく傷つけ破壊する醜いコンクリートの爪痕——たとえばそんなふうに感じるだろうか？ いや、それとも一瞬美しいとさえ感じたりはしなかっただろうか？ 大型カメラを背負って全国行脚し、日本のなかに生まれつつある奇妙な風景を撮り続ける柴田敏雄(49)の、2冊目の写真集である。彼が関心を示し写真に撮るのは、開発の過程で大地に施されたさまざまな土木工事の結果の

風景だ。彼はこの一連の仕事で92年には木村伊兵衛賞を受賞している。これこそがわれわれの拠り所となるべき、新しい日本の原風景なのである。「写真集 テラ」 柴田敏雄「写真」中村良夫「文」 都市出版 5600円

中国映画の来し方行く末、そして現代中国史も見渡す 決定版の映画祭開催

今、世界の映画人が最も注目するのが中国映画。では、その独自性、魅力はどこに？

こんな疑問に答えよう。大規模な中国映画祭が東京で開かれる。まず会期前半の第一部「開放中国と輝ける中国映画」では、2月のベルリン映画祭で銀熊賞を受賞した李少紅監督の「ペにおしろい(紅粉)」公開を皮切りに、張芸謀「紅いコリヤン」、田壮壮「青い風」など現代の記念碑的作品37本を紹介。第2部「新中国への道」(会期後半)は戦後50年を機に、第一部とは全く違った角度から中国映画に迫る。'30-'40年代に「東洋のハリウッド」上海が生んだ傑作5本を序章として、日中戦争や解放戦争、毛沢東の姿を描いた戦後の中国映画13作品によって、中国現代史と映画史とが渾然一体となつて浮かび上がる。注目したいのは「日本が描く日中戦争」として山本薩夫監督「戦争と人間」'38年製作の「五人の斥候兵」など日本映画6本の

斥候兵」など日本映画6本の

が上映されること。ひとつの戦争を日中それぞれがどう捉えたかを見比べる絶好の機会だろう。「ペにおしろい」以外は一日ないし二日間のみの上映というのが惜しまれるが、どれを観るか迷いそうな充実の映画祭だ。「中国映画の全貌95 戦後50年移行く中国の貌」4・11-15 28 ◆三百人劇場 03(3944)5445

父親を探す少年の 南米大陸縦断の旅を描く アルゼンチン映画

16歳の高校生マルティンは、10年前に家を出た父に会うため、南米大



〔上〕「中国映画の全貌95」より李少紅監督「ペにおしろい(紅粉)」
〔右〕フェルナンド・E・ソラナス監督「ラテンアメリカ 光と影の詩」



陸南端の島から北を目指し、自転車で大陸縦断の旅に出る。アルゼンチンの監督フェルナンド・E・ソラナスの「ラテンアメリカ 光と影の詩」は、この旅を通しての少年の成長物語であると同時に、彼が立ち寄るラテンアメリカ諸国が被ってきた侵略の歴史と現在の問題点を炙り出すものだ。長くフランスに亡命していたソラナスは、帰国後も政治的な腐敗を厳しく批判したため、大統領に名誉毀損で訴えられ、この映画の製作中には何者かの銃撃によって負傷さえした硬派の男。しかし、その語り

口は社会派にありがちな生硬なものではなく、歴史を語るシーンは絵を使つて紙芝居的に構成し、あるいは突風に舞い上がるはりぼての將軍騎馬像、水没した町を漂う棺桶などの象徴的な光景を織り込んで、長大な寓話のような作品に仕上げている。そしてその寓話性は、雪の舞う大陸南端に始まり、マヤ遺跡、アマゾン、ブラジルの鉱山と、北上に従い徐々に熱を帯びる個性的な風土によって力強いリアリティを与えられている。「4月中旬より公開予定 ◆新宿・シネマスクエアとうきゅう」

Exhibition

◆エルミタージュ美術館名作展……

水の光景「4.15↓6.8◆静岡県立美術館／6.14↓7.23◆栃木県立美術館／7.29↓8.31◆岡山県立美術館／9.9↓10.15◆熊本県立美術館」

17世紀オランダの海洋画、運河に囲まれた都市景観を描写した18世紀ヴェネツィアの絵画、水面の色彩と輝きを追求した印象派の絵画など、「水」の諸相を描いた17世紀以降の絵画・版画あわせて85点を展覧。

◆サンパウロ美術館名品展「4.2↓

5.28◆八王子・東京富士美術館／6.3↓7.16◆徳島県立近代美術館／7.29↓8.27◆横浜ランドマークホール／9.2↓10.1◆大阪・鶴見緑地ホール」

ラテン・アメリカの新聞王といわれた故シャトーブリアン氏のコレクションを前身とする同美術館から、15〜20世紀の西洋絵画60点(内23点が日本初公開)が出品される。

◆ウィクトリア&アルバート美術館展……イギリス絵画の350年

「3.30↓4.16◆大丸ミュージアム・東京／5.2↓6.11◆和歌山県立近代美術館／6

・20↓7.30◆静岡県立美術館／8.6↓

9.24◆京都府京都文化博物館／以後巡回あり」

16世紀後半から19世紀の英国絵画をホルバイン、ロマン派、ラファエル前派などの作品約180点で巡る。

◆ブルカレスト国立美術館・

ブルケンタール博物館所蔵 16〜18世紀ヨーロッパ絵画展「4.22↓5.21

◆平塚市美術館／5.30↓6.25◆新宿・三越美術館／7.4↓30◆奈良そ

ごう美術館／8.5↓9.3◆高松市美術館／以後巡回あり」

ルーマニアにある両館のコレクションより、エル・グレコ《聖母の婚約》をはじめ、日本初公開作品を多数含む絵画作品81点を展覧。

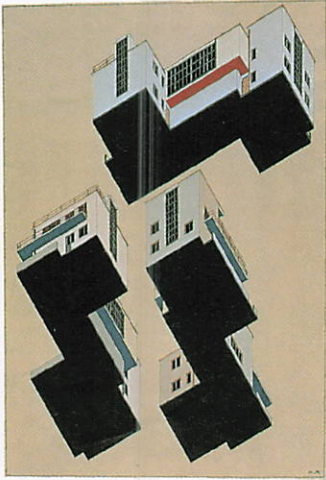
◆版画にみるマティスの世

界「4.8↓5.7◆富山県立近代美術館／5.13↓6.11◆丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／6.14↓7.2◆新宿・小田急美術館／7.15↓8.13◆福山・ふくやま美術館」

フランス国立図書館などの協力により、アンリ・マティス(1869〜

954)の版画の全容を示す銅版画木版画、リトグラフ、リノカットなど約150点を系統的に紹介。

◆パウハウス 1919〜1933



ネーデルラント絵画の名門一家 「ブリューゲルの世界」展

16世紀のネーデルラント(現在のベルギー)では、多くの画家が一家で工房を営み、風景画や肖像画、宗教画を描いていた。そんな中、ヒエロニムス・ボス風の幻想的な銅版画で画家としての地位を確立し、晩年は農民の姿を円熟した油彩で描いたのがピーテル・ブリューゲル(父)。今展はこの巨匠の作を始め、その長男ピーテル(子)、次男ヤン(父、孫のヤン(子)などブリューゲル一族の作品47点を集める世界でも稀な展覧会。同時代のネーデルラント絵画39点も出品される。

なかでもピーテル・ブリューゲル(父)の作品は、ウィーンやベルギーの国立美術館のコレクションの中核をなしており、ほとんどの作品が国外持出禁止の指定を受けている。晩年の代表作《絞首台のうえのカササギ》は、フランクフルト近郊の大学都市ダルムシュタットにあるヘッセン州立ダルムシュタット美術館から今展に特別出品されることになったもの。この絵は遺言により妻に贈られ、幼い息子たちの画風に大きな影響を与えたとされている。

また、彼の素描5点は通常は収蔵庫に保存されており、特別の研究を目的とする閲覧が許可されない限り鑑賞できない。最新のUVカットの照明下で50ルクスの明るさという厳密な条件付きで貸出展示が可能になったという。

今展の出品作は国内にある12点の版画以外は全て日本初公開となる。その中核をなすのは、ベルギーのコペ男爵のコレクションで、ブリューゲル一族の作品の他、ブリューゲルの師とされた画家や同時代の作品などあわせて54点が選ばれている。

「3.28↓6.25◆池袋・東武美術館」

ど4700余点により振り返る。

◆マリソール展「4.1↓5.7◆箱

根・彫刻の森美術館／5.20↓6.25◆滋賀県立近代美術館／7.1↓30◆いわき市立美術館／8.4↓9.3◆鹿児島市立美術館」

1950年以降ニューヨークを拠点として活躍する女性彫刻家マリソール(1930〜)の、60年代から最新

作までの立体・素描30点を集めた世界でも初の回顧展。

◆マックス・フィールド・パリッシュ

展「4.20↓5.16◆新宿・伊勢丹美術館／5.26↓6.7◆大阪・近鉄アート館／8.12↓9.17◆山梨県立美術館」

アメリカを代表するイラストレーター、パリッシュ(1870〜1966)



◀阿彌陀二十五菩薩來迎圖[部分]
鎌倉時代 知恩院蔵

出品作の95%以上が国宝・重文！ 「日本仏教美術名宝展」

奈良 国立博物館の開館100年を記念する特別展。同館は、1889年に、奈良を中心とする寺の文化財の保存に協力し、公開に努めることを趣旨に宮内省の帝国奈良博物館として設立され、1895年4月開館。5年後に官制改革により奈良帝室博物館と改称されるが、長く宮内省がその運営管理に当たってきた。戦後1947年、文部省の所管となり国立博物館奈良分館と改

の油彩、水彩、素描など100余点による日本初の総合的な回顧展。
◆パツオウスカー展「4・5・18 ◆大丸ミュージアム 梅田/7・20 ↓
8・13 ◆高崎シティギャラリー/9・28 ↓10・10 ◆新宿・伊勢丹美術館/10・18 ↓11・19 ◆岩手県東和町

・萬鉄五郎記念館/以後巡回あり」チエコ出身のクワイエタ・パツオウスカー(1928-)は、現在世界的に注目されている絵本作家。「ふしぎなかず」をはじめとするオリジナルイラストレーションなど約1000点。
◆フランス宝飾芸術の世界展……カ

称。52年に文化財保護法の改正に伴い、奈良国立博物館として独立して現在に至っている。

重文に指定されている陳列館本館は開館当初の建物で、生涯を通じて明治の帝室関係の建築に携わった片山東熊の設計による。72年には、吉村順三設計の新館が増設されている。平常陳列でも国宝・重文を多数含む仏教美術が展示されているが、今展では本館に飛鳥・奈良時代、新館に平安・鎌倉時代と、両館が仏教美術の名品で埋めつくされる。彫刻では広隆寺《弥勒菩薩半跏像》、唐招提寺《鑑真和上坐像》など国宝13件・重文46件を含む62件。工芸・考古では中宮寺《天寿国幡帳》など国宝36件・重文17件の計53件。書蹟は国宝26件・重文6件に御物《法華経義疏》を加えた33件。絵画は知恩院《阿彌陀二十五菩薩來迎圖》など

国宝38件・重文3件を含む46件。これらにはボストン美術館など海外からの6件も含まれ、総計194件が展覧される。
「4・22 ↓6・4 ◆奈良国立博物館」

ルティエ・コレクション 絢爛のジュエリー「4・8 ↓5・28 ◆東京都庭園美術館」
1847年パリに創設された宝飾工房、カルティエのコレクションからフランスの宝飾品、時計類、デザイン画など約320点を展覧する。
◆遣唐使が見た中国文化「3・29 ↓5・21 ◆奈良県立橿原考古学研究所附属博物館」

中国社会科学院考古研究所による最新の発掘調査の成果をもとに、唐の都、長安や洛陽からの出土品を展示。
◆東寺国宝展「4・11 ↓5・14 ◆京都国立博物館/7・22 ↓8・27 ◆世田谷美術館」

平安遷都直後に創建された東寺は、823年に空海に下賜されて教王護国寺と名を改め、密教発祥の寺として栄えた。創建1200年を記念し、150余点の寺宝を一堂に展覧する。
◆秀吉とねの寺 高台寺名宝展「4・18 ↓5・28 ◆元赤坂・サントリー美術館/6・10 ↓7・16 ◆名古屋・徳川美術館/9・6 ↓10・5 ↓11・10 ◆岡山・林原美術館」

京都市東山区の高台寺は、豊臣秀吉の夫人北政所(ねね、秀吉没後出家し高台院が亡夫の菩提を弔うため、徳川家康の援助のもとに創建。桃山時代の漆工芸を代表する「高台寺時絵」の調度品類など寺宝約150件。
◆香りの文化とその美術「3・28 ↓4・5 ◆奈良・薬師寺大宝蔵殿」

香文化の普及を目的に、伝統的香道具に加え、薬師寺蔵の関係絵画や仏具などを展覧する。
◆徳川美術館の名宝「4・15 ↓6・4 ◆名古屋・徳川美術館」

開館60周年を記念し、御三家筆頭・

尾張徳川家に伝来した館蔵の国宝・重文を含む1万数千点におよぶコレクションの中から名宝を一堂に公開。
◆メトロポリタン美術館浮世絵名品展「4・15 ↓5・28 ◆名古屋・市博物館」

写楽、歌麿、北斎、広重、春信らの作品180余点を「雨」「浮世絵における中国」「影とシルエット」「鏡と反射」他、題材や視覚的な工夫などに着目した11のテーマに分けて紹介。
◆没後190周年記念 歌麿芸術の再発見「4・1 ↓26 ↓5・2 ↓26 ◆神宮前・太田記念美術館」

喜多川歌麿の幅広い業績を再認識するため、美人画の他、役者絵や静物画など新発見作を含め、歌麿と門人たちの作品約150点を展覧する。
◆北斎展「4・7 ↓17 ◆浅草・すみだリバーサイドホールギャラリー」

墨田区では現在の同区亀沢に生まれた葛飾北斎の芸術を顕彰する「北斎館」の建設を計画している。これまでの収集作品を中心とする展覧。
◆日本の文人画展「4・8 ↓5・7 ◆5・10 ↓28 ◆世田谷区岡本・静嘉堂文庫美術館」

館蔵の文人画を総合的に紹介する企画展の第1部として、柳沢淇園から大雅・蕪村を経て、木米、田能村竹田、頼山陽らにいたる関西文人画の流れを展覧。出品作約50点のほとんどが初公開となる。
◆小林清親名品展「4・1 ↓23 ◆横浜・平木浮世絵美術館」

明治初期、英国水彩画に学んだ洋風木版風景画を刊行。文明開化の諸相とともに江戸情緒を懐かしむような風景も描き、「最後の浮世絵師」と呼ばれる小林清親(1847-1919)



◀小林清親《川舟》1881

5。新発見の晩年の肉筆絵巻《江戸年中行事十二ヶ月》も公開。
◆小野竹喬展「4・8 ↓5・14 ◆京都府京都文化博物館」

京都画壇で活躍した小野竹喬(1889-1979)の芸術活動の軌跡を示す代表作を含む約100点。
◆小倉遊亀展「4・4 ↓5・14 ◆滋賀県立近代美術館」

滋賀県大津市出身の小倉遊亀(1895-)の生誕100年を記念し、同館所蔵作品41件を一堂に公開。
◆斎藤真一の世界展「5・31 ◆伊東・池田二十世紀美術館」

賢女の連作で知られる斎藤真一(1922-1994)の、初期から晩年までの作品約100点を展示する。
◆智内兄助展「4・5 ↓16 ◆新宿・小田急美術館/7・18 ↓8・6 ◆刈谷市美術館/9・28 ↓10・10 ◆大阪・高島屋/10・31 ↓11・13 ◆札幌・五

額縁通信販売

レフ・ワン 春一番
フェア新カタログ。新たに画材・日本画額等も加わり、更に多くの方々に、ご覧いただけます。

■油彩規格額

人気の定番商品に加え、新商品も豊富に揃いました。

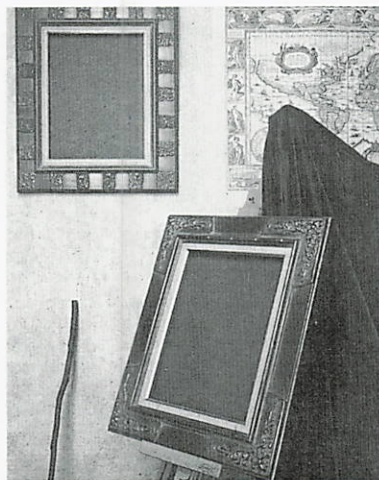
■展覧会用アルミ仮縁

公募展ガイド等、便利な企画と合わせて、引き続き充実。

■画材

皆様の声にお応えし、油彩用画材を中心に割引価格で。

※各種クレジットカードもご利用になれます。



レフ・ワン

カタログ無料進呈

商品・記事共、満載のきれいなカタログです。

●ハガキ・電話・FAXでお申し込み下さい。

〒105 東京都港区海岸2-6-30
レフ・ワンS係



0120-144-021

FAX 03-5484-8098

invitation



「戦後文化の軌跡」展
手塚治虫「アトム大使」展
1995

番館西武/以後巡回あり」
日本画の伝統的な様式美と洋画の技法を融合させた智内兄助(1948)の代表的な油彩画と新聞小説挿絵原画など約100点。
◆昆野恒展(4.11~5.28 ◆宮城県美術館/8.12~9.17 ◆板橋区立美術館)
戦後の抽象彫刻の開拓者のひとり、昆野恒(1915~85)の没後初の回顧展。多様な素材を用いた彫刻や

素描で昆野芸術の足跡を辿る。
◆保田春彦展(4.4~5.7 ◆神奈川県立近代美術館/5.13~6.18 ◆三重県立美術館/6.27~7.30 ◆倉敷・大原美術館/9.9~10.15 ◆和歌山県立近代美術館)
抽象彫刻の代表的作家として活躍する保田春彦(1900~)の造形の全貌を示す、作家自選による立体作品約43点と未公開デッサン約60点。
◆美女展……福富太郎コレクションから(4.1~5.8 ◆愛媛県重信町・高島華宵大正ロマン館)
明治から昭和初期にかけて、日本画・洋画に描かれた、多様な女性の美を紹介する。
◆生きている画家達……K・Tコレクションより(3.29~7.2 ◆桐生・大川美術館)
制作が作家の表現であるように、収集もコレクターの哲学の表現といえる。埼玉県のある個人コレクターの所蔵品より約100点を公開。
◆泉鏡花展……水の迷宮(4.22~

5.28 ◆県立神奈川近代文学館)
泉鏡花の自筆原稿、鏡花清方、小村雪岱らによる装丁本や関連絵画、遺愛品や書簡、その他資料約600点。
◆おとぎ話の絵画展……「コトモエホンブコ」原画にみるアール・デコ(4.1~6.27 ◆文京区弥生美術館)
児童出版文化の隆盛期とされる昭和初期に誕生した同シリーズは、その半数が画家が物語も創作する画期的試みで、当時欧米で流行していたアール・デコの影響も窺える。約60点。
◆安野光雅の世界展(4.22~6.11 ◆川崎市市民ミュージアム)
絵本作家、洋画家、エッセイストとして活躍する安野光雅(1906~)の原画約200点を展示。
◆水戸アニアル95 絵画考―器と物差し(4.1~5.28 ◆水戸芸術館現代美術ギャラリー)
9人の中堅・若手日本人作家の新作50余点と3人の書き手による絵画論により「絵画」の可能性を探る。

◆戦後文化の軌跡 1945~1995(4.19~6.4 ◆目黒区美術館/6.14~7.21 ◆広島市現代美術館/8.15~9.24 ◆兵庫県立近代美術館/10.8~11.5 ◆福岡県立美術館)
戦後50年の文化史を、美術、写真、デザイン、建築、ファッション、漫画、映像など様々なジャンルの代表作品を集め、総合的に検証する。
◆古寺巡礼 土門拳展(4.8~5.14 ◆いわき市立美術館/5.20~6.13 ◆大阪・ナビオ美術館/6.21~7.23 ◆目黒区美術館/7.26~8.27 ◆笠間日動美術館/以後巡回あり)
写真家土門拳が自らのライフワークとして追究した「古寺巡礼」シリーズを中心に、展覧会初出品の「日本の彫刻」シリーズなど116点。
◆板谷波山展(3.28~5.7 ◆東京国立近代美術館工芸館/5.13~6.18 ◆大阪市立東洋陶磁美術館/6.24~7.26 ◆熱海・MOA

美術館/8.5~9.27 ◆三重県立美術館/以後巡回あり)
東西の陶芸を融合し、近代陶芸の先駆者となった板谷波山(1872~1963)の代表作約130点と下絵などによる大規模な回顧展。
◆拡張するガラス(4.23~6.18 ◆横浜美術館)
独自の造形を追究してきた世界のガラス・アーティスト8作家の最新未発表作品を含む173点。
◆木の建築と都市(4.6~5.21 ◆千里万博公園・国立国際美術館)
現代の建築家の作品により、生きた自然材料としての木を見直し、現代都市における木の可能性を追求する。
◆高松伸建築展(4.1~5.28 ◆東京ステーションギャラリー/6.3~7.9 ◆京都市美術館)
建築家高松伸(1948~)の数多い作品群の中から50以上のプロジェクトを選び、ドローイング、スケッチ、模型、CG映像など多面的な展示により作品生成のプロセスを紹介。

美術商の選んだ現代作家美術展

現美展

g10 genbiten
1995

第10回現代作家美術展

4月25日(火)——26日(水)	東京美術倶楽部	〒105 東京都港区新橋6-19-15 TEL.03-3432-0191(代表)
5月 1 日(月)—— 2 日(火)	京都美術倶楽部	〒605 京都市東山区新門前通 梅本町263 TEL.075-551-1146(代表)
5月10日(水)—— 11日(木)	(金沢美術倶楽部特別展観会場) 富山美術倶楽部	〒930 富山市舟橋南町5-9 TEL.0764-32-5081
5月13日(土)——14日(日)	金沢美術倶楽部	〒920 金沢市上近江町61 TEL.0762-62-0391(代表)
5月17日(水)——19日(金)	大阪美術倶楽部	〒541 大阪市中央区今橋2-4-5 TEL.06-231-9626(代表)
5月21日(日)——23日(火)	名古屋美術倶楽部	〒460 名古屋市中区栄3-12-13 TEL.052-241-4356(代表)
5月25日(木)——26日(金)	東京美術倶楽部	〒105 東京都港区新橋6-19-15 TEL.03-3432-0191(代表)

五都美術商連合会

東京都港区新橋6-19-15 東京美術倶楽部内 TEL.03-3432-0191(代表)

三田線「御成門駅」より徒歩2分 浅草線「大門駅」より徒歩5分 JR・銀座線・浅草線「新橋駅」より徒歩10分 JR「浜松町駅」より徒歩10分

アーティストの「楽しい我が家」

【連載】第 47 回

写真文 南川三治郎

ガラクタに囲まれた発想工房 ジム・ダイン

Jim Dine





家具や自作や様々なガラクトが無造作に配置されたこの部屋は、作家が自由な発想を得るための“頭の体操”をおこなう場所だという

ハートや髑髏、日用の工具類など実に多様な主題を、絵画や木彫、ブロンズといろいろな手法で作品化してきたジム・ダイン（36年生れ）。一昨年の個展で発表したのは、猿と猫のカップルがダンスをしたり仲むつまじく頬を寄せ合うという、人々くったような新作だった。ポップアートとも一味違う独自の世界を持つこの人に、私はかねがね興味を持っていた。世界中を駆け回る彼を、ニューヨークでようやく捕まえることができた。

ソーホーの一角、ブロードウェイとプリンス通りの角にこの作家は住んでいた。ソーホーにあるアーティストの家といえば「ロフト」、つまり倉庫を改造した住居兼アトリエと相場は決まっている。だが、意外にもダインの住まいは、まるでアップタウンで見かけるような、シックで格調高いコンドミニアムだった。

撮影機材を担ぐ私が胡散臭げに見えたのか、制服制帽に身を固めたドアマンが鋭い視線を投げてくる。それを尻目にエレベーターでダインの住むフロアへ。出迎えてくれた作家は、坊主頭にゴマシオまじりの顎髭がよく似合う人物だった。

「自分の家にいるように、気楽にやってくれよ」そう言って通された居間は、30畳ほどの広さがあるだろうか。木の床をすべて真っ白に塗ってあって、曇りの日なのにすいぶんと明るい。今から3年前にこのコンドミニアムを手に入れたダインは、床や壁、間仕切りから本棚にいたるまで、部屋のリフォームを全部自分でやってしまった。仕上がりはパーフェクトとは言いがたいが、ホゾを切った木と木を連結していたりと、その凝りようは玄人顔負けだ。

居間の床には、テーブルやひとつひとつデザインの違い、運動不足解消用というストレッ

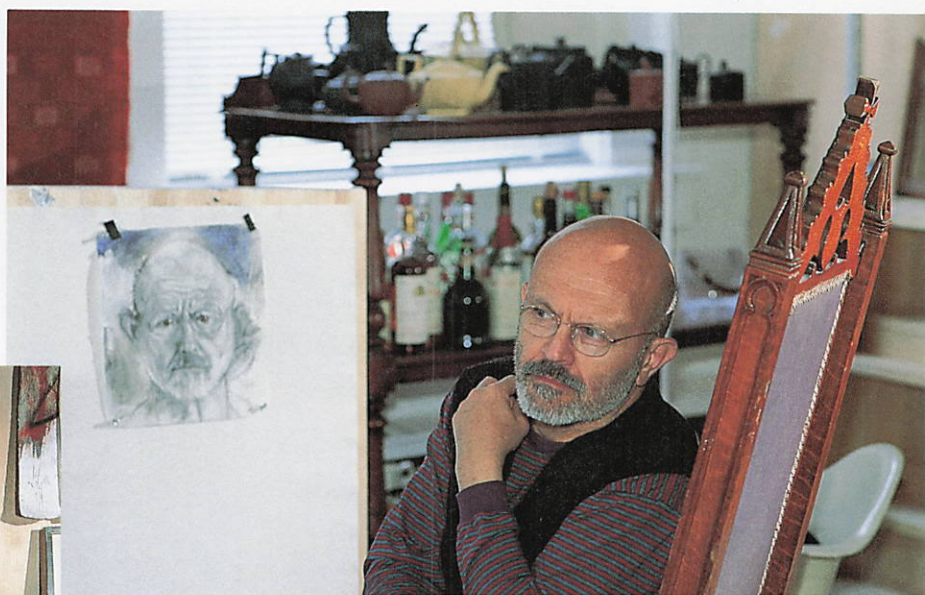
チ・マシーンなどが、無造作に置いてある。木肌が美しい壁には自作——トレードマークともいえるハートや例の「猿と猫」の絵——や、旅先で求めたタピスリー、日本の絞り染風の衣服などが、これまた脈絡なく掛けてある。壁際の本棚の上にも、お皿やパレット、帽子、世界各国の硬貨など細々したもののが散らばっていた。

「このフラットのインテリアは——もちろん基本は住むための部屋だけれど——子供の頃の気持ちを思い出して遊園地みたいに作ったんだ、自由に心を遊ばせる空間としてね。暇な時には、いろんな本を買いこんでは、この部屋に閉じこもってそれを読む。美術書よりも推理小説や紀行文なんか面白くない。そして、新作に取り組む時に、その構想をまず頭のなかで練り上げるのもここだ。言ってみれば、ここはボクの『頭の体操』の場所、発想工房かな」

一見無用のガラクタ群も、彼にとっては貴重なアイディア源であるらしいのだ。

ところで、そうしたガラクタのなかで、ただひとつ整然と置かれているものがあつた。ダインの自慢の陶器コレクションである。キッチンに壁に何段にも設えられた飾り棚には、コーヒーマグやマグ、水差しなどがズラリと並ぶ。それだけでは足りずに、居間の壁の高いところにも長い板が渡してあって、陶製のピア・ジョッキの類が列を成していた。本棚の空きスペースも、陶器コレクションに占領されている。

「主に18世紀のイギリスで作られた黒い釉薬のポ



クロッキー風の自画像と一緒に

居間の壁にはダインが好んで作品に引用しそうな土産物やオブジェが掛けてあるなかには日本の絞り染風の着物も……



ットとマグだね。買い始めたのは、かれこれ30年ほど前。ロンドンに行くたびに骨董屋を覗いて、気に入るものがあるついでに買ってしまうものだから、気がついたら500個ほどたまっていたというわけだ。ここだけではなく、あちこちのアトリ



工に分けて置いてある。自分で、こうした陶器を作ってみようとしたこともあるが、なかなか上手く作れなかったよ。それよりも、今はギリシアやローマ時代の肖像彫刻を、試行錯誤を繰り返しながら粘土で真似しているんだ」

例の「猿と猫」の組み合わせも、実は19世紀イギリス製の陶器から引用したものだという。趣味の陶器コレクションもまた、ダインの発想工房の一部なのである。

ここが発想工房なら、実際にダインはどこで制作するのか。この疑問に答えるのはなかなか難しい。というのも、彼は同じニューヨークのダウントウンに大きなスタジオを持っているし、ニューヨーク市の北のコンネティカット州にも大きな家を借りていて週の何日かはそこで仕事をする。そのほか、夏には鋳造工場のあるワシントン州ワラワラのスタジオを利用する上に、冬になると今度はヨーロッパに移動するのが常となっているからだ。

「ロンドンには30年前からスタジオを持っていた、今は息子も住んでいる。パリにはボンピドゥ・センターの館長が世話してくれたアトリエと、20年来馴染みのホテルがある。友人たちも向こうに多い。ボクはオハイオ州シンシナティ生まれの生粋のアメリカ人なのだけれど、なぜかヨーロッパに行くと自分の家に帰ったような気がして、心が落ちつくんだ。ヨーロッパが第2の故郷と言ってもいいくらいにね。特にパリは大好きだ、それも冬のパリ。ピサロの絵に出てくるような灰色の、寒々としたパリの街並みの雰囲気がとても気に入っているんだよ」

「ニューヨークは、夏がいいね。すごく蒸し暑くて、うるさくて、汚いけれど、活気がある。街全体がビートを打っているようなエネルギーを感じるんだ」

「日本には、もう十数回旅行をしているかな。'92年にも美ヶ原高原美術館のロダン大賞展で賞をもらったので、その授賞式に行ってきた。ボクはただエキゾチックな興味から日本が好きというのじゃない。現代日本の文化や雰囲気、ボクの生活にぴったりなんだ。京都や奈良は確かに魅力的だが博物館みたいでボクは住みたいとは思わない。いろんな可能性に満ちあふれ、都市の鼓動みたいなものが脈打つ東京が好きだ。チャンスがあれば是非住んでみたいと思っている」

今でさえあちこちにスタジオを持っているのになら本気で日本進出を検討しているらしい。ジム・ダインには、現代美術の流行りすたりに敏感に反応して豹変する作家、という批判もある。だが、ひとつところにじっとして居られず、いろいろなものに興味をもってしまふのは、この人の如何ともしがたい性分なのかもしれない。

キッチンには、ピア・マグやポットなどダインが自慢の陶器コレクションがずらりと並び、ここだけでは足りず居間の壁の天井近くもマグの収納スペースと化していた

Jim Dine

ひらがな日本美術史

橋本治

「連載」その二十一

コミュニケーションを感じさせるもの「東大寺南大門」

私が《源氏物語絵巻》を見たがるような中学生であったことは、以前に書いた。そしてその中学生の私の目に、国宝である《源氏物語絵巻》は美しくなかった。しかしその中学生である私の目に、「東大寺南大門」は素直に「美しいもの」だと思えた。それは、今から三十年以上前の、私が中学三年生になりたての頃だった。

近々京都・奈良へ修学旅行に行くというので、二週続いて美術の時間にスライドを見せられた。「京都・奈良へ行く以上、日本の美術のあらかたを知っておけ」ということだった。と同時に、私達の時代は、公立高校の受験科目が九科目もあって、美術もその内に入っていた。受験科目である以上、美術のカリキュラムの中に「美術史」という項目もあって、「日本の美術史などという項目もあって、日本の美術史などという項目もあって、修学旅行にかこつけてすませておこう」というのが、美術の担当教師の魂胆だった。彼は、生徒達に向かってそのようなことも言った。

教室が暗くなって、スライドが始まって、土器や埴輪などという古いものから順に、日本美術史の題材となるものが映し出された。私は昔から、自分の好きなものにはしか関心がない。だから、それを見るということは、「果たして自分はこれが好きなのか？」と考えることだった。その他には、「これは知っている、これは知らない」というような、いたって幼稚な判断基準しか持っていなかった。そして、そういう私の前に映し出されるスライ

ドの日本美術史は、「果たして自分はこれが好きなんだろうか？ どうなんだろう？」と、首をひねるようなものばかりだった。

日本の美術品は、どうやら、古いものほど価値が高い。そして、古いものは汚くて嫌いで、なにがなんだかよく分からない。アメリカのチャカチャカしたポップスばかり好きな、自分のことを半分アメリカ人だと思っていたがっているような日本の中学生に、どうあつたって、《百済観音》を「いい」だの「素晴らしい」だのと思うような感性はない。あつたら、そんなやつは不気味だ。だから当然私も、素晴らしいものではないはずの日本の国宝を前にして、「どう見てこれをいい」と思えばいいんだ……？ と、首を傾げるしかなかった。飛鳥だ天平だ奈良だのの仏像や寺ばかりが続いて、どう見てもその日本の国宝達は、中学生にはピンとこない。「受験勉強だから、それを覚えてしまえばいい」と思っているやつには、「ピンとこない」ということ自体が理解出来ないだろうけれど。

平安時代になると、やつと物の輪郭が定かであるようなものが登場して、「ふーん……」とだけ言えるようになる。「きれい」と思えば思えるような絵巻物も登場する。登場して、しかしマンガばかり見て、早くもペン・シャーンとかソール・バスなんていう固有名詞の方に傾きかかっているアメリカかぶれのガキには、どうにもその割げかかっている「王朝の美」がピンとこない。「へんだなア……、こういうのはきつときれないはずなのに……」と思っている私の前に、突然鎌倉時代の彫刻が登場した。東大寺南大門の《金剛力士像》は、あきらかに「知ってる……」と思えるようなものだった。そして、その次に、突然「衝撃」のようなものがスクリーンに現れた。それは運慶の《無著菩薩立像》で、《世親菩薩立像》がその次に続いた。

私はあきれたように、それを見た。「すごい……」というのに近い、なんだか分からない感情が自分の中にあった。驚いたことに、それは「感動」というものだった。黒いバックの中に、「苦勞を体現するような二体の像が現れて、中学生の私は、それを見て感動していた。「こんなものを分かる」と思っているんだろうか？」と、半ば当惑しながら、しかし感動しているのは事実だった。

その次に、「東大寺南大門」が登場した。私は素直に、「きれい……」と思った。「美しい」という単語がまだ自分の日常的なものにはなっていないのでそう思ったが、もしも「美しい」という単語をその頃の自分が当たり前のものとして持っていたなら、私は素直に「美しい」と言っただろう。

何故それを「美しい」と思うのかは、当時の私にはよく分からなかった。ただ、《無著菩薩立像》《世親菩薩立像》に感動してしまっていた私は、既に「見る」ということに素直になつていた。「ここにあるものはきれいだから、僕はきれいだと思う」と、はつきり自分に言っていた。しかし、それが何故「きれい」とか「美しい」のかということになると、よく分からなかった。「何故それを感動したのか？」という質問の答は、「何故それを美しいと思うのか？」の答よりも簡単だ。「何故それを美しいと思うのか？」の答は難しく、それと同時に、「美しい」と思ってしまった人間は、「自分は何故それを美しいと思うのか？」などということを考えない。「美しい」と思ったら、好きになつてしまえばいい。そういう次の段階に進んでしまえば、「何故自分はそれを美しいと思ったのか？」などと考える必要はない。



重源が再建した東大寺南大門 鎌倉時代(1199) 言わずと知れた修学旅行のメッカ 中学生の橋本少年も修学旅行でこの門を見上げていた

だから私も、それを「好きだ」と思ってしまったおうとした。しかしそうならなかった。何故かというところ、その「東大寺南大門」が、それまでに自分の見たことがないようなものだったからだ。

今までに見たことがなくて、今までに見たものとは違っていて———ということは、それが自分の思う「美

しいもの」の体系からずれているということ、だからこそ私は、「こんなに今までの自分と関係のないものを、どうして自分は美しいと思ってしまうのだろうか？」と考えてしまった。

それがアメリカ映画のワンシーンならともかく、自分のことをアメリカ人だと思っていたがっている昭和三十

七年の中学生にとって、鎌倉時代に作られた建築物なんて、なんの関係もなかった。「ウエスト・サイド物語」のニューヨークに行きたくて、そして自分の部屋の壁に『ティファニーで朝食を』のオードリー・ヘプバーン・ハリウッド・ゴラトリの写真的切り抜きを貼っている中学生にとって、鎌倉時代の「東大寺南大門」と

自分との接点は、なにもなかった。「どうして自分はこれを美しいと思うのだろうか？」と考えて、答は出なかった。「何故だろう？」と思うと、「でもやっぱりきれいだ」という答しか返ってこなかった。

修学旅行で見た南大門

昭和三十七年五月の奈良は新緑の中で、修学旅行の中学生の一行は興福寺の前を素通りするだけだったから、私は実物の《無著菩薩立像》《世親菩薩立像》に会うことが出来なかった。それも仕方がないかもしれない。美術の授業からしばらくがたって、「もしかしたら自分は感動したのではなくて、騙されただけなのかもしれない」と思うようになっていたから。

《無著菩薩立像》と《世親菩薩立像》は、共に黒バックを前にして撮影されたスライドだった。「黒バックの前にもものを置いてライトを当てると感動しやすいものになる」ということは、なんとなく分かっていた。

《無著菩薩立像》《世親菩薩立像》の「苦勞」は、どうやらそのようにして仕掛けられがちで、「人生に関する感動」だということも、よく分かっていた。

だから私は、さっさと興福寺のことを忘れることにした。ただでさえ修学旅行は、キヤークヤーク騒ぐことで忙しい。興福寺のことはどうしてもよくて、私達ほっとキヤ



「キヤ」騒ぐのにふさわしい東大寺という広くて大きなところにあった。

東大寺の南大門の前は広くて、南大門も見上げるほどに大きかった。私は、その南大門の門番になっている《金剛力士像》にはさして興味がなくて、さつさと門の中に入って、天井を見上げていた。美術の時間にスライドで見て「きれい」だと思ったものと、ほぼ同じものがそこにはあった。

内部では、南大門の高い屋根に向かって、建築学上「貫」と呼ばれる何本もの梁が何層にもわたって行き交っていた。外側にある何層にも重ねられた挿肘木の列を、ちゃんと「美しいもの」として見るのにはちょっとだけ苦労をしたけれど、それは確かにスライドで見たのと同じようなものだった。

(大きな南大門の外観を見上げるためには、いったん南大門から離れなければならぬ。修学旅行の生徒は、見学の場所に入れば一瞬だけおとなしくて、一歩でもそこを離れば瞬時にやかましく飛び跳ねるようなものである。みんなと一緒にあって「騒々しい中学生のガキ」をやっていた私としては、本来なら騒々しく跳ね回っているような場所で、一人神妙になって「なるほど鎌倉時代の建築は……」などと感慨にふけっている暇はないのだった。中学生というのは、そのように忙しく、そのように奇妙なものだ)

「東大寺南大門」は、スライドで見たものに近くて、しかし現物のそれは、昭和の乾燥した砂埃の中で、なんだか埃っぽかった。私は、もう少し荘厳な鎌倉時代をそこに見たかったのだからと思う。そして、中学生の私には、「鎌倉時代を見たかったら、その現物を鎌倉時代のように見るのだ」というようなことが、まだ分からなかった。

鎌倉時代を見たかったら、そこに鎌倉時代があるようなつもりになって見るのだ。別に鎌倉時代だけではない。平安時代だって、江戸時代だって。「見る」ということは、ある意味で、「それを見ながら、見るべきものを再創造していく作業」だ。だから人は、色々な

時に色々な見方をする。人に教えられて、今までとはまったく違った見方をしてしまうようになる。「見る」ということは「発見する」ということで、「発見」とは、「そこにはないものを探し出すこと」つまり「創造すること」なのだ。

そこに鎌倉時代を見ようとしても、中学生の私は、鎌倉時代のことをろくに知らなかった。「源平の合戦の後に登場した、源頼朝による日本で最初の武士の政治」というのが、中学生の知る鎌倉時代で、そんな知識はなんの役にも立たない。そこにあるものの向こうに鎌倉時代を見ようとしたって、あまりにも貧弱な知識はなにも呼び出してはくれない。その南大門をスライドに撮ったカメラマンは、きっとその南大門に「彼なりの鎌倉時代」を見ることが出来た人なのだろう。その人の撮ったスライドを見て「きれい……」と思った私は、しかし現物の「東大寺南大門」を見て、「埃っぽいい、剥けてる。きれいだけどもそんなにきれいじゃない……」とは思えなかった。

脳天気な中学生だった私

ところで、その中学三年生の時に《無著菩薩立像》《世親菩薩立像》のスライドを見た私は、一体なんて感動？ なんかをしたのだろうか？ 私を感動させるような「何か」がその像のスライドにあって、それを見て感動するような「何か」が、私の中にあった。それだけは分かって、しかし中学生だった私には、それを説明するだけの言葉がなかった。私がその二体の彫像にどう感動していたのかを説明出来るようになるのは、それから三十年以上も後のことである。この連載の前前回に書いた文章が、それを説明するものである。

私はそのように、二体の老僧の像が体現してしまつた「苦勞の神々しさ」に感動してしまつたのである。中学生の私は、「苦勞」なんかまったく関係ない現在の自分の前にある——あるのかもしれない「未来の苦勞」を、うっかりと見てしまったのである。「未来の苦勞」

と、その答でもあるような「神々しさ」を。

私は、ノホホンとして脳天気な、じつとしているよりも騒がしくしていることの方がずっと好きな、そこら辺によくいる中学生だった。なんてその私が「苦勞」などというものにピンとこなければならなかったのかは、よく分からない。ただ、今から三十年以上も前の日本には、「苦勞」とか「貧乏」というものが当たり前であって、「それを経験するかもしれない覚悟はあるのか？」というのは、当時の鎌倉の基本的なようなものだった。だから、脳天気な中学生の私にだって「苦勞の重大さ」というのは、「由々しいもの」として身近に感じられたのだろう(感じようとする)。でもどうして、その私が運慶作のその像に感動などしてしまつたのかということになる、よく分からない。多分、それが「そんなことを感じるような時期」だったからだろう。普通は、それを「大人の門口にさしかかる時期」と言うけれども。

私はその時にそれを見て、その時に「感動してしまつた」という事実を、ずっと覚えていた。一体、日本美術の専門家でもなんでもないこの私が、どうして「ひらがな日本美術史」などというタイトルの文章を「芸術新潮」などという雑誌に連載が出来るのか？ なんてまた、こうも明快にすべてを説明してしまおうとするのか？ その「謎」のようなものの正体を時々考える。なんでそれをして、それが出来るのか？ その答は、「私が中学生だったから」としか言えない。

中学生というものは、結構難しいことを平気で瞬間的に把握してしまうから、中学生に説明するというのは、結構難しいのだ。「ひらがな」だからといって、別にそう簡単なことばかりではない。

という訳で、中学生の私は、何故「東大寺南大門」を「きれい」だと思ったのかということである。

「東大寺南大門」は、日本の寺のくせに、ゴチャゴチャしてなかった。日本の寺というものは、一歩引いて考えてみると、どれもこれも装飾過剰で、柱と梁だけで出来ているような単純明快さを持つ「東大寺南大

門」のような建築は、他にないのだ。私はその単純明快が好きで、それだからこそ「きれい」と思った。「きれい」と思って好きになったのではなく、「好き」だと思って、その理由を探したら「きれい」だったのである。「東大寺南大門」は、「大仏様」あるいは「天竺様」という建築様式で出来ている。当時の中国の宋の様式を、その地に渡った俊乗坊重源が日本にもたらしたのである。

俊乗坊重源は、この「大仏様」「天竺様」と呼ばれる建築様式の寺を、日本でいくつも作った。多くは焼けて、残っているのは「東大寺南大門」と兵庫県にある浄土寺の「浄土堂」くらいだ。俊乗坊重源が、当時の中国のスタイルを彼なりにアレンジして生み出したこの様式は、その後はやがてなかった。だから、それを伝えるものが少ない。

「大仏様」「天竺様」の特徴は、屋根裏が剥き出しになっていることである。その極端な例は、浄土寺の「浄土堂」に見える。背の高い快慶作の《阿弥陀三尊像》を安置するこの堂は、まるでパリの屋根裏部屋のように、朱塗りの天井が阿弥陀如来の上にのしかかるようにしてある。なんとも派手な天井裏に光り輝く阿弥陀如来が鎮座しますような不思議な——そしていささか落着かない空間がそこにはある、ドイツ表現主義の映画のように。

「大仏様」「天竺様」の特徴は、「柱を刳り抜いて梁を通し、そのことよって『大きな空間』を作り出せる」ところにある」という。だからこれは、東大寺の南大門や、あるいは鎌倉時代に再建されて戦国時代に焼失してしまった大仏殿のような、大きな建物を作るのに適したものと言われている。その方法は、大きな建物を造るのに適しているのかもしれないが、しかし、浄土寺の浄土堂を見ると、とてもそうとばかりは言えない。これは、柱と梁が交錯する空間の「特異な美しさ」を目的とするような建築様式だとも思える。

俊乗坊重源は、個人的にこの様式が好きだったのだろう。そして、当時の日本人は、「飾りの美」よりも「構

造の美」を重視するこの異様な様式が、あまり好きではなかったのだろう。「天竺様」とは「天竺」インドの様式」ということで、石造寺院が当然のインドで、こんな木造建築の様式が生まれるはずはない。唐々中国よりも遠い所が「天竺」で、「天竺様」とは、だから「すつとんき」ようにも遠い所の様式」というような意味だろうと、私は勝手に解釈する。「天竺」はお釈迦様の生まれ故郷でもあるのだから、「天竺」と言っておけば、これをバカにしたことにはならないけれども、宋から伝わって来た中国の様式にわざわざ「天竺」の名をつけた日本人が、この様式にかなりの違和感を感じていたことだけは間違いないだろうと。

敵対関係を越えた東大寺再建

「天竺様」「大仏様」は、そもそもかなり異質な趣味から生まれたもので、それが巨大建築物を造り出す時に

限って、「目的にかなった構造の美しさ」を見せるようになったのだと思う。

「東大寺南大門」は大きく高く、下手をすれば幾層にも重なって交錯する梁がうっとうしく見えてしまいかねないところを、勇壮で壮大でシンプルな美しさを持ったものに見せている。うっかりすると、この門は、「経費を省いて実質だけの美しさに徹底したもの」のようにも見える。源平の騒乱の終わったばかりの時代に、この東大寺という大きな寺を再建するのはとても大変だ。東大寺再建の任務を負った俊乗坊重源は、一度は再建費用が集まらなくて、この大変な任務を辞退している。一度辞退した彼に、幕府を開いたばかりの源頼朝が援助の手を差し伸べて、そしてこの大きな寺は再建された。そういう経緯があるのだから、「極力無駄な装飾を省いて、シンプルな構造の美しさだけを見せるように」という線で、この「天竺様」「大仏様」が採用されたと言えないこともない。がしかし、「天竺様」



もうひとつの「大仏様」建築 浄土寺浄土堂 鎌倉時代(1194)

浄土寺は重源が東大寺攝磨別所として創建した寺 朱塗りの柱と梁が交錯する堂内は、美しくも不思議な空間を現出させる 中央の仏像は快慶作《阿弥陀三尊像》

「大仏様」が日本で最初に採用されたのは東大寺再建の時である」という訳では、どうやらないし、俊乗坊重源は他にもこの様式の寺をいくつも造っているのだから、「経費削減説」は、どうやら間違っている。つまり、この「東大寺南大門」は——そして、焼失して今は見ることが出来ない鎌倉時代再建の大仏殿も——「目的にかなった構造の美しさ」を見せるような「大きさ」を持っているから美しいのだ。

そして、今に残るこの「東大寺南大門」の美しさは、決して大きいだけではない。この勇壮でシンプルで力強い門には、なんとも言えない「やさしさ」がある。装飾過剰の寺が持つ日本的な「美しさ」とは別の、人なつこいやさしさがある。だからこそこれを見て、一人の中学生は、「すげえ」ではなく、「きれい」と思ったのだろう。

この「東大寺南大門」の持つ「人を受け入れるようなやさしさ」の正体はなんだろうか？

この答こそが、中学生であるような日本人に一番必要な答だろうと、私は思う。

この「東大寺南大門」は、みんなて造った建物なのだ。だからこそ美しい。私はそのように思う。

天平の聖武天皇の発願による東大寺は、日本各地に作られた国分寺を統括するような寺だった。東大寺に

かかる肩書は、日本国の「総国分寺」である。鎮護国家の仏教を広めるために国分寺は造られ、東大寺はその総本山としてある。そして東大寺の教学は華嚴宗である。「南都六宗」と言われる奈良の仏教の中で、華嚴宗というのは、大乘仏教の宇宙観を説く華嚴経を中心とするものである。宇宙の中心であるような毘盧遮那仏が大仏として鑄造され、大仏殿に収まっている。

そして、だからこそ言うべきなのだろう、この華嚴の経典を学ぶ東大寺は、「六宗兼学の寺」になっている。つまり、奈良の仏教の中心的な寺だということである。国家がその庇護と発展に力を注いだ時代の仏教の、その中心にあるようなものがこの東大寺である。いわば、その当時の国家のすべてが注ぎ込まれている。しかしこの鎌倉時代に、聖武天皇がいた時代の「強い国家」は、もう日本にはない。

藤原氏の摂政関白が続いた平安時代に、この「強い国家」を支えていた律令制度は、ほとんど壊れてしまっている。藤原氏のシステムを受け継いだ平家は、西の海で漢唐となつてしまっている。新しい武士の政權は「東夷」と都の貴族から低く見られるような地方に作られて、都の貴族社会とは仲がよくない。都にある朝廷の中でも、天皇と上皇と貴族とが、それぞれの勢力争いを演じようとしている。かつての「強い国家」

はいくつにも細分されてしまったような状態で、もう独力で強大な国家権力のシンボルでもあるような寺と大仏を再建する力はない。野にある聖でもあった俊乗坊重源は、その再建費用を得るためにあちこちを回らなければならなかった。つまり、俊乗坊重源は、みんなの協力を得なければならなかったということである。「大勧進」というポストに就いた俊乗坊重源の下に、日本中の仲の悪い人間達が力を合わせたということである。

実際問題、そのことがどのように様式の上に反映されているのかは、私には分からない。けれども、「強い国家」を失った日本人達が、この時に力を合わせて東大寺再建に向かったということだけは間違いない。

だから私は、今に残るこの寺の門に、「みんなが力を合わせて作った」という「美しさ」を見る。「きつと、みんなが共同体意識を持っているコミュニティというのは、こんな風に美しいものなのだろうな」と、「東大寺南大門」の中にある「やさしさ」を見ると、思う。きつと、「苦労なんかあんまり知りたくない」と思っていた大昔の中学生も、そんなことを感じ取っていたのだろうと——。

●次回「ひらがな日本美術史」は8月号に掲載予定です

雲をよぶ 曾宮一念詩歌集

大岡信編 定価二二〇〇円

暗闇の世界を天真爛漫に生き、百一歳の天寿を全うして逝った盲目の洋画家・曾宮一念の歌と詩を厳選。



遠近法の誕生 ルネサンスの芸術家と科学

辻茂 定価二六〇〇円

光学装置と絵画の結婚——失われた板絵の謎を解き明かし、遠近法の祖ブルネレスキの創作の秘密にせまる新説。



朝日新聞社

●お求めは書店、ASA（朝日新聞販売所）でどうぞ。
●定価はすべて税込みです。

秋の野をゆく 會津八一の生涯

工藤美代子

新潟市における遊廓の歴史は古い。昭和九年発行の『新潟市史』によると、すでに元和年間（一六二一—一六二四）には、遊女街が存在していた記録があるという。江戸幕府が市中の遊女を一カ所に集め、吉原を作ったのが元和三年（一六二七）であるから、ほぼ同時期に、越後国新潟湊にも似たような施設があったものと考えられる。

會津八一の生家があった古町通五番町のあたりは、寛永年間（一六二四—一六四四）以降、複数の遊女宿があり、ほとんど公共の遊廓としての一団をなしていた。これが弘化元年（一八四四）になると、遊廓のある地域や名称を、はつきりと限定されることになる。

「古町・寺町通二の町より六の町までの娼家は泊茶屋、娼婦は茶汲女と呼び、其他の熊谷小路・毘沙門島にある娼家は船宿、娼婦は洗濯女と唱へしめ、それ等の地域以外は一切紛はしき渡世を行ふを禁じ、当業者よりそれぞれ請證文を差入しめたり。」

と『新潟市史』に書かれている。そして請證文を出した業者のリストの中に「金太」の名前がある。住所は「古町通二の町」である。これは會津屋二代目の會津銀之助のことを指すと思つて間違いないだろう。

初代金太は天保十一年（一八四〇）にすでに亡くなり、弘化元年には二代目銀之助が同じく金太を名乗つて家業を継いでいた。會津屋は古町通二の町にあったため二會（二の會津）とも呼ばれていた。

二代目金太は、なかなか商才があつたらしく、『新潟県郷土作家叢書4 會津八一』によると、この人の時代に會津屋は全盛を極めた。

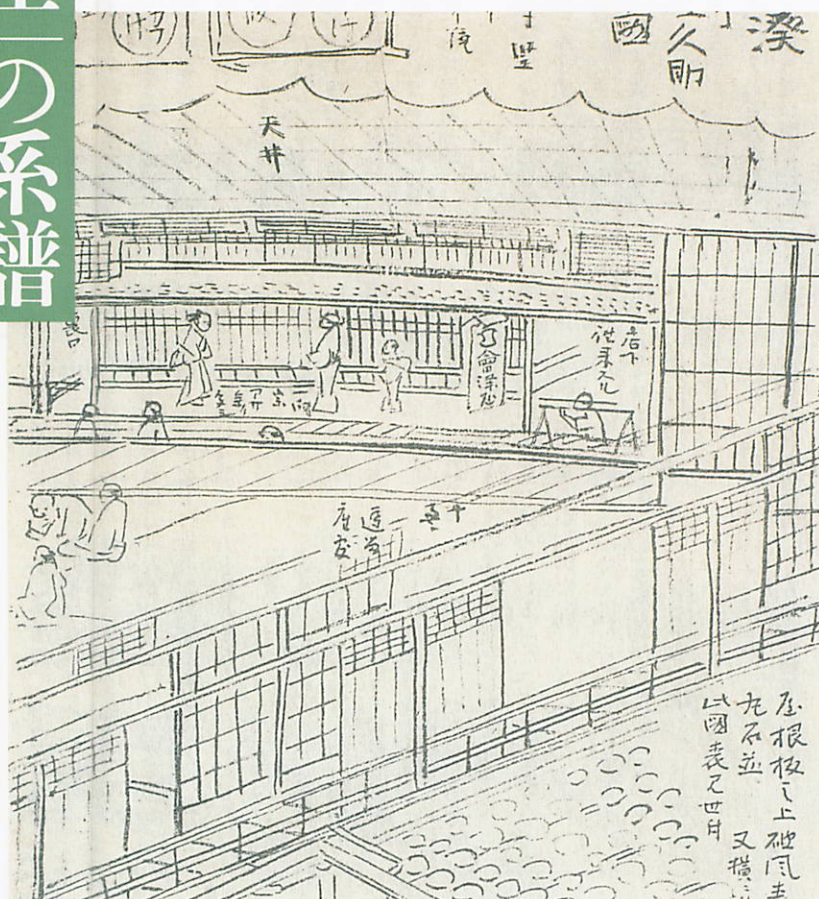
たまたま近所から出た火（弘化年間及び明治初年の二回）で會津屋が全焼したあと、その機をとらえて隣接の敷地を買収し、大拡張をはかり、新潟ではめずらしい木羽鱗葺三層の高樓を建てた。江戸の画家長谷川雪旦の書いた「北国一覽」の中に、會津屋の正面図があるが、その繁昌ぶりがうかがわれる。

初代の金太は豪胆な俠客として、近隣に知られた人物であつた。ところが、二代目ともなると、怪力の持主ではあつたが風雅の嗜みが深く、文濤と号して、和歌、俳句、茶道、絵画にすぐれていたという。つまり、力で成り上がったのが初代なら、経済的な余裕もできて、文化的な教養を身につけたのが二代目ということになる。

渡辺秀英著『會津八一の郷像』には、二代目金太の

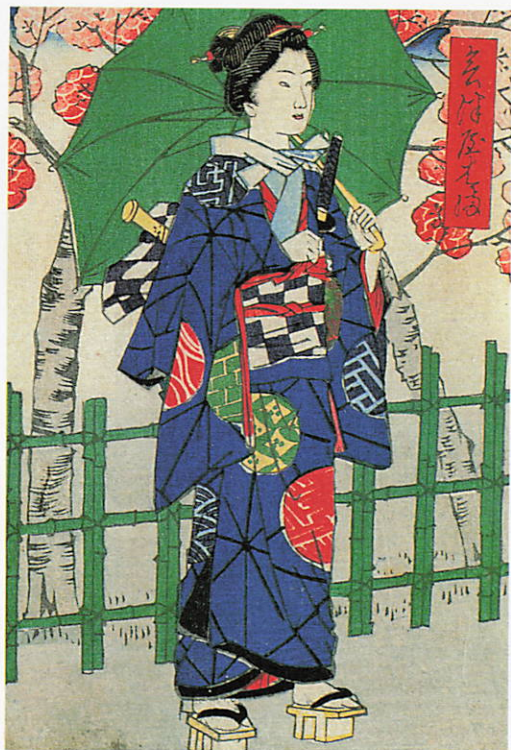
【連載】第三回

「會津屋」の系譜

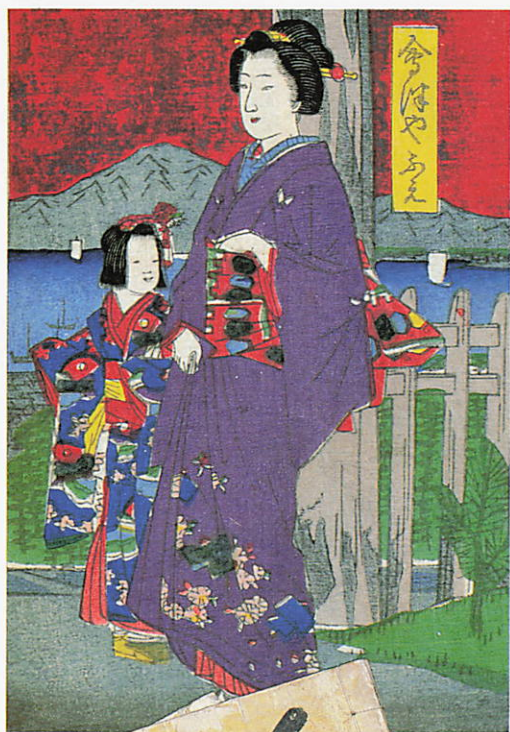


築いた會津屋が詳しく描写されている。

——客室五十余、居間、湯殿等建坪二百余坪、庭園に泉石樹木を配し、古町から寺町まで五百坪の広大な美観は目を見はらせるものがある。



妍を競う會津屋の芸妓たち
いずれも金子錦二「新潟花かづみ」[左下]より
明治12年刊 新潟県立図書館



越は多く女を生み、また多く美なり。けだしその土地、陰を位するをもつてならん。妓女は溫柔にし

がある。

その『新潟富史』には、古坊(古町)を紹介した一文

がある。

平山敏雄著『新潟芸妓の世界』には、江戸末期の儒

者で戯文家でもあった寺門静軒(一七九六—一八六八)が

記した『新潟富史』の抜粋が紹介されている。原文は

漢文のため著者が読みやすく手を加えたというただし

書きがついている。

廓だった以上、そこにいた女性たちもまた商売の一部

を担っていた。

もちろん、會津屋が繁昌したのは、建物が立派で書

画調度品が揃っていたためだけではなかった。それも

大きな要素ではあったろうが、明治二十一年までは遊

廓だった以上、そこにいた女性たちもまた商売の一部

を担っていた。

更なる財力にまかせて名家の書画、奇玩珍器を集め、

諸調度も京都輪島の精粹を尽くしたものだ。その

のため眼識ある客人の観賞多く、各藩の家老、武

士、豪農、儒者、文人等教養人士の社交場として、

會津屋の最盛期だった。



會津八一の生家があつた古町五番町辺り
明治時代 写真提供・新潟日報事業社

て、ほぼ京の女郎に似る。しこうして粧色は江都を学ぶ。歌曲もまた然り。

温にして妬心なく、情客とかりそめの幸いをほし
いままにす。これは江都と反す。不義理をとらえて、
文句をいうがごときことなし。

これは新潟の古町における遊女たち全般の印象を語っているわけだが、つまりは京都の女性に似て、やさしく美しく、江戸の女性たちのようなフアッションや歌曲も取り入れている。しかし、やたら格式張ったところはなく、吉原のように面倒な手続きもなく客を取ると説明している。

さらに寺門靜軒は、新潟の代表的な美女を二十八人列挙している。その中に會津亭の女性が五人含まれていた。(會津屋ではなく會津亭となっているが、これは同一の店と思われる。)

お八重(會津亭) うぐいすの聲は雲をとどめ、ちようは舞つて春を生ず画中の美人、魂を得て飛び出す。

お百（會澤亭） 艷色秀麗、牡丹露をこらす。知る、君
主をして笑いをおびて見せしむるを。

お代（會澤亭） また未だ瓜を破らず。眼は秋水をこらし、眉は春山をえがく。舞曲あわせてたくみなり。

お末（會津亭） 挙止は閑雅にして品格高し。芙蓉水を
出す。

お銀（會津亭）　手は三弦の糸を思うままに、姿態は嬌
の一字に恥じず。

一軒の店で五人もの美妓をかかえていたのは會津亭だけで、次に多い加賀亭でも三人にすぎない。いかに會津屋が繁栄を極めていたかを示す資料といえるだろう。

會津屋は別名灣月楼とも呼ばれていた。この名前の

由来は、明治二、三年頃、新潟へやって来た政府の高
官巖谷一六が會津屋に宿泊して命名したという。(『新潟
県郷土作家叢書』4 會津八一) しかし、明治四十一年の大
火でその横額も焼失した。

明治期に入つて、會津屋はいくつかの非運に重ねて遭遇している。

まず、會津屋二代目の金太には一女英おんなひでがいた。英に養子の友五郎を迎えたのだが、友五郎は明治元年、四十二歳の若さで亡くなってしまった。続いて金太も明治八年に六十八歳で世を去った。残された英は、幼い二人の子供たちを養育しながら女手一つで會津屋経営の任にあたることとなった。

時代そのものも変わりつつあった。文明開化の掛け声と共に、西洋文化が日本の社会にも流入してきた。キリスト教的道徳観に裏打ちされた娼妓運動も、次第に芽生えつつあり、日本人の遊廓に対する認識は変化していた。

明治五年には、県令楠本正隆が、政府より「娼妓・芸妓・年季奉公人を一切解放し、貸借の訴訟は総て受理せざる旨を布達」され、一同の解放を申し渡すという、思い切った処置に出ている。（『新潟市史』）

しかし、「旧来の陋習を一蹴する」目的ではあったが、この芸妓解放令は実際には機能せず、倒産する者や路頭に迷う者が続出し、「止むを得ざるもの」に限り、再び営業の許可を与ふべきこと」となつて、営業鑑札が
出された。

もちろん、簡單には遊廓が姿を消すはずもなかったが、いちおう政府の方針としては、遊女の廃業を勧める方向にあつた以上、遊廓の営業にも微妙な影響を与えたと考えられる。

また、明治維新の余波で世上が不安定になり新渴遊覧の客も減少していた。

明治の初頭から、會津屋を取り仕切った英は、會津

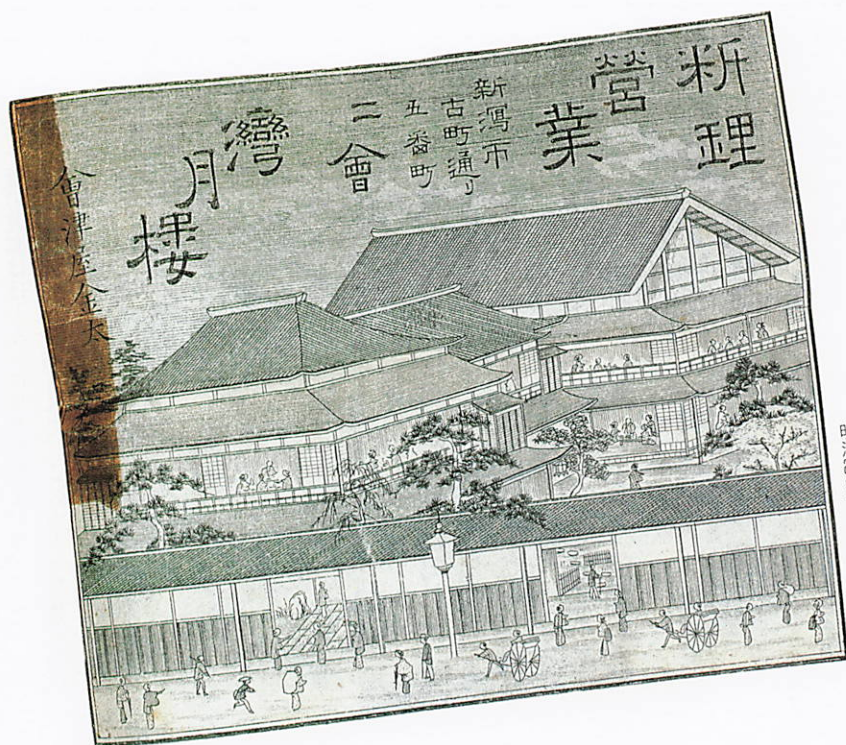
独り悠然と歩み去った
文人會津八一の人と芸術

「秋艸道人」 三部作成る！ 植田重雄 著

「鹿鳴集」一卷によって道人會津八一（二八八一～一九五六）の文名はつとに高いが、彼はまた書の人、古美術研究家、教育者であった。遠くギリシアに憧れたのも、人間性の全的開花がそこでは実現されたと理解したからである。

著者は早大生時代、親しく會津教授の薫陶を受け、自身も最近まで同大学の教授として、ユニークな講義をもつて聞こえた。このたび、恩師の人と芸術を江湖に紹介すべく、「秋艸道人」三部作を完成した。

二十世紀も終わろうとする今日、ますます細分化する人文主義に、逸早く危機を察し、現代の文人として孤高の生涯を全うした秋艸道人會津八一の人と芸術は、われわれに尽きせぬ示唆を与えてくれるに違いない。



會津屋（漢月樓）図
川崎源太郎「北越商工便覧」より
明治22年刊 個人蔵

先生の父母については、近過ぎる為か、近親の語るところも甚だ少い。」としながらも、吉池はイクの面影を次のように伝えている。

母イクは恰幅のよい貞淑順良の人柄で、遊芸の嗜みあり、三絃、長唄、小唄、清元等をよくし観劇を好んだ。新潟へ千両役者の河原崎權十郎（團十郎）中村歌右衛門（福助）芝翫などがやって来て興行した場合、は欠かさず観劇に出かけた。

地方都市にありながら、洗練された趣味人だったイクにも、やはり會津屋四代の文化の蓄積が息づいていたのだらう。一方、父親の政次郎については、「資性篤実温和、礼儀正しい人」と書かれてはいるが、これといった個性を感じさせる描写はない。

ここてわかるのは、明治二十一年以降、料理屋へと転身した會津屋は、インテリ志向の強い友次郎と、遊芸の好きなイクと、性格の温和な養子の政次郎といった人々によって運営されていたという事実である。しつかり者の祖母英が控えてはいたものの、やはり事業を推進させるエネルギーとは、やや違った方向へと向かっていったのではないだろうか。

友次郎が會津屋を継いだのは、明治八年だが、まだ

十一歳の若さだったため、姉のイクが市島家から政次郎を迎えて、幼ない友次郎を補佐する役割を担った。したがって、友次郎が一人前になれば、当然會津屋を去っても良かったわけだが、ついにずるずると明治末頃に會津屋が没落するまでイク夫婦も居ついてしまった。このへんにも政次郎の性格が現れているような気がする。

いくら大木でも、あまりに多くの人間がぶらさがれば倒れてしまう。八一が幼少期を過ごした頃、會津屋はすでに倒れかけた大木だったのではないだろうか。

或る一時期には両家とも子沢山で、友次郎の方が十四人、政次郎の方が六人、子供だけで合計二十人、そこへ両父母あり、乳母あり、女中あり、番頭あり、抱えの芸妓あり、料理番ありで、四十余人の大世帯で暮したことも度々あった。食事の際など細長い餉台を作って置いて、此方側は男の子、片側は女の子と座席を分けて食事をしていたこともある。（會津八一傳）

過密な人口の中で、八一は母親よりは乳母の手で育てられたという。

秋艸道人會津八一の芸術

新たな構想のもと、作品ひとつひとつに当たりながら道人の人生観、文明観、宗教性をさぐる渾身の論考！

秋艸道人會津八一の生涯

妥協を排し、理想の美を追求してやまなかった會津八一の足跡をたどる伝記。

秋艸道人會津八一の書簡集

會津八一の生涯の重大な転機を解き明かす資料、未発表書簡などを多数収録！

恒文社

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03-3238-0181

●お近くの書店でお求めください。
●電話による直接注文もお受けいたします（宅配料380円）

絵を蒐める

新潮社版

私の推理画説

福富太郎

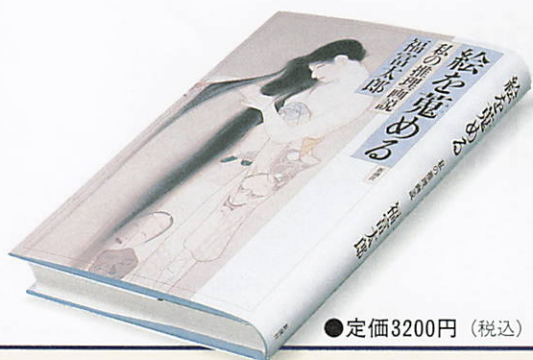


絵を見ていると、作品にまつわるさまざまな疑問が湧いてくる。
 実をいえば、そんなふうに「絵とつきあう」ことが、私は好きなのだ。絵を見て楽しむだけでなく、その絵についてなるべく多くのことを知りたい。周辺の資料を集め、絵の背後にあるものを推理する。そうすることで、絵がいつそう自分に近しく感じられてきて、絵に対する想いが深まるような気持にもなる。



《軍人の妻》も、カタログの図版でさえかくも美しくみえる。だが、喪服姿の女性像を手に入れる機会など、これから先あるだろうか。長年、女性を描いた絵を蒐めてきて、せつなく女性がいちばん綺麗に見える喪服の肖像と出会ったというのに。いや、これ以上の絵が出てくることは二度とはあるまい……画商に電話を入れると、「もう駄目ですよ……」

ついに「帰国」した満谷国四郎《軍人の妻》 第一章



●定価3200円（税込）

諦めきれずに二十回ほどため息をついたろうか。ある日、作品集を眺めていて、ハッとした。作品集に収められた《長閑》という作品に、見覚えがあるような気がしたのだ。慌てて、像の前に行つて図版と彫刻を見比べた。下の部分が決定的に違う。図版では原石の形を生かした四角い底部の上に胸像が乗っているのに、対して私の像は、胸元の輪郭にそつて下部が削りとられてしまっている。……誰か写真家に頼んで、作品集の図版と同じ角度、同じ照明で写真を撮ってもらおう。像の輪郭から肌の凹凸が作る陰影まで、新しく撮った写真と図版がピッタリと重なれば、これ以上たしかない。



なんと優美な女性像 北村四海《長閑》 第九章



黒田の作品を探しはじめ、四年ほどたつてこの肖像画に出会った。馴染みの画廊で入手したものだ。気になることがあった。黒田の真作と保証はしてくれたものの、言葉にもうひとつ力がないように感じたのだ。「大丈夫なんだろうな」「え、まあ……大丈夫、です」といったニヤンスである。それでもこれを逃したなら、いつ再び黒田作品に出会えるかわからないと思ひ、譲り受けることにした。描かれた人物は四條侯爵だと……

なぜかサインが二つ 黒田清輝《四條侯爵像》 第十七章

本誌連載「福富太郎のアート・キャバレー」さらには単行本化！

公募

第 31 回

昭和会展

- 一、昭和会は昭和26年以後生まれの美術家（洋画、日本画、彫刻）を育成、激励し、広く世に顕彰することを主な目的とする。
- 一、本会はその趣旨に基づき、毎年2月、日動画廊〔東京都中央区銀座5-3-16〕において、招待制による昭和26年以後生まれの美術家の発表展を開催する。
- 一、招待作家は毎年30名以内とし、作家側6名以内、評論・ジャーナリスト側6名以内、日動画廊側3名により構成される選考委員会によってこれを決定する。
（選考委員会のメンバーは時により変更することがある。）
- 一、選考委員会は毎年8月、主要団体および有力作家、評論家、その他美術関係者等の推薦を主とした応募者の参考作品を検討して、投票により招待者を選出、これに基づいて事務局よりその作家に制作、出品を依頼する。

（昭和会展規約より）

- 応募者は平成7年8月21日(月)・22日(火)〔午前10時—午後6時〕に20～30号の作品(額縁なし)＝彫刻は1m以下＝2点以内に搬入票を貼って日動画廊昭和会展事務局(〒104東京都中央区銀座5-3-16 ☎03(3571)2553)に搬入し、8月24日(木)・25日(金)〔午前10時～午後6時〕に搬出票持参の上、日動画廊より同作品を搬出する。(運送店使用も可、但し搬出入にかかる費用は全額自己負担)。
- 出品料は無料。
- 招待作家は8月24日(木)・25日(金)に搬出会場にて発表。
- 8月23日(水)に招待作家を決定。
- 第31回昭和会展は明年2月、日動画廊において開催。

※ 問い合わせ先：日動画廊昭和会展事務局 Tel.03(3571)2925

(規約書は4月以降各日動画廊にごさいますので80円切手同封のうえお申し込みください。)

日動画廊

galerie nichido

日動画廊

中央区銀座5の3の16 ☎03(3571)2553

アネックス日動画廊

中央区銀座5の4の16 ニュースキャビル2階

☎03(3571)2925

名古屋日動画廊

名古屋市中区栄3の7の13 ☎052(241)8611

大阪日動画廊

大阪府中央区北浜2の1の23 ☎06(231)8739

福岡日動画廊

福岡市中央区渡辺通り1の1の2

ホテルニューオータニ博多1階

☎092(713)0440

財団法人日動美術財団

笠間日動美術館

茨城県笠間市笠間978-4 ☎0296(72)2160

附属春風萬里荘

笠間市下市毛1371 ☎0296(72)0958

Galerie Nichido-PARIS

61, Rue du Faubourg St. Honoré.

Paris 8^e Tel. 4266-62-86

Gallery Nichido-NEW YORK

30 East 85th street Apt. 18A New York,

10028 N.Y. Tel. 212-794-3689

幼児の大きさは奈良の大仏より大きいぞ！
JR加賀温泉駅のすぐ隣、加賀寺というお寺
の境内。お寺といっても、ここは遊園地や博
物館などが並ぶ一大レジャーワールド「ユ
ートピア加賀の郷」の一施設なのだ。

千年湯を行く 第11回
白山も恥じらう
加賀温泉郷
栗津温泉・山中温泉・山代温泉
撮影……松藤庄平「本誌」



羽

田から約1時間、厚い雲の切れ間を抜けて小松空港に降り立てば、あれっ、ここは豪雪地帯のはずなのだが……。気温も7度。東京と変わらないじゃないか。「ここ10年、こんな調子です。僕が若い頃は隣の家まで、雪のトンネル掘って行ったもんなんだけどねえ」と、タクシーの運転手。すっぱり雪に覆われた中、湯煙をあげる湯治場をそぞろ歩けば温泉で磨かれた加賀美人とすれ違う、うれしくそんな想像をしていたのだが、枯れがれとした景色を見るとちよつと拍子抜けする。とはいえ、意外と間近に厚く雪に覆われた白い山塊が重なりあつてそびえ立ち、ここが白山のお膝元であることを教えている。千数百年の昔、泰澄という僧が難行苦行の末、ようやく白山の登頂に成功したという伝承が残るように、今も白山は白く輝く壘惑的な姿を見せていた。そう、この泰澄さんが実は加賀温泉郷の大恩人なのである。厳しい修行の合間に泰澄が発見したのが北陸最古の粟津温泉だったのだから。今回訪れる加賀温泉郷は、温泉地の中でも特に飲楽温泉郷として名高い所で、石川県小松市と加賀市を中心に点在する、粟津、山中、山代、それに片山津の4つの温泉を指す。このうち片山津温泉は、開湯からまだ千年経っていないので、残念だが省略。

キッチンもここまでくれば……

第1夜は粟津温泉へ。とはいえ、まだ日も高い。タクシーの運転手が「ちよつと変わった所」へ連れていってくれた。「ここです。ハニベ巖窟院」。切符売り場の後方、ブロックで積まれた台の上に大仏の仏頭だけがドカンと乗っている。戦前まで石切場であつた洞窟を利用して、彫刻家・都賀田勇馬が昭和26年(1951)に創設した寺院だという。ほの暗い洞内に自身の作品のほか、地獄のさまをドラマ仕立てに表わした彫刻群が並び、鬼が内臓料理の食卓を囲み、罪人が血の池に浸り、「若鬼のコックさん」などとタイトルがついた鬼ま



地図製作・千秋社



でいる。ここはれっきとした宗教法人だそう。

また別に凄いものを見た。加賀平野の只中、JR加賀温泉駅の海側に立っていたキンキラキンの大観音である。聞けば高さ73メートル、「ユートピア加賀の郷」という一大レジャー施設の敷地内にまします観音さまだという。脇に「真言宗 大本山観音院 加賀寺」と書いてある。ここもお寺？ 抱いている赤子が奈良の大仏よりも大きいという大観音を真下から見上げた、首が痛い。コンクリートに金色の塗料が塗ってあるという。目が眩しい。観音の「胎内」に入ると、四国八十八カ所の各本尊の模様がすべて安置され、胸部辺りまで続く階段の壁面には金ピカのプラスチック製のミニ観音がびっしり。胎内も実に派手やかである。エレベーターはない。階段を上がる。所々の小窓から日本海、加賀平野、さらには遠く白山まで望むことができ



雲峰・白山を背に立つ泰澄大師像
粟津温泉は白山を開山した泰澄発見の千年湯。昨年9月に完成したばかりのブロンズの泰澄さんが温泉入口で迎えてくれた。

●粟津温泉ガイド

【交通】●JR北陸本線粟津駅からバスで約10分。●小松空港から車で約20分。
【宿】●法師 〇07617651111 養老2(718) 年開湯、ギネスブックにも載る世界最古の旅館。●旅館・ホテル14軒、民宿3軒、公共の宿1軒。
【問合せ】●粟津温泉観光協会 〇07617651834

●山中温泉ガイド

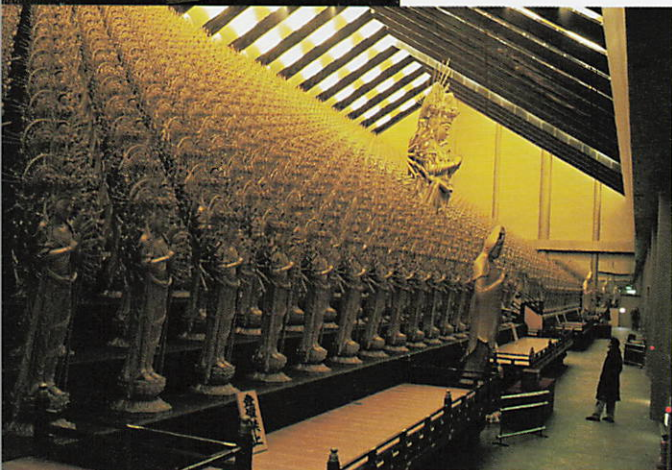
【交通】●JR北陸本線加賀温泉駅からバスで約25分。●小松空港から車で約35分。
【宿】●よしのや依緑園 〇0761781001 鶴仙溪を眺望できる創業800年の老舗。●旅館・ホテル28軒、公共の宿4軒。
【問合せ】●山中町役場漆器観光課 〇0761781111

●山代温泉ガイド

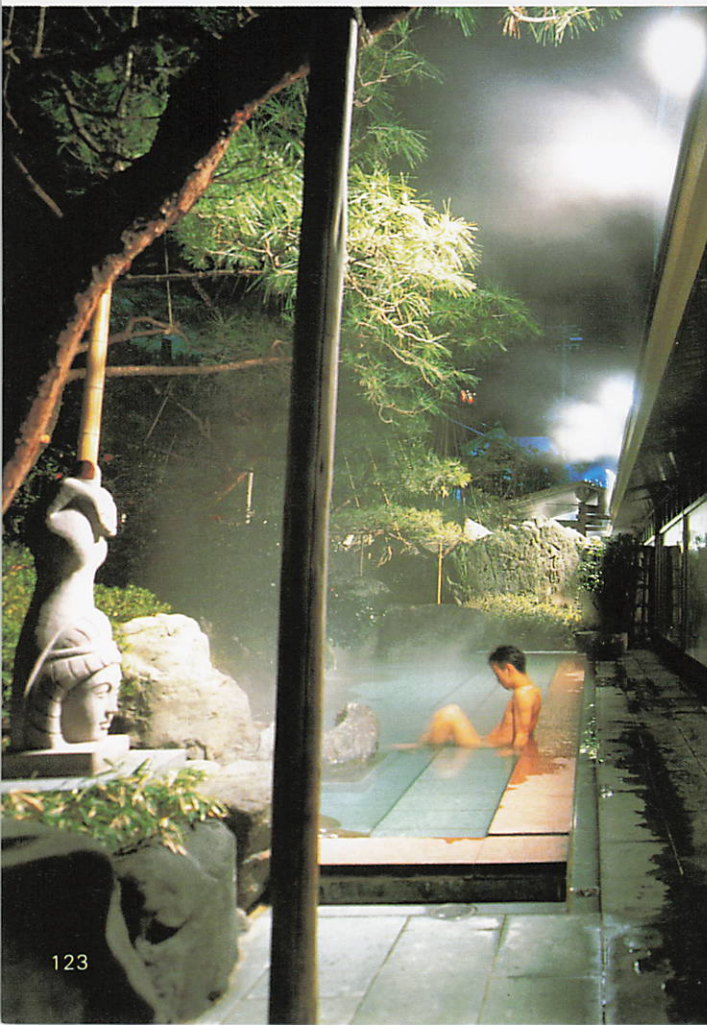
【交通】●JR北陸本線加賀温泉駅からバスで約10分。●小松空港から車で約30分。
【宿】●白銀屋 〇0761770025 工夫を凝らした懐石料理が自慢の老舗旅館。●瑠璃光 〇0761772323 近代的な巨大旅館ながら、従業員親切丁寧な対応がうれしい。●旅館・ホテル30軒、公共の宿5軒。
【問合せ】●山代温泉旅館協同組合 〇0761771144



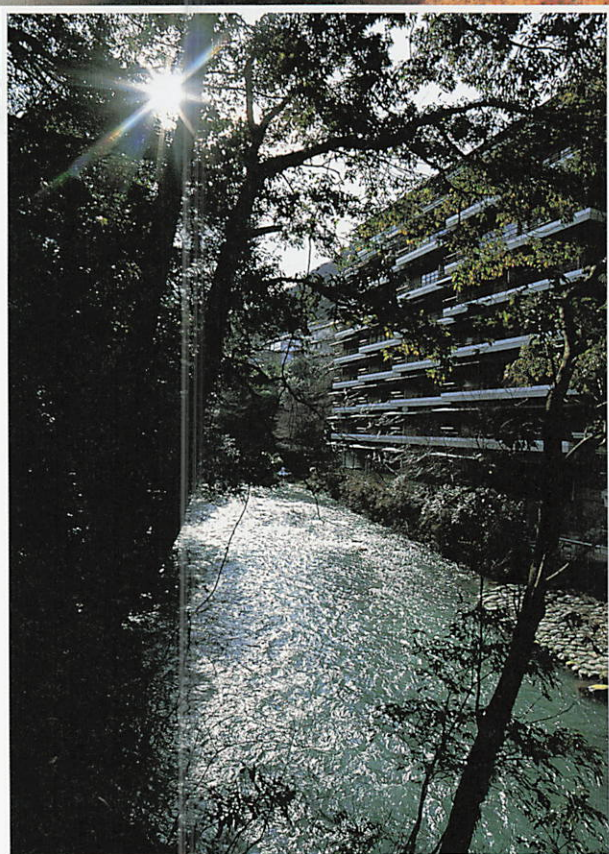
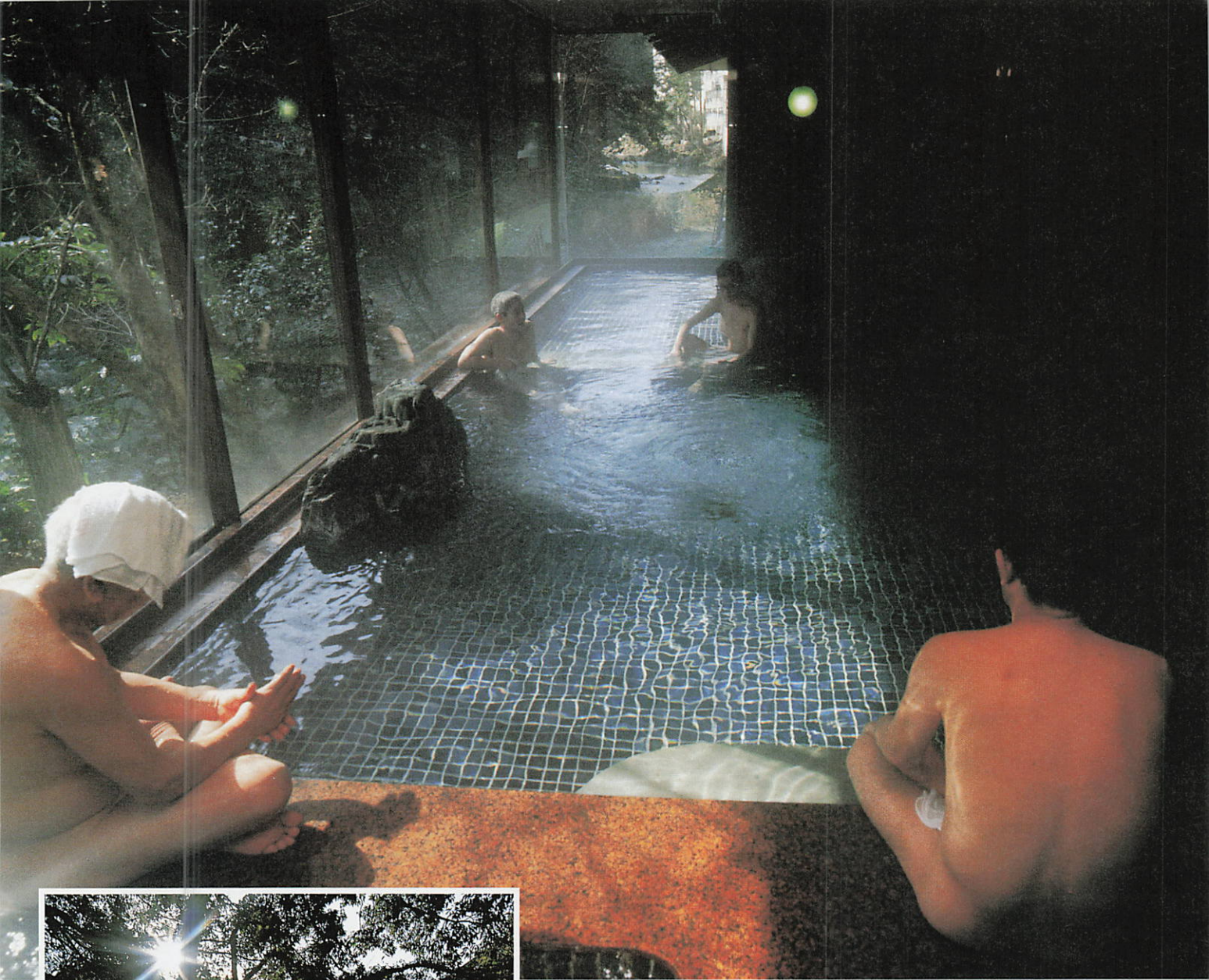
極楽も地獄も体験できる？ 洞窟寺院、八二ヶ峯窟院
入口には頭だけの仏さまがニョキッ。裏山の洞窟内では内臓料理を前に赤鬼や青鬼が宴会中。怖くない立体地獄絵巻をくり広げる。



加賀寺ミラクルキッチン・パート2
瑠璃光殿内の高さ17メートルの五重塔[上]は大きくてフレームに入り切らない。三十三間堂[下]も不気味なほど大きい！ 完全にレジャー化した寺院である。



世界一歴史の古い宿たとか 粟津温泉「法師」の湯
旅館「法師」の露天風呂(左)。旅館の前の道には加賀藩3代目藩主・前田利常手植えの「黄門杉」[上]が立ち、この宿とともに粟津温泉のシンボルとなっている。



温泉に浸かりながら渓谷美を楽しもう 山中温泉「よしのや依緑園」
山中温泉のウリは名勝・鶴仙溪(大聖寺川)。だから渓谷沿いの旅館は風呂場に積極的に景観を取り入れる。ただし、夜間は対岸の遊歩道からの覗きに注意。

た。ということは、海や山からも、この大観音が見えるということだ。境内には加賀三十三間堂という巨大なお堂もあり、金色に輝く1188体の千手観音が壇上にズラッと並ぶ。チカチカした眼をこすりながら今度は瑠璃光殿へ。高さ17メートルの八角の五重塔が、中にすっぽりと納まっている。またしても金色。他にも世界一の梵鐘だとか金色堂だとか、おまけに喫茶で飲んだコーヒーにも、なんと金箔が入っているのだった。それにしてもキツチュなこの2寺、加賀には宗教が芽生える養分みたいなものがあるのだろうか。

青くなかった「加賀の湯」

加賀寺を出て約20分、国道8号線から小松バイパスに入ってしばらくすると、右手前方、田圃の真ん中に泰澄大師のブロンズ像がニョキッと姿を現わした。これより粟津温泉。開湯の人、泰澄が片手を「ヨッ」と上げて迎えてくれる。白山山系がさらに迫り、奥には霊峰白山が真っ白い顔を出している。

初日の宿「法師」は、粟津温泉開湯と同時に出来た、

日本一古い、いやギネスブックにも載る世界最古の超老舗旅館である。宿のパンフレットによれば養老2年(718)、泰澄大師は白山大権現の「粟津に霊泉あり……」という夢のお告げを受け、この温泉を発見。その時にお供をしていた雅亮法師と呼ぶ弟子に湯守りをするように命じて湯治宿を建てさせた。その人が旅館「法師」の初代にあたるそう。泰澄は越前(今の福井県)に生まれ、祈りによって流行り病の痘瘡を治し、「越の大徳」とうたわれた高僧であつたから、温泉周辺には奇岩と紅葉の名所として知られる那谷寺や、温泉裏手にある大王寺など泰澄開基の古刹が点在する。またこの辺りの神社のほとんどが白山神社の名を冠しているのも、富士山や立山と並んで日本三名山のひとつといわれる「白山」への信仰が、古来この地に篤かつたことを示すものだろう。この宿、代々が法師善五郎を名乗り、現在の当主はなんと46代目。

では、1300年の歴史をもつ出湯はいかがなものか。大浴場は、地元で採れる芍谷石という柔らかい石となめらかなインド砂岩を使った、広く贅沢な造りではあるが、変に気取っていないのでホッとする。かぶり湯をして、ゆつくりと湯船に身体を沈める。泉温は40度ちよつと。熱くもなく、ぬるくもなく、いい湯加減である。いくらかぬめりがあるが、無色透明、無味無臭でクセがない。でも、なんか変? この辺の温泉は青みがかったりものとは思い込んでいたのになのか? 加賀の湯なる入浴剤、あれはいったい何だったのか? 大浴場わきの露天風呂にも浸かってみる。いい湯である。しかし……青くない。

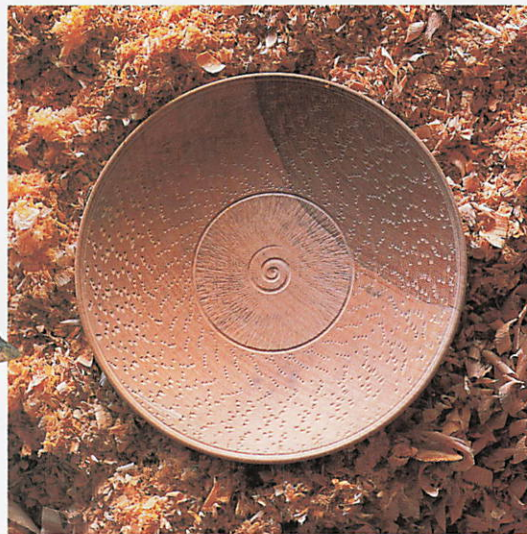
夜の夜中にシシは出るか?

翌日。きょうは加賀温泉郷のうち一番奥深い所にある山中温泉に向かって、国道364号線を南へと進む。加賀平野が後ろに退くと、あつという間に辺りは山に囲まれた。坂道の両側に近代的な旅館やホテルに並んで、山中塗とか九谷焼の看板が見えてきた。

とりあえず宿に荷物を置いて街に出る。商店街を覗きながら道を下ると共同浴場である総湯「菊の湯」にぶつかった。粟津温泉にも総湯があつたが、粟津が鄙びた銭湯風だったのに比べると、こちらは緑色の瓦を葺いた天平風の優雅な建物である。ここの湯も粟津と同じく無色透明、湯加減もほどよい。元禄2年(1689)、『奥の細道』の旅の途中で山中温泉を訪れた松尾芭蕉は、「山中や菊は手折り、その花の露を飲んで長寿延命を保つたというが、山中ではその必要もあるまいと、この湯の素晴らしさをたたえているのである。これが総湯「菊の湯」の名前の由来だそうである。

九谷焼と山中漆器

[左]《陶製金剛童子立像》 17世紀 高48.5 医王寺蔵
山中温泉の山奥には古九谷の窯跡が残る。医王寺には陶祖・後藤才次郎作と伝わるユーモラスなお顔に古九谷らしい色調の衣装をまとった金剛童子像が安置されていた。
[下]ほんものの山中漆器は、ごく薄手にろくろ挽きした木地が生命。その木地に漆をかけていったのだ。樺や柃を原木とし、カンナとろくろだけで仕上げるのが木地師の腕の見せ所。宮本常吉さんの工房で。



こに残る『山中温泉縁起絵巻』によれば、山中温泉は天平年間(729-749)に奈良の高僧・行基が発見したと伝わる(ちなみに伝承では行基は白山で泰澄と顔を合わせているとか)。その後、山中は平将門の乱で一時廃れてしまいが、治承年間(1177-1181)に能登領主・長谷部信連によって再興。当時は湯元の総湯を中心に旅館12軒が軒を連ね、それが今日の旅館の基礎となつたそう。さて一向一揆で名を馳せた蓮如も、文明5年(1473)にこの山中へ湯治に訪れている。戦国時代、約1世紀にわたり繰り広げられた一向一揆は、単純に言えば念仏を唱える者は皆平等のはずと信ずる農民と、武士など支配層との過酷な戦いであつた。なかでも蓮如が指導した加賀はその激戦の舞台。おそらく山中をはじめこの地の温泉場は、戦の傷を癒すオアシスとなつたに違いない。温泉みやげとして源平の時

山中温泉の湯元、総湯「菊の湯」

近年改築されたばかりの天平風の建物。山中町民のほとんどが今も家に内風呂を持たず、ここを利用する。年中無休。ただし、日曜以外は男性専用。女性は隣の福祉センターの浴場「芦の湯」で。



代より伝わり、蓮如上人が間違えて本物を食べてしまったという「馬のくそだんご」を売っていた。農民に暮られた蓮如ならはのお菓子だ。

この医王寺にはまた九谷焼の祖・後藤才次郎が造った重文の陶製金剛童子像が安置されている。ぜひとも拝見したい。古九谷は実是有田出来か否か、まだ論争が続いているが、地元では九谷焼は約340年前に大聖寺藩主・前田利治の命によって家臣の後藤才次郎が創始したといわれ、大聖寺川の上流、町外れには今も古九谷の窯跡が残っている。拝見した童子像は、異国風のユーモラスなお顔に古九谷らしい色調の衣装をまとった像だった。

山中漆器もまた、九谷焼と並び山中を代表する伝統工芸品だ。今から400年ほど前に木地師たちが越前から移り住んで器を作ったのが始まりといわれ、その後、江戸中期に京都から栗色塗や朱溜塗のほか蒔絵などさまざまな技術を導入して、現在の山中塗となった。ところが最近では山中塗と聞けば、どうしても合成素地に化学塗料でコーティングした量産品を思い浮かべてしまわないか。なんのなんの、本来の山中塗はそんなものではない！木地師の宮本常吉さんの工房を見せてもらった。代々木地師だった宮本さんの家は今から20年ほど前、山奥の過疎の村からここに降りてきたのだとか。建物の中に入ると、粗挽きされたお椀やお盆の原材が山と積まれている。木屑の舞う2階の工房では、30歳になる息子さんが黙々とろくろを回していた。原材を出来るだけ薄くろくろで挽き、そこに千筋、稲穂筋などの文様を刻みこんでいく。実はこの

木地が山中塗のいのちなのである。我々がよく目にする量産品は戦後に生まれたものなのだ。漆器職人からすれば、プラスチックと比べるなどのもつてのほか、厚く漆で塗り込めて装飾する輪島塗と、木地の持ち味を

大切に作る山中塗との差を見て欲しいところであろう。温泉街の東端を流れる大聖寺川は、激しい水流が自然の岩盤を切り崩し、鶴仙溪と呼ぶ景観を作り出した。その谷沿いの各旅館の呼びものとなっているのが、湯に浸かりながら楽しむ鶴仙溪の眺めである。きょうの



総湯で聞いた千年湯の秘密

山中訛りて真似をする……そんなやりとりが、いつしか山中節となったという。へう加賀の山中おそろしところ夜の夜中にシシが出るへう鉄砲かいて来た山中でシシもうたずから戻り。こゝで登場するシシは、猪ではない。実はシシとは湯女のこと。つまりお客と湯女との愛の交歓なわけである。さて、今はどうなっているのだろうか？部屋に戻り、接待さん（加賀温泉郷では仲居さんのことをこう呼ぶ）にシシの話をすると「ええ、今もそういう旅館はあるみたいですよ」とアツケラカンと答えた。「でも、そういう遊びなら山代か片山津です」。なにに、山代？次はその山代温泉に2泊の予定である。はたしてシシの一端を垣間見ることが出来るのだろうか。

山中から車でほんの10分あまりで山代の温泉街へと突入する。鉄筋コンクリート、

定員何百名という巨大旅館が建ち並んで、遠目に小都市と見紛う山代温泉だが、中に入ってみると起伏のない街は温泉場というよりは、むしろ商店街といった感じである。ここもまた御多分に漏れず、神亀2年（725）、行基発見の湯である。

この日の「白銀屋」は総湯のすぐわき、周囲をビルに囲まれて、そだけ切り取ったように昔ながらのたたずまいを残す宿であった。深い紅色の壁に黒い

柱、翻る白い暖簾、うだつの上がつた屋根、しばし見とれる。山代では、湯元である総湯の辺りを湯の曲輪と呼ぶ。湯を囲むという意味だが、ここに建つ旅館は江戸時代、加賀藩の藩政下に置かれ、今も各旅館の間口はすべて同じ広さになっているとか。江戸末期の記



かつての山代温泉の雰囲気や今に伝わる「白銀屋」
[左頁上]寛永年間創業、加賀藩前田家の久姫の定宿だった老舗らしく、屋根にはうだつが上がり、紅殻格子も暖簾も美しい。
[左頁下]こたえられない焼ガニの甘さ！板長が生のカニを焼いてくれた。

[上3点]地下は「おんせんたまご」製造工場 山代温泉総湯「浴殿」
山代温泉の総湯「浴殿」。パイプが縦横に走るこの地下で毎晩温泉に浸かるものがある。泉温65度。8時間かけて、じっくり成分を取り込んだ「おんせんたまご」の真打ちが製造されているのだ。

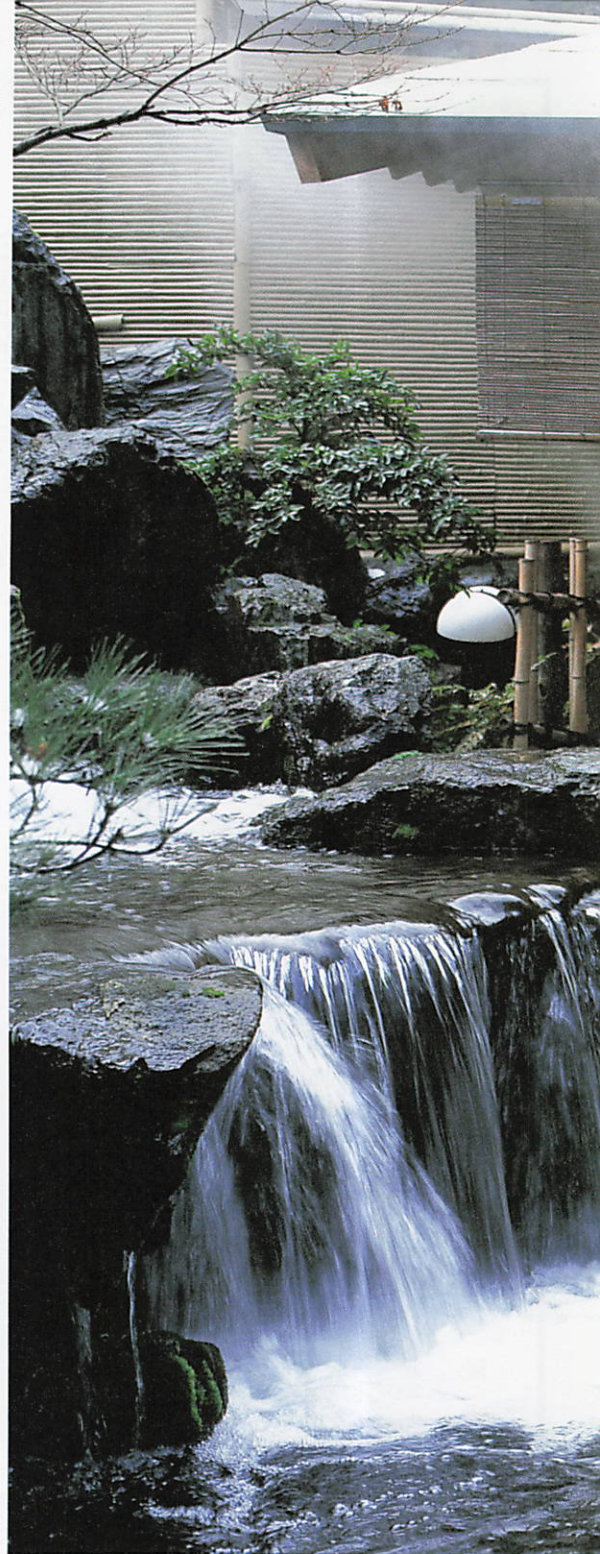




録によれば、その数19軒。これらの宿は山中温泉と違い、かなり早い時期から総湯より湯を引いて湯壺という内湯を持っていたそう、そのため大いに賑わったらしい。「白銀屋」はそのうちの1軒で、加賀藩前田家の久姫の定宿だったと伝わる。垂木が剥き出しの天井の高い玄関を抜けて、2階の部屋へと案内される。接待さんは色白の美人である……いや、あらぬ期待はいけない、温泉に浸かろう。男湯は、総檜造りの広々とした湯船であった。湯は、栗津、山中に比べていくぶん熱い。湯の成分がしみ込むよう、じつくりと浸かる。

しかし、お湯ばかりでなく、やはり北陸ならではの味覚も楽しみたい。料理自慢の宿だけあって、これが実に美味かった。加賀温泉郷では、たいがいどの旅館も食べきれないほどの料理でもてなそう、実際、栗津や山中でも、食卓が海、山の御馳走でいっぱいになった。ただ、ここ「白銀屋」では「新鮮なものは新鮮なうちに、熱いものは熱いうちに召し上がっていただくのが、なによりです」と料理を食べ終わるのを見計らって次が運ばれる。よく身のしまった日本海の寒ブリが、本物の雪の上に盛られて出てきた。その寒ブリのアラで焚いた大根の美味しいこと、新鮮でなければ出せない味である。そして極め付きは焼ガニ。栗津でも山中でもカニは美味しかった。が、いずれも茹ガニ。しかし、きょうはカンカンと火をおこした七輪を部屋に持ち込み、目の前で新鮮なズワイガニを焼いてくれた。これは何も特別なことではなく、各部屋で同じようにもてなすのだそうである。香ばしい匂いが部屋中に充満する。思わず生唾を飲み込み、焼き上がったはしから、次々

和風庭園に浮かぶ露天風呂 山代温泉「瑠璃光」
歓楽温泉地らしく、山代の巨大旅館には趣向を凝らした浴場が多い。東屋風の露天風呂は総檜造り。池を優雅に泳ぐ鯉を見ながら浸かる湯は、また格別。



と胃に収めていく。海の塩味だけでカニが甘い。地酒の大吟醸「手取川」のお銚子が1本、また1本と空いていった。

酔っぱらった勢いで、浴衣姿に下駄を鳴らして夜の温泉街巡りと洒落てみる。しかし、それはいくら何でも無謀だった。今は冬、しかもここは北国なのである。ほとんどの旅館が中にバーやクラブを持っていて、お客さんを外に出さないようにしているというだけあって、さすがに街は閑散としている。「どこかにシシはいないかな」。ウツ寒いつ。すっかり酔いも覚めて、身体がぶるぶるしてきた。あわてて道を引き返し、総湯「浴殿」に駆け込んだ。

総湯は2階建て、1階が女湯、2階が男湯になっていて大人310円。湯気抜きがないのか、浴場はもう1つとした熱気が立ち込めている。近眼の目には目の前が真っ白だ。しばらくして大きな丸い湯船がふたつ並んでいるのが見えた。おそらく地元の人なのだろう、結構入っている。「お兄さん、東京から？ 若いのにここに来るなんて珍しいねえ。女遊びに来たんじやないの？」。隣に浸かっていた中年のおじさんが話しかけてきた。やはり、この温泉の目的はそれ？ 「山代に来

る男のお客さん、特に男だけの団体客はみんなそっちが目的だから、格式のある旅館以外はみんな接待さんとかが紹介してくれて、某所に案内してくれるんだ。そういう所は看板もないし、風呂もない。そんな場所がこの辺りには十数軒ある」と懇切丁寧に教えてくれた。「あ、接待さんが直接って場合もないじゃないよ。でも、それだと泊まりになって、もう一部屋取らなくちゃいけないから、かなり高つく。何なら知り合いがいるから紹介しようか？」。いやはや、ご親切に感謝しつつもご遠慮して風呂から上がる。

柔肌の「観音さま」

残すところあと1日。朝食を済ませて、きょうは日中の温泉街を歩いてみた。総湯の南側、「白銀屋」の斜め向かいにある温泉寺は、開湯と同時に建てられた山代の守護寺で、ここもまた行基開基である。平安中期に花山法皇の勅願によって、このお寺に七堂伽藍が建設され、多くの人々が参拝するようになってから、一躍山代の名は世に知れ渡るようになったという。小高

い山を占めるだけあって、この辺りは雪も深い。そこから巨木、大木がニョキッと立ち上がっている。裏手に回ると古墳のような塚があり、さらにお寺に隣接して建つ服部神社も、丹塗りの色合いが雪に晒されて歴史の重みを漂わせていた。やはりここは千年湯の地なのである。

山を一巡りして、また総湯の前へ出る。夜は気づかなかったが、総湯のわきでは「おんせんたまご」を売っていた。聞けばここ総湯の地下で毎晩仕込まれているという。この地下では源泉を汲み上げ管理しているから、天井にも床にも太いパイプが走り、タンクが並んで工場のようなものしさをどこで「おんせんたまご」を？ ステンレ

スの湯船のような中に真っ白なたまごが浸かっている。地たまごをなんと8時間！ じっくりと湯船に沈めておくのだそう。平日は1600個、土日には2回に分けて計3200個つけるといい、総湯の事務局局長さんは、この「おんせんたまご」は常温で1カ月間は日保ちすると自慢する。「電気を使って作ったり、あまり温度が高い温泉では短時間しかつけれないけれど、このはしっかりとエキ스가しみ込んだ本家本元の温泉たまごだよ」としきりに強調。

さて最後の宿は昨日とうってかわって、地上6階地下1階、収容人員630人、鉄筋コンクリート造りの巨大旅館「瑠璃光」である。まず1階ロビーの端から端までが70メートル。ここに土産物はもちろんのことブランド品の洋服まで置いている売店のほか、コーヒールラウンジ、ゲームセンターなどが、すっぽりと収まっている。3階には大浴場とは別にプール、さらには毎晩イギリス人女性のショータムが繰り広げられる300人収容のクラブなど盛り沢山。大浴場もこれまでの旅館とは比較にならないほど天井が高く、広い。内風呂は2つ、1つは流行りのジャグジー風呂だ。露天風呂は庭園の池に浮かぶ東屋風の総檜造り。錦鯉が



第1回グランプリ作品
「トンネル」
前島範久 作



兵庫のまつり
ふれあいの祭典'95

作品
募集

(ふるさとの命の姿)

■審査員(順不同・敬称略)

木村重信(国立国際美術館長)
増田 洋(美術評論家)
元永定正(画家)
山田洋次(映画監督)
大屋町長

■応募資格

年齢、性別、職業及び国籍を問いません。

■募集作品

- ①フォークアートの木彫作品であること。
- ②縦、横、幅の合計が120cm以内で、重さが20kg以下であること。
- ③未発表の作品であること。

■賞

グランプリ 1点 100万円
(買い上げ賞)
銀 賞 2点 50万円
(買い上げ賞)
銅 賞 4点 10万円
その他寄託賞 若干

■応募申込締切日

平成7年8月24日(木)
当日消印有効

■作品搬入期間

間接搬入:平成7年8月26日(月)~9月1日(金)
直接搬入:平成7年8月31日(木)~9月1日(金)

■展覧会会期

平成7年11月3日(祝)~12日(日)

■展覧会場

おおよホール(兵庫県養父郡大屋町)

■他都市でも展覧会を開催する予定
(会期、会場は未定)

■応募要項申込先及び問い合わせ先

〒667-03 兵庫県養父郡大屋町
大屋市場117番地 大屋町役場内
大屋町ふれあいの祭典実行委員会
公募展 木彫フォークアート・おおよ事務局

TEL 0796-69-0120(代)
FAX 0796-69-1682

木彫フォークアート・おおや

[下]大観音の“胎内”から山代温泉を望む
山裾に広がった山代温泉街を一望する。晴天には遠く白山の雄姿を見ることもできる。

泳ぎ、滝が落ちる池を見ながら温泉を楽しめる。なるほど、お客さんが外に出なくてもいいように、あらゆる施設を館内に取り込んで遊ばせるというのはこういうことなのか。こうした巨大旅館になると、とかく和風旅館の心配りも、近代ホテルの機能性も、その両方が中途半端になりがちなかで、この宿は両方の良さを叶えようとしているのが感じられた。1部屋に接待さんが1人つくなど、特にサーヴィスに気をつかっているようなのだ。いったいに、加賀温泉郷を泊まり歩いて感じたことは、もしかして加賀の方たちはお客好きかと思うほど、どこも人をもてなすのが実にうまい。実際、夕食を終えて1階のロビーで寛いでいたら、酔った客が接待さんにいたわられつつエレヴェーターを上がついていく姿を見かけた。こんなに親切にしてもらったら、あらぬ期待を抱くのも無理からぬと思うバカな私。巨大観音だけでなく、やはりここには柔肌の観音さまがおわすのかも知れない……。

帰りの朝、早く目が覚めた。窓を開けると外は淡雪がちらついていた。これでこそ雪国の温泉である。目覚ましに風呂へと向かう。だれもない浴場で雪見風呂と洒落込もう。しかし、露天風呂に出て驚いた。舞う雪を透かしてみれば空が青い。これが、噂に聞いていた北陸の気まぐれな天気という奴か。



車は5日前にやって来た道を小松空港へとひた走る。初日に見た白山、きょうは見えるだろうか? 泰澄、行基、蓮如……歴史を繙けば、ここ加賀温泉郷は常に宗教との関わりの中で発展してきたように思える。ここの一向一揆という信仰心に燃えた激しい「宗教戦争」が繰り広げられたのも、当時の農民や漁民が過酷極まる生活を強いられてきたからこそであろう。悩み、傷ついた人々にとって、信心は心の病を癒してくれる。身体の病や傷を癒してくれるのが温泉である。ならばこころは、ある意味で心身ふたつの癒しを兼ね備えた場であつたともいえる。いや、それ以上に人々は戦乱の世においてすら、この地に単なる湯治場を超えた「極楽」までを求めて、湯女も生まれたのではなからうか。そして今になっても、従来の神社では足りないのか、これでもかといわんばかりの巨大観音やキツチユな寺院が登場し、ここもまた人気を集めている。加賀温泉郷と宗教とは、どうやら二重構造になっているらしい。そして、現代の疲れた戦士たちは、今でも湯治以上の「極楽」をこの地に求めているようだ。白山大権現は、はたしてこうした事態をどのような気持ちで見つめているだろうか? 純白の女神は、なぜか最初の日にうっすらとお姿を見せてくれただけで、その後ついに私たちの前に現われてはくれなかった。



葆光彩磁瓢形珍果文様花瓶 1916 敦井美術館 蔵

近代陶芸のバイオニア板谷波山(八七二—一九六三)の
代表的な作品約三〇点ならびに下絵、図案類による、没後最大規模の回顧展

●会期・会場

1995年

3月28日(火)～5月7日(日) 東京国立近代美術館工芸館
主催＝東京国立近代美術館／朝日新聞社

5月13日(土)～6月18日(日) 大阪市立東洋陶磁美術館
主催＝大阪市立東洋陶磁美術館／朝日新聞社
企画協力＝東京国立近代美術館

6月24日(土)～7月26日(水) MOA美術館(熱海)
主催＝MOA美術館／朝日新聞社
企画協力＝東京国立近代美術館

8月 5日(土)～8月27日(日) 三重県立美術館
主催＝三重県立美術館／朝日新聞社
企画協力＝東京国立近代美術館

9月 3日(日)～9月26日(火) 石川県立美術館
主催＝石川県立美術館／朝日新聞社
企画協力＝東京国立近代美術館

10月28日(土)～11月26日(日) 福島県立美術館
主催＝福島県立美術館／朝日新聞社
企画協力＝東京国立近代美術館

板谷波山展



彩磁桜草文水差 1955 出光美術館 蔵

珠玉の陶芸



笹葉彫刻花瓶 1914
米国・ウォルターズ アート ギャラリー 蔵



葆光彩磁草花文花瓶 1930年代

第8回 上野の森美術館 日本の自然を描く展

《公募》

搬入日 平成7年6月5日(月), 6日(火)

上野の森美術館では、全国の美術家の積極的な参加による、第8回「上野の森美術館・日本の自然を描く展」を開催します。この展覧会は、日本の風景や風物、それに、人物、静物など、わたしたちの身近なものを対象にした、日本画、油絵、水彩画、版画などのコンクールです。自由部門と課題部門の2部門を設け、別記の要領で作品を全国から公募し、審査のうえ展示します。また、その中から優秀な作品に賞を贈ります。なお、上野の森美術館での展覧会終了後、巡回展をします。また、巡回展の期間中、開催地でのスケッチ会を行いますので、積極的にご参加ください。

●会 期 平成7年8月4日(金)～23日(水)

●会 場 上野の森美術館

●出品作品 イ) 自由部門 風景、風物、静物、人物など作品の対象は問わない。

ロ) 課題部門 課題は「わたしの城」。お城そのものに限定せず、広く生活の中の城、たとえばご自分の家、書斎、キッチンなど自分の城として描いた作品でもけっこうです。題は自由。

●出品規定 作品は、写真を除いた日本画、油絵、水彩画、版画などの作品であること。作品の大きさは、F10号(53.0×45.5cm)以内。なお、マット等使用のときは、マット等の大きさを含めてF10号(53.0×45.5cm)以内。ただし額縁は、既製の仮縁(ステンレス、アルミニウム、木材)、または、巾約3cm以内のものを使用。破損の危険がありますので、ガラス入りの額縁は使用できません。出品点数は自由部門、課題部門あわせて、1人2点以内。課題部門もしくは自由部門のみで2点出品も可。遠隔地等のため、直接搬入できない人は、ヤマト運輸㈱の宅急便・アートバックを使って、全国どこからでも簡単な手続きで、委託搬入できます。

●参加資格 16才以上で、国籍、経歴は問いません。

●審査委員	藤 本 東一良	日本芸術院会員	鶴 岡 義 雄	日本芸術院会員
	平 松 譲	日展理事	入 江 一 子	独立美術協会会員
	相 原 求一朗	新制作協会会員	梅 津 五 郎	日展評議員
	西 田 亨	日展会員	中 西 勝	二紀会常務理事
	田 中 良	二科会評議員	宮 田 農 哉	国画会会員
	柴 田 祐 作	日展会員	神 戸 文 子	女流画家協会委員
	川 崎 春 彦	日展評議員	日 野 耕之祐	日展評議員
	植 田 新 也	上野の森美術館館長		

●賞 自由部門、課題部門のそれぞれに下記の賞が贈られます。

上野の森美術館賞	圓錐勝三作ブロンズレリーフと記念品	1点
文部大臣奨励賞	〃	1点
JR東日本賞	〃	1点
彫刻の森美術館賞	〃	1点
美ヶ原高原美術館賞	〃	1点
産経新聞社賞	〃	1点
フジテレビ賞	〃	1点
ニッポン放送賞	〃	1点
サンケイリビング新聞社賞	〃	1点
優 秀 賞	賞状と記念品	30点
佳 作 賞	〃	60点

●主 催 財団法人日本美術協会・上野の森美術館 フジサンケイグループ

●後 援 文化庁(予定)

●協 賛 JR東日本

●応募要項ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、下記へお申し込みください。

〒110 東京都台東区上野公園1-2 上野の森美術館 GG 係 TEL 03-3833-4191

監修 富山秀男
編集委員 阿部公正、飯沢耕太郎、海野弘、五十殿利治、田中白佐夫、横山勝彦

資生堂ギャラリー 七十五年史

芸術・文化支援活動という意味を超えて、
近現代美術史の流れの中でも大きな意味をもつ

収録展覧会は3000件
出品作家をはじめ関係者は5000人余
モノクロ図版点数は1500点余
総頁736頁 A4判変形上製本カバー掛
定価20,000円(税込)
3月中旬発売

東山魁夷全集 作品総目録 '97年刊行予定

作品をご存知の方は全集編集室までご連絡下さい。

求龍堂

〒102 千代田区紀尾井町3-23 文藝春秋ビル9F
TEL.03-3239-3381代 FAX.03-3239-3376

歌麿、北斎たちの春画の傑作二三四点を全点「揃物」にて挙に紹介。

浮世絵揃物 枕絵 [上・下巻]



編集委員/辻 惟雄(国際日本文化研究センター教授) 小林 忠(学習院大学教授)
浅野秀剛(千葉市美術館館長) 備前 信子(芸員)

【上巻】新発売(九組二二九図)
艶色真似系もん 奥村政信
色道十二番 島居清長
歌まぐら 喜多川歌麿
ねがひの糸ぐち 喜多川歌麿
富久寿楚子 葛飾北斎
恋模様 菊川英山
吾妻源氏 歌川国貞
華の語り 菱川師宣

【下巻】新発売(九組一〇五図)
風流座敷八景 鈴木春信
色道取組十二番 磯田湖龍齋
袖の巻 島居清長
拝開よぶこどり 勝川春章
好色図会十二候 勝川春潮
絵本小町引 喜多川歌麿
春の薄雪 漢斎英泉
浪千鳥 葛飾北斎
閑屏風 島居清信

定価各14,800円(税込)

【造本・体裁】B4変型判/横本(257×330ミリ)表紙=布製上製
箔押し/ケース(布貼)縦本形式/140頁(4色カラ-92頁)

※カタログのご請求はハガキで。※ご注文は、最寄りの書店へ。
【学研】販売局 〒145 東京都大田区上池台4-40-5

5月再版決定
予約受付中!

HANS J WEGNER ON DESIGN



誰よりも木の持つ美しさを、優しさを、知るクラフトマン
として、世界中の人々に愛される椅子を創り続けてき
たハンス・J・ウェグナー。「木肌の優しさは人の肌にな
ている」というウェグナーの言葉は、木の美しさを極めた
「職人」としての作品に象徴されている。
本書では作品の紹介にとどまらず、製作プロセスや製作図、
そしてウェグナーのデザインに対する理念や目標に至るまで、その
技術と伝統のすべてを紹介する。

デンマークデザインセンター 編
リビングデザインセンター 発行



光琳社出版

〒602 京都市上京区元誓願寺通油小路東入ル
TEL.075(441)3177~8・6793 FAX.075(441)9095



ガレ トンボ・睡蓮文花瓶 H:63cm

株式会社 ギャラリー・ヌーヴォー

絵画サロン

本社オフィス

東京都港区六本木3-16-12 KSビル1・2・3F

TEL 03-5562-0660(代)

FAX 03-5562-0770

AM10:00-PM6:30 H・祝定休

アール・ヌーヴォー

絵画サロン

GN Gallery NOUVEAU
ギャラリー
ヌーヴォー

齋鹿 逸郎 展

白と純白とのあひだ

会期:1995年6月25日[日]~7月23日[日]

〈水曜日休館〉

会場:米子市美術館

〒683 鳥取県米子市中町12番地

TEL.0859-34-2424

協力:古心堂画廊

〒113 東京都文京区湯島3-37-4

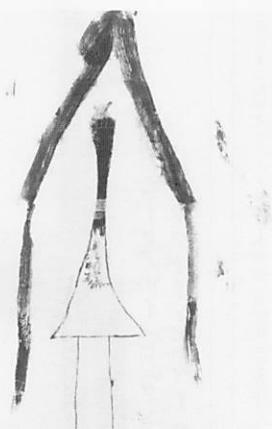
TEL 03-3831-2641 FAX 03-3834-0068



白い宴 82.0×51.0



白い誘ひ 83.5×47.5



菅井汲 少女 1956年 グワッシュ 59.5×43cm

今月の展示

川 俣 正
坂 本 善三
白 髪 一雄
難波田龍起
吉 原 治良

11:00a.m. - 7:00p.m.

水曜休廊

橋近代画廊

〒160 東京都新宿区新宿3-15-16 ☎3352-7731

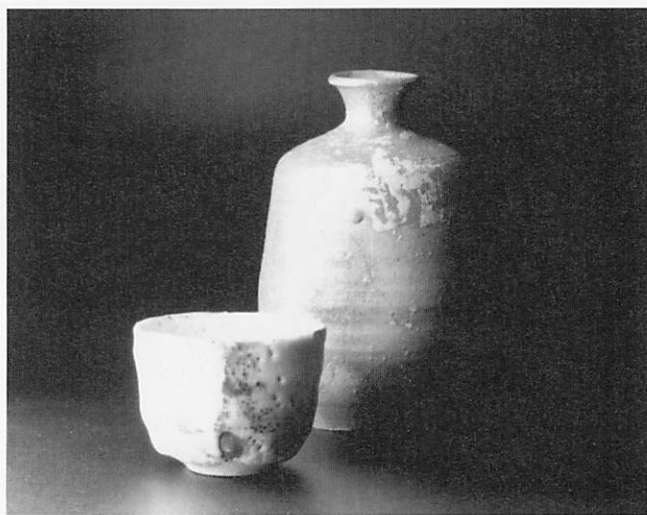


坂本繁二郎「月」8号 1965年作
《坂本繁二郎作品全集》朝日新聞社版掲載

絵画・陶磁・古美術

EI ZEN DO
永 善 堂

〒104 東京都中央区銀座7-2-11
電話 東京 03 (3573) 0505 (代)



岡部嶺男 志野ぐいのみ / 北大路魯山人 備前徳利

展覧会
昭和の陶芸名品展
4月4日(火)－9日(日)

 **黒田陶苑**
Ceramic Art Since 1915

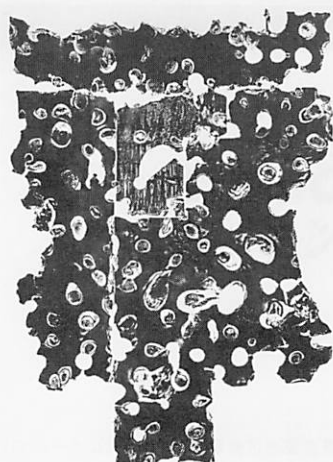
株式会社・黒田陶苑/〒104東京都中央区銀座7-8-6
TEL.03-3571-3223(代) FAX.03-3571-2577



鴨居 玲
「ナザレのおばさん」20号

心と眼を大切にする
至峰堂画廊

本店 〒542 大阪市中央区東心斎橋1-17-20 TEL.06-245-0858 FAX.06-245-0830
淀屋橋店 〒541 大阪市中央区北浜3-1-14 ユニ淀屋橋ビル TEL.06-232-1363 FAX.06-232-2058



加納 光於
「Untitled」
74×55cm 1964
メタルプリント

ギャラリー **アサダ**

名古屋市中種区法王町2-5(ルナプラザ2F)
TEL.(052)762-7231 FAX.(052)762-7215

セントラルギャラリー

心齋橋ディックギャラリーにて開催

—— 赤 絵 ——

森 一蔵 作陶展

会期 4月13日(木)～25日(火)

11:00am～7:00pm

会場 ディックギャラリー

〒542 大阪市中央区心齋橋筋1丁目5番24号
ディックプラザ心齋橋2F TEL.(06)252-7580

山口啓介 ダイアリー 1988～1991 補遺

山口啓介が1988～1991年にかけて製作した
未発表エッチング全28点を発売中。大版
サイズ4点をふくむ全点収録の図録あります。

北堅吉彦 展 NEW PAINTINGS

'95 4月3日(月)～22日(土)

ギャラリー **池田美術**

東京都中央区銀座1-8-8 渡辺ビル
TEL.03-3567-5080 日曜・祭日休 11:00～19:00

フランス19世紀から現代まで 素描・水彩小品展

1995年 4月17日(月)～5月2日(火)



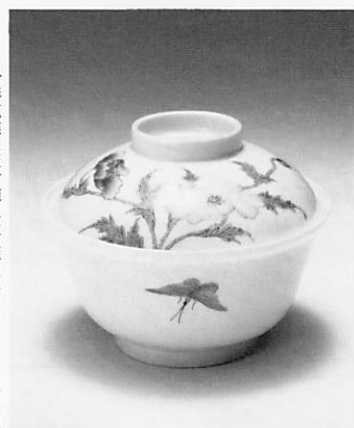
F. プルボー
「通りの情景」
鉛筆デッサン 21.5×28



19C フランス 絵画専門(直輸入卸部有)

下総屋画廊

〒260 千葉市中央区新田町2-19
山口ビル5F ☎・FAX 043-246-8581
OPEN 10:00～17:00 日・祭日休廊



粉彩花蝶文蓋付碗 大清雍正年製銘 高12、3 ㎝

池 正

中国美術・古陶磁・金石・古家具・ガラス

〒106 東京都港区麻布十番1-7-1 ヨーロッパハウス6階

IKEMASA Ltd. 電話 03-3403-1007 FAX 03-3403-8370



梅原龍三郎「雲中鶴」 43.5×33

小森

名古屋市中区東桜1-10-29 パークサイドビル8F
(栄NHK北西) Tel.052-951-5550

アール・ヌーヴォー/アール・デコ



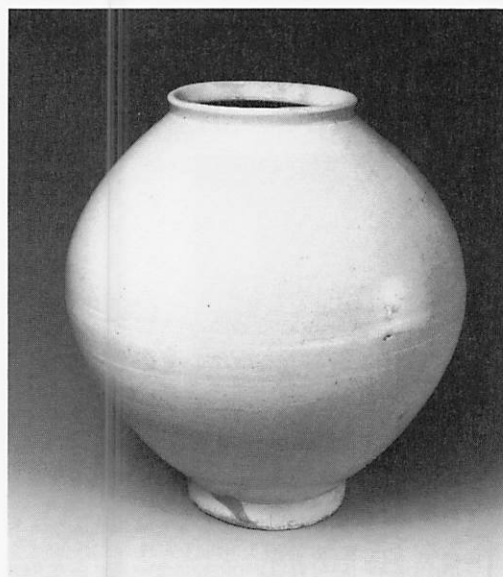
ガレ工房 夾竹桃文ランプ 高さ:60cm

Belle des Belles

—ベル・デ・ベル—

●本店 東京都港区北青山3-6-1ハナエ・モリビルB1 ●骨董通店 東京都港区南青山6-2-2南青山ホームズ104
TEL.3499-2420 FAX.3499-4178 TEL.3499-2406 FAX.3499-2407
木曜定休 A.M.11:00～P.M.7:00 日祭定休 A.M.11:00～P.M.7:00

商品買入れ致します。



李朝白磁壺

現代工芸 花器展

1995年4月10日(月)～5月20日(土)

(午前10時30分～午後6時・日曜と4/29～5/7休み)

万葉洞 七丁目店

新古美術 万葉洞

みゆき店 東京都中央区銀座6-3-2(ギャラリーセンタービル)
☎03(3575)4790 FAX 03(3289)5366
7丁目店 東京都中央区銀座7-3-13(ニューギンザビル)
☎03(3571)5337
新潟店 新潟市西堀通り7(ホテル・イタリア軒内)
☎025(224)5665

PEAK



ここにご紹介する天眼鏡は、世紀末かの名探偵シャーロック・ホームズが愛用した天眼鏡と、その外見において似ていますが、ピーク・アクロマ・ルーペはその機能において大いに異なり、名探偵がその活眼をもってしても得ることができなかったより一層正確な情報を貴方に伝達いたします。

なぜなら、この種の天眼鏡では、はじめて2個の光学硝子レンズを接着した新設計の色消レンズが採用されているからです。このレンズを通して見る像は色の滲みがなく輪郭が鮮鋭で全視野にわたってあいまいな線がありません。

—その他、お役に立つルーペ—

東海産業株式会社

〒113 東京都文京区湯島3-24-2 ☎03(3834)5711

●カタログ¥600円



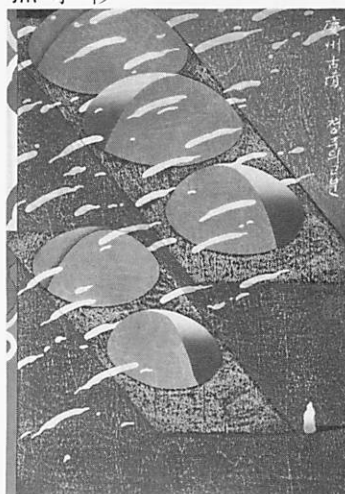
横山大観 竹雨

墨蹟資料目録発行 お問合せは本社まで

古美術 株式会社 思文閣
絵画

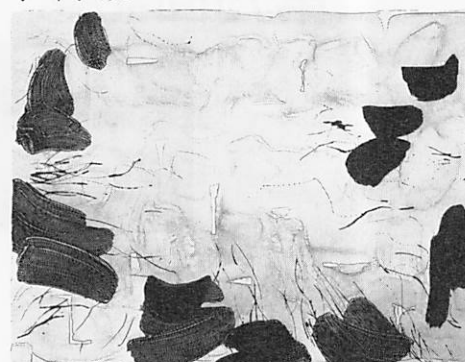
本社／京都市東山区古門前通大和大路東入 ☎(075)531-0001
美術館／京都市左京区田中関田町2の7 ☎(075)751-1777
東京店／東京都中央区銀座6丁目11の10 ☎(03)3289-0001
名古屋店／名古屋市中村区名駅5丁目4の14 ☎(052)564-0001
九州店／熊本市九品寺3丁目17の24 ☎(096)371-0001

黒崎 彰



『韓国心象』
木版画集8点セット
1987年
56×42cm(紙サイズ)

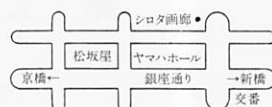
李 禹 煥



「島より8」
カーボラダム
1989年
52×69cm

シロタ画廊

東京都中央区銀座7-10-8 〒104
TEL (03) 3572-7971 AM11-PM7
FAX (03) 3572-7972 (日曜休)



ルイ・イカルなら、お任せください。

アールデコの華 Louis Icart



「二人の美女」43×63cm

常時200点以上をコレクションする日本最大級の専門ギャラリー、表参道にオープン！

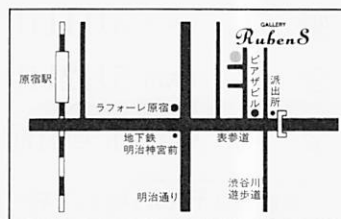
人気作品から稀少作品まで多彩に取り揃え、専門店ならではの品質と価格でご要望にお応えいたします。

GALLERY
Rubens
ギャラリー ルーベンス

〒150 東京都渋谷区神宮前4-28-11 クレール・ミキ2F

お問合わせは Tel.03(3478)8851

11:00AM~7:00PM(月曜日休廊)



第91回
公募

太平洋展

彩
刻
画
織
油
水
彫
版
染



搬入 5月10日(水)・11日(木) 会場 東京都美術館
会期 5月20日(土)～30日(火) 巡回展 福岡・大阪・名古屋・神奈川
〈初日は1PM開会：最終日3PM閉会〉

生徒募集 太平洋美術研究所
油彩・彫塑・版画

出品規定書は〒200円封入し、研究所規則書は〒200円同封にて下記へお申込み下さい。

社団法人 太平洋美術会 〒116 東京都荒川区西日暮里3-7-29 ☎03(3821)4100 FAX03(3821)7319

第75回記念 創立 大正7年 女流公募

朱葉会展

油彩
30～130号

水彩
20号以上

版画
6号以上

会期：6月1日(木)⇒6月10日(土) 会場：東京都美術館
搬入：5月23日(火)・24日(水) 出品料：3点まで8,000円
(AM9:30～PM4:00)

●出品規定190円切手封入、右記へ 事務所 〒164 東京都中野区中野3-20-8 内手マンション101 ☎(03)5340-4636



1995
第61回

旺玄会展

作品公募＝洋画・日本画・版画

搬入 平成7年 5月11日(木)・12日(金) 出品料 1人3点迄8,000円 1点増す毎に2,000円
会期 平成7年 5月21日⇒5月30日 秋 田/6月7日～6月12日 アトリオン美術展示ホール
会場 東京都美術館 <巡回展> 名古屋/6月21日～6月25日 愛知県美術館
大 阪/7月11日～7月16日 大阪市立美術館

※詳細は〒120円封入、下記へお申込み下さい

旺玄会〈事務所〉 〒250-06 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原104 勝俣 睦方 TEL.0460-4-7279

美術骨董品 書画軸買受け

新画・古画・茶道具・茶掛

錦絵 書幅 絵巻物 明治版画 陶器
漆器 考古美術品 唐銅ブロンズもの
蒔絵もの 笙・笛・鼓など和楽器 鎧兜
時代衣装 仏教美術 木竹工芸品 等



●御蔵品のご整理は是非当店で御相談下さい。
お電話載き次第参上致します。

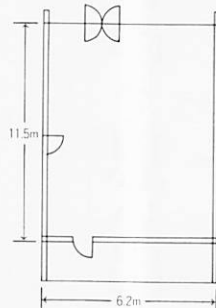
写楽堂 〒165 東京都中野区江古田1-40-14
☎03(3386)0946 FAX03(3386)0950
※営業時間AM10時30分～PM6時30分



青羅
美術会館

ギャラリー青羅
3月下旬OPEN!!
予約受付中

- 1会期6日間(月～土)
祝日休まず
- 使用料1会期400,000円
継続2会期650,000円
- am11:00～pm7:00
(最終日はpm6:00)
- 壁面延長30m
- ご希望の方には、使用規定
お送り致します。



〒140 東京都中央区銀座3-10-19 美術家会館1F TEL.03-3542-3481
FAX.03-3542-3483

貸画廊 申込受付中

ギャラリー8

申込電話/ファックス▶03-3232-7285

使用料 1日20,000円

- 会場はビル1階、新装20坪
- 交通至便、JR線等高田馬場駅前(徒歩30秒)

〒169 東京都新宿区高田馬場1-34-5 八光ビル1F 会場直通電話03-3208-0008

GALLERY KUBOTA 貸画廊予約受付中/03-3563-0005

(5F 特別料金受付中)

会場は1F～5Fまで5フロアー有り
★会期中の空箱の収納場所がございます

使用期間/原則として月曜日～
日曜日の7日間(祝祭日可)

使用時間/AM11:00～PM7:00
(最終日PM5:00まで)

壁 面/1F (47.75m)
2F～4F (50.16m)
5F (55.42m)

★5F料金1日30,000円

★案内書を御希望の方は下記へお申し込み下さい。

ギャラリー くらぼた

〒104 東京都中央区京橋2-7-11
クボタビル TEL.03-3563-0005



彫刻——'95公募 第44回 創型展

- 種 目 彫 刻
- 搬 入 5月2日(火)・3日(祝)
- 会 期 5月9日(火)⇒5月19日(金) (最終日は2時間会)
- 会 場 上野・東京都美術館 <5/15休館>
- 出品料 1人2点まで6000円

※詳細出品規定は80円切手同封の上、事務局まで申し込み下さい。

創型会事務局

〒335 戸田市美女木2-14-2 入江 勇方 TEL.048-421-7757



斬新なビジョンの実験の場

作品公募

1995、第38回

MOVEMENT

平面↔立体

THE EXHIBITION OF MOVEMENT

- 新象展は現代美術の発信基地です。
- あなたの仕事は観念の感覚化ですか、感覚の観念化ですか。
- 貴方のクリエイティヴな実験の場新象展。
- 行為と存在と観念をどんな関係でとらえていますか。

会場 東京都美術館

会期 6月1日～10日

搬入 5月26日(金)・27日(土)

★出品規定詳細は80円切手5枚同封の上、下記へお申し込み下さい。

〒114 東京都北区東田端2-12-14 第2東田端ビル202

新象作家協会事務局 責任者 内藤圭介

TEL.03-3800-1470

ノーベル賞作家の最後の小説、ついに完結！

大いなる日に

燃えあがる緑の木 第3部

大江健三郎



ギー兄さんを襲う災難、巨大化とともに分裂の危機に瀕した「燃えあがる緑の木」教会、大いなる結末。現代人の魂の救いを描く壮大なライフワーク、完結！

定価1900円

12のトイレ

村田喜代子

30日発売

女の子って忙しいのです。だって四六時中トイレのことが気にかかるんですもの……。成長期の少女の心の壁をトイレを通してファンタジックに描く連作。

定価1500円

青い扉

藤堂志津子

30日発売

香西レイは札幌の短大の文芸部員、十八歳。女友達の特別な好意や大人の世界への誘惑に戸惑いつつ、人生の扉を開いていく。甘い毒にみちた旅立ちの物語。

定価1300円

文学交友録

庄野潤三

30日発売

いが栗頭の学校の生徒であった頃から、何らかのかたちで文学の刺激を与えてくれた師友——著者を著者たらしめた人々をふかふかと回顧する心あたたまる本。

定価1700円

静けさの中で思い出された感情

井上一馬

27日発売

あの夏、僕は人生の意味を問い続け、深い森の中を彷徨っていた。東京、そしてパリ——何かを求めて生きる23歳の青春を、鮮やかに描く自伝的ストーリー。

定価1200円

君を送る

赤川次郎

くびを宣告された部長の送別会を開こうと奔走する新米OL深雪。恩人の部長へののほかな想いと、同僚の恋人との間で揺れる、ちょっぴり苦くて切ない奮戦記。

定価1000円

勝者こそわが主君

神坂次郎

保身遊泳術の天才・藤堂高虎、情報収集と分析の名人・細川家……乱世を機敏に生き抜いた男たちの物語ほか、歴史から興奮と教訓を発掘した痛快な短編集。

定価1400円

木村家の人びと

谷 俊彦

明けても暮れても金儲け、守銭奴一家の呆れた生態を描いた抱腹絶倒のファミリー・ピカレスク・ロマン!! の逸品表題作ほか二編を収める。著者初めての作品集。

定価1500円

富士山の身代金

藤山健二

最初は一笑に付された。まさかそんなことが富士山頂の測候所から発信された狂気の脅迫電話は、この山の再噴火を宣言した！ 驚天動地のサスペンス。

定価1400円

崩壊曲線

羽場博行

Xデーハ計算サレタ。後ハ破壊アルノミダ。謎の侵入者、仕掛けられる細工、衝撃の事故、驚くべき陥穽。完成間近の巨大な人工島が翻弄されはじめた……。

定価1500円

たけしの死ぬための生き方

ビー・ト たけし

27日発売

たけし、再生！ 病床で、療養先のオーストラリアで、傷ついた天才が見つめ続けた「生」と「死」。復帰を前に半年間の胸中を語り尽した、魂のメッセージ。

定価1100円

アンナ愛の日記

篠山紀信「撮影」

梅宮アンナ・羽賀研二

私が愛した人を、私たちの関係を、みんなに見てほしいの——アンナの途絶えた愛と告白。メキシコでの一週間、二人の過激な愛のシーンを篠山紀信が密写。 定価2800円

明日、広場で 港 千尋

写真集 1989~1994

歴史の天使は広場に舞い降りる……。ベルリンからグレプまで、デリダからラシュティまで、パリ在住の気鋭写真家II批評家が写した世紀末の東西ヨーロッパ。 定価3000円

あなたといた場所

ローリー・ムーア
古屋美登里訳

27日発売

目と目があつた時、心も通じていると思つていた——アメリカの若い女性作家が、新鮮な文章で描く、同世代の愛と孤独。優しくて、切実な、ラブ・ストーリー。 定価1900円

白い犬とワルツを

テリー・ケイ
兼武進訳

27日発売

恋愛は若者だけの特権ではない。ここに描かれた老夫婦のあいだにも生涯をかけたロマンスがあつた——詩的で、痛いほどにやさしい幻想的な小説世界。 定価1800円

キル

野田秀樹 最新戯曲集

モンゴルの大草原でミシンを踏むファッション・デザイナーの、世界征服の夢。恋愛、闘争のなかに生きた、疾風怒濤の人間模様。「透明人間の蒸気」を併録。 定価1500円

仏教とつておきの話 ひろさちや

春の巻

楽しみつつためになる一日一話、あわせて三六六篇。仏教の人生哲学をやさしくかんでふくめるように語る著者ならではの口話集成、とりあえずは春の巻。 定価1200円

ゆうやけとあさやけのあいだ 島田精治 絵と文

夕焼けと朝焼けの間にはなにが待っていると思いますか？ あなた自身の存在の不思議を探すファンタスティックな空間旅行。光の色彩で描く大人の絵本！ 定価1950円

河野多恵子全集
全10巻

不意の声 男友達／草いきれ

■第4回／第5巻

男との荒んだ生活が遂に破局を迎えたとき、女は亡父と対面した。父の示唆に従って、女はまず母親を殺害、次に……。読売文学賞受賞作「不意の声」他。 定価7000円

わかりやすい、
使いやすい、
すぐ役に立つ！
USEFUL, HELPFUL, AND HANDY DICTIONARY
簡明易懂、便捷好用、可助您一臂之力

INFORMATIVE JAPANESE DICTIONARY

日本語を 学ぶ人の辞典 英語・中国語 訳つき

易懂日语词典

監修 阪田雪子
編集主幹 遠藤織枝
編集 にほんごの会

日本語を読み、書き、話すために必要な11000項目収録——総ふりがなつき、やさしい語釈と豊富な用例でことばの使い方がよく理解できる。教える人にも便利な日本語辞典。

- ◆四六判 (191mm×130mm)
- ◆三方断ち切り表紙、カバーつき
- ◆1120ページ (前付14ページ、本文1074ページ、付録ほか32ページ)

好評発売中！
定価4000円

とんぼの本

新潮社のニュー・ヴィジュアル・ブック・シリーズ

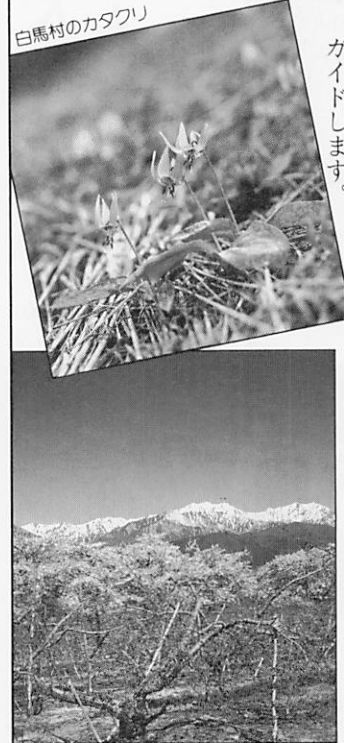
最新刊発売!

信州 花の旅

増村征夫

カラー88ページ モノクロ32ページ 定価1500円(税込)

複雑な地形をもつ信州は、多種多様な花に恵まれています。白馬のカタクリ、奥信濃の菜の花畑、高遠の桜、更埴のあんずの里など、長野県内から64コースを厳選。その見どころや歩き方をガイドします。



大町市観光道路の桜

好評の既刊より

- 安曇野 花の旅
これだけは見ておきたい桜
和菓子を楽しむ方
国宝
- 法隆寺千四百年
こんな面白い東京国立博物館
日本やきもの紀行
沖縄いろいろ事典
- 絵画入門 子どもと親の美術館
世界カリヨン紀行
インド神話入門
モーツァルトへの旅
ヴェネツィア案内
ホームズの
ウィクトリア朝 ロンドン案内
プロヴァンス 歴史と印象派の旅

定価1400~1600円(税込)「国宝」のみ定価2300円(税込)

大真実

Grande Verité

これからは生きるための43章

「真実」は分かち合うために存在する……世紀末から21世紀へ向けて開く43の「思索の扉」

新潮 4月臨時増刊 ■定価850円(税込) ■3月30日発売

主な項目 「存在」「霊」「幸福」「金」「身体」「恐怖」「美」「戦争」「繁殖」「民族」「友情」「ダンス」など、必須のキーワード39。

執筆陣 村上龍、小林康夫、宮城谷昌光、美輪明宏、尾辻克彦、模図かずお、内田春菊、渡辺和博、島田雅彦、渡辺守章、テリィ伊藤など、現代の最尖端を生きる才能が「定義」する。

グラフィック 「近代日本の肖像」
昭和天皇/岡潔/福本和夫/南方熊楠
頭山満/ミス・ワカナ
宮沢賢治/森田正馬
石原莞爾/市川雷蔵

三大対談

北野武/中沢新一
吉本隆明/道場六三郎
堀田善衛/大江健三郎

〔編集委員〕 中沢新一・赤間啓之・守中高明・香山リカ・上野俊哉

芸術新潮 '93年~'95年 刊行分 バックナンバー

取揃えておりますので最寄の書店にご注文下さい。もしくは①162東京都新宿区矢来町71新潮社読者係TEL03(3366)0111まで郵送料50円をそえてお申込み下さい。

定価1200円(定価・特別定価は税込です)

- | | |
|--------|--|
| 93.7月号 | 特集 日本文化を支えてきた相模の美術Ⅱ 相模美術大全「文」梅原猛他/千年湯Ⅱ諏訪Ⅱ新連載 ひらがな日本美術史Ⅱ橋本治 |
| 8月号 | 特集 好悪を超えたルノワールⅡ巨匠の生涯と作品に迫る ルノワール嫌いの私が推すこの一点他/南仏コート・ダジュール美術散歩 |
| 9月号 | 特集 現代建築家 安藤忠雄 伝統との対話Ⅱ自作を通して日本の伝統的建築の魅力を語る |
| 10月号 | 特集 山形・今神温泉/中平卓馬 沖繩を撮るⅡ |
| 94.1月号 | 特集 現地取材「ヴァチカン」王国 美術の財産Ⅱ2000年の歴史と熱烈な信仰に支えられたカトリック総本山の驚愕の世界Ⅱ |
| 10月号 | 大特集 人類の遺産 びくろり仰天建築の旅Ⅱ知られざる奇奇怪怪建築の数々Ⅱ「毛綱毅嶺」+「写真」藤塚光政/白洲正子×ワトソン対談 |
| 3月号 | 特集 常盤よ、さらばⅡ日本近代美術の10章Ⅱ大胆に変貌する近代美術史の新局面/井伏鱒二の絵仕事/日本ばちかん巡りⅡ生駒山系 |
| 4月号 | 特集 平安建都千二百年記念王朝貴族のホットな生活Ⅱ日記から再現する「源氏」の世界の厳しき実情/眼の狩人たちの肖像Ⅱ荒木経惟 |
| 8月号 | 特集 フォッショ写真の大冒険Ⅱ写真の天才たちが持つ技をつづり綴り上げた壮大な世界「文」草森紳一/千年湯Ⅱ那須温泉郷 |
| 9月号 | 特集 危うい浮世絵師 血まみれ芳年、参上Ⅱ幕末維新の乱世に憑かれたように「惨劇」と「怪異」を描いた男Ⅱ寂聴・流政之恋談義 |
| 10月号 | 特集 バリイ1874 印象派誕生に立ち会う旅Ⅱ印象派の旗揚げとバリイ大改造……揺れ動くバリイ・タイム・トリップ/藤山紀信 |
| 12月号 | 特集 「死」の万国博覧会Ⅱ日本人の想像を絶するヨーロッパ各地の豊饒な「死」の世界/北の聖家族・松緑神道大和山「文」山口文恵 |
| 95.1月号 | 創刊45周年記念特別号「貴重永久保存版」20世紀を決定した「眼」Ⅱ「眼」の世紀の究極のヴィジュアル・ショックを大総括!! 特別定価2000円 |
| 3月号 | 特集 日本人が見捨てた明治の美「置物」彫刻の逆襲Ⅱ明治の木彫王・高村光雲+海外取材明治輸出工芸の底力/「道祖神」に招かれて |

'93.11、'94.2、'95.6、'95.7、'95.12月号は品切れです。

浮世結句筆名品展

〈特別出品〉 王朝文化の華 歌仙絵

会期 平成七年四月十三日(木)～十八日(火)

会場 上野松坂屋 本館六階 大催事場

最終日は七時閉場



▶ 懐月堂安度 神功皇后図



▶ 英一珪 高輪大木戸より 富嶽遠望之図



▶ 葛飾北斎 恵比寿大黒図



▶ 享保期 京年中行事十二月 五月

お問合せ先

上野  松坂屋

南館7階美術画廊

〒110 東京都台東区上野三の二九の五
電話03(3833)1111 内線3611

(株)  村東軒

〒113 東京都文京区湯島四の六の十一
湯島ハイタウン1階
電話03(3815)0431、2

550

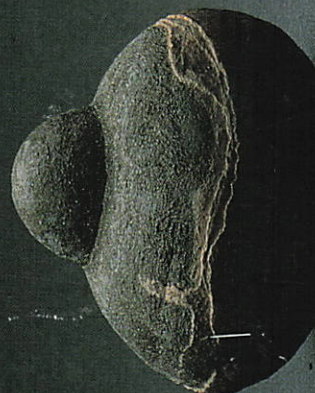
—見、オッパイのようなユーモラスなカタチ…

実はこれ、湖底などの泥土の中で、動物の骨から出たリンと、鉄がいっしょになって生成されたものです。

正式な名称は『藍鉄鉱』。

リンと鉄との遅遅とした結合。

自然はなかなか楽しいことをします。



知らなかった香りがある。
 知らなかった深みがある。
 「いいちこ」を極めた「いいちこスーパール」。
 酒の楽しみは、ここにあります。

三和酒類株式会社

大分県宇佐市山本・虚空蔵寺丁

PHONE 0978-32-1431

MASUTOMI GEOLOGY MUSEUM

飲酒は二十歳を過ぎてから。

